# 第Ⅳ章　下莇生田畑田遺跡（しもあぞうだはたけだ）

## 第１節　調査経過

### １　調査の概要

福井市下莇生田町畑田にある。

福井市下莇生田町は、上莇生田町の西にあり、国道８号線の東に隣接している東西に長い集落で畑田地区は集落の東端にある旧村社「白山宮」から水田をはさんで50ｍほど北側にある。

現状は水田中にある畑で通称「ウシロバタケ」と呼ばれている。

昭和56年度での調査区は、通称「ウシロバタケ」と呼ばれる畑に東に隣接した施工前の大町川の北側に隣接した地で、施工後には大町排水路になる予定地を調査した。調査区の設定は、南北に長い調査地を南から０区から３区までとした。各区は幅4.5ｍ、長さ26.5ｍの中に０区が3.0ｍ，３区が3.5ｍとなり、１・２区は10ｍとした。調査地の南北両端で基盤層となっている青灰色のシルト層を検出し、中央部では漆黒色の粘性の強い土が深く堆積していた。これらに土壙と溝が掘り込まれ、それらの遺構からは近世初頭と平安時代の遺物が出土し明らかに二つの時期の遺構を検出した。しかし遺構を検出した面に上下関係はなく、このことはすでに遺構の掘込まれた最上面が、水田にするために削平され、失われたためと理解した。

昭和57年度の調査は、前回の昭和56年度調査地の西に接した通称ウシロバタケと呼ばれる畑地である。昨年度の調査地は水路予定地であり、遺構が存在する微高地が水田になるために削平された畑地であった。

調査区の設定にあたり、10ｍ方眼を調査予定調査地全域に設けて10×10ｍを１区とした。その方向は、畑地の現況の区画と合わせるようにした。調査地の南東隅の杭を基準となるＡ１とし、北へＡ２～Ａ４、西へＢ１～Ｇ１とした。28ケ所設定した調査区は、南東隅の杭を調査区の呼称にすることにした。

調査は、南東隅のＡ１区から開始され、南側と東側に巾１ｍの土層観察用ベルト兼排土運搬用通路を残して順次西と北へ向い、Ｂ１・Ｃ１・Ａ２・Ｂ２・Ｃ２・Ｃ３区に着手した。Ｄ１とＤ４を結ぶラインを、遺跡を南北に切る土層観察用ベルトにし、ベルトから東側の７地区を先に実施し、西側については、７地区の終了後実施することにした。

昭和55年度に開始した県営緑農住区開発関連土地基盤整備事業に伴う調査は、遺跡の破壊を極力避けるよう実施してきたために、遺構まで達するような施工方法をとる用排水路についてだけ発掘調査を実施し、遺構に影響がない水田面は、調査対象からは外してきたが、畑田地区の昭和57年度調査では畑を削平して水田化するため調査のやむなきに至った。

終了後の調査区は、昭和56年度分として147.5ｍ$^2$、昭和57年度分としてＡ１・２、Ｂ１・２、Ｃ１・２・３、Ｄ１・２・３、Ｅ１・２・３、Ｆ１・２・３区の16区画の1600ｍ$^2$で総面積1747.5ｍ$^2$であった。


**第26図**　下蒡生田畑田遺跡発掘調査区位置図

2　調査日誌抄

１９８１（昭和５７）年

１１月　６日　本日より下莇生田町畑田での調査を開始した。調査区は水路幅で10ｍ毎に０～３区まで設定した。

１１月　７日　遺構の掘り下げに伴い、隆平永寶が出土した。

１１月　９日　中世のものと思われる小形の石硯が出土した。

１１月１１日　遺構を完掘し、写真撮影を終了した。

１１月１２日　平面図と断面図を作成し、昭和57年度の下莇生田畑田遺跡での調査を終了した。

１９８２（昭和５８）年

５月１７日　本日より畑田地区における昭和58年度の調査を開始した。テントの設営と発掘器材の搬入後、調査区を設定した。

５月１８日　福井平野での微高地の調査は、過去においての例が少なく遺構検出面の推定が困難であったために重機による表土の除去は取りやめ、南東隅のＡ１区から人力で開始した。

５月１９日　Ｂ１区の表土除去作業を開始した。

５月２０日　Ｃ１区の表土除去作業を開始した。

５月２１日　Ｄ１・Ｅ１区の表土除去作業を開始し、上層の遺構面検出も終了して整地面を検出した。Ｃ１区の遺構面の検出作業をし、須恵器が多く出土した。

５月２２日　Ｆ１区の表土除去作業を開始した。

５月２４日　Ｄ２・Ｄ３区の表土除去作業を開始した。

５月２７日　Ａ１・Ｂ１・Ｃ１区の遺構検出をほぼ終了し、溝等の遺構の掘り下げを開始した。

５月２８日　Ａ１区の平面図を作成した。Ｃ１区北半で、小さな玉砂利敷きの整地面を検出した。その下には平安時代の落ち込みを確認した。

５月２９日　Ｂ２・Ｃ２区の表土除去作業を開始した。

５月３１日　Ｃ１区で検出した石敷遺構の延長を探すため、Ｂ２・Ｃ２区の表土を除去したがわずかに石敷きが検出されただけで明確ではなかった。Ｃ１・Ｂ２区の遺構の上面を掘り下げた。

６月　１日　Ａ２・Ｃ３区の表土除去作業を開始した。

６月　２日　Ｆ１区の表土除去作業を開始した。

６月　７日　Ｂ２・Ｃ１区の井戸を掘り下げた。Ｂ２・Ｃ２区でも石敷遺構を確認し、検出作業をした。

６月　９日　Ｅ２区の表土除去作業を開始し、Ａ１区の井戸を掘下げた。

６月１０日　Ｅ３区の表土除去作業を開始し、Ａ２・Ｂ２区の土壙とＢ２区の井戸を掘下げた。

6月１１日　Ｆ２区の表土除去作業を開始し、Ｂ２区では平面図を作成した。

6月１４日　Ｆ３区の表土除去作業を開始した。石敷遺構は、検出全面にわたり検出し、清掃後に写真撮影した。

6月１５日　Ａ１・Ｂ１・Ｃ１・Ａ２・Ｂ２・Ｃ２区の写真撮影ため清掃し、終了する。

6月１６日　Ａ２・Ｂ２・Ｃ１区井戸を掘り下げ、Ｂ１・Ｂ２区溝の写真撮影した。

6月１８日　Ａ１区Ｂ１区２層掘り下げた。

6月１９日　Ａ１・Ａ２・Ｂ１区２層掘り下げＡ１・Ｂ１区から多くの遺構が検出された。Ｃ１・Ｃ２・Ｃ３区１層直下の実測のため、水糸を設定した。

6月２１日　Ｃ１・Ｃ２・Ｃ３区の平面図を作成し、Ｂ２区井戸を写真撮影した。

6月２２日　Ａ２・Ｂ２区２層の掘り下げて遺構を検出した。

6月２３日　Ｃ２区２層を掘り下げ、Ａ１・Ａ２・Ｂ２区の土壙も掘り下げて清掃した。

6月２４日　Ｂ２区の平面図を作成し、Ｃ２・Ｃ３区を掘り下げた。

6月２５日　Ｃ３区２層掘り下げ、Ａ１・Ａ２・Ｂ１・Ｂ２区２層遺構上面の平面図を作成した。

6月３０日　Ａ１・Ａ２・Ｂ１・Ｂ２区の遺構を掘り下げた。

7月　１日　Ｂ１区のＳＥ－036井戸から多量の茅と木材の炭化材が出土した。

7月　３日　Ａ１・Ｂ１区２層直下の平面図を作成した。Ａ２・Ｂ２区の遺構を掘り下げた。

7月　５日　Ａ２・Ｂ２区２層直下の平面図を作成した。Ｃ１・Ｃ２区の遺構を掘り下げた。

7月１５日　Ｅ・Ｆ区の土層観察用の土手を外し、Ａ１・Ａ２・Ｂ１・Ｂ２・Ｃ１・Ｃ２・Ｃ３区２層で新たに検出された遺構の平面図を追加実測した。

7月１６日　Ａ～Ｃ区の平面図作成を終了し、撮影のため清掃した。

7月１７日　Ｄ・Ｅ・Ｆ区１・２層Ａ・Ｂ・Ｃ区３層を掘り下げて遺構を検出し、Ａ・Ｂ・Ｃ区の遺構を掘り下げた。Ａ～Ｃ区を撮影のために清掃した。

7月１９日　Ｄ１区を中心としてＤ２・Ｅ１・Ｅ２区の遺構を掘り下げた。

7月２７日　Ｂ１・Ｂ２区３層を掘り下げた。

7月２８日　Ｄ１・Ｄ２区３層を掘り下げた。

7月２９日　Ｄ３区３層を掘り下げた。

8月　３日　Ｅ１・Ｅ２区３層を掘り下げた。

8月　５日　Ｅ１・Ｅ２区で検出した大きな落ち込みを精査した。

8月　６日　Ｂ１・Ｂ２・Ｃ１・Ｃ２・Ｃ３・Ｃ４区の清掃した。Ｄ１・Ｄ２・Ｅ１・Ｅ２区を写真撮影した。

8月　９日　Ｂ１・Ｂ２・Ｃ１・Ｃ２・Ｃ３区３層の平面図を作成した。Ｄ１・Ｄ２・Ｄ３・Ｅ１・Ｅ２区に実測のための水糸を設定した。

8月１２日　標準的なＣ１区のＳＥ－501井戸を断割り、写真撮影と土層図を作成した。

8月１３日　下茹生田畑田遺跡の調査を終了し、撤退した。　（山口）

## 第２節　遺構

### １　遺跡概説

下莇生田畑田遺跡は、福井市下莇生田町字畑田にある。

調査着手前の遺跡の現況は、約2400ｍ$^2$の畑であった。福井県福井耕地事務所作成の縮尺1／1000の現況図によると、畑が海抜8.48～8.36ｍ、周囲の水田が海抜8.40～8.14ｍであった。しかし、現状は水田と畑の比高差が大きく0.2～0.6ｍほどあった。昭和56年度で調査した部分は、畑を削平して水田にしたところで、地元の古老の話によれば戦前はより広範な畑であったという。

現在集落が立地している自然堤防とは明治年間の小全図でも接続しておらず、独立した微高地になっている。そのため人為的に切り離されたとは考えられない。

遺構の検出面までの層位は、最上層が畑の耕作土で粘性の強い茶褐色土であった。層厚は、耕作物の影響により極地的な変化はあったが、下層の境界にあたる面は一定しており、0.14～0.38ｍであった。

耕作土から掘込まれた落ち込みは、現代のもので、ビニール等が出土し家庭の生ゴミを肥料として埋められたもの痕であった。

耕作土の下には暗茶灰色を呈した土があり、カーボン粒子や砂等がわずかに偏在して混じっていた。この土層の上面からは、多数の落込みを確認したが、耕作土から掘込まれた穴が耕作により上半を欠き、耕作土の下にまで達していた穴の下半がほとんどであり、まれにⅡ層もしくはⅢ層直上から掘込まれた遺構の痕跡があった。

Ⅱ層の上面から精査していく過程で順次遺構を検出した。

Ｄ１とＤ４を結ぶ幅1.0ｍの土層観察用ベルトから西側は、ベルトに沿って着手し、東側と同様にＤ１・Ｄ２・Ｄ３・Ｅ１・Ｅ２・Ｅ３・Ｆ１・Ｆ２・Ｆ３区を第Ⅰ層から除去した。層序は東側と同様のⅠ層．Ⅱ層が堆積していた。Ⅲ層においては砂を含む土層として基本的に一致していたが色調、粘性、硬さにおいて変化があり同一層とは考えられなかった。又西へよるほど、砂の混じるⅢ層はなくなり、それにかわってⅡ層直下には、褐色を呈した粘性の強い土層があった。

なお501号井戸の断面を写真撮影するために地表から約３ｍ下まで広く掘り下げた結果、旧河道を検出した。旧河道は、上莇生田遺跡の第Ⅰ次調査・上莇生田遺跡江跨地区・上莇生田遺跡八ケ坪塚町地区で確認されてきた旧河道の延長上にあり、幅10～20ｍであろうと推定される。深さは３ｍ以上であった。

調査された部分は、なだらかに落ち込む河岸の肩にあたり河底では中期弥生式土器が出土している。３層にも見られた砂を含む層は旧河道の位置とほぼ同じ範囲に広がり、旧河道が埋没した後も流路として残ったものと思われる。

Ａ１区・Ａ２区は、今回設けた調査区の一番東側にあたり、昭和５６年度調査区の西側にある。

遺構は井戸12基・柱穴13・不明遺構43を検出した。

２層中に遺構面があった。２層は、暗茶灰色を呈したややしまった土層で、１層を通過した水分が一時停滞するため、金属分（鉄分）が残っている。２層中で遺構は検出されているが、層中の一面で検出したのではなく、各々が同一の層中にありながら上下関係にある。そのため同一面で検出して、遺構相互の関係を把握することはむずかしい。

36号井戸からは約１ｍまでに多量の茅と径0.05ｍ内外の木材が炭化して出土し、火事で焼けおちたものと思われたが、井戸底までは達しておらず、半分ほど埋没させた後に、投棄して燃しており、縄、握り飯等も混じっていた。

Ａ２区からは直径0.15ｍ内外の丸太を柱根としてのこす柱穴が44・45・46・55・58号柱穴(第33図 44･46･55･58)にあり、その他にも笏谷石（緑色凝灰岩）製品やその破片を礎石として柱穴の底にすえたものもある。Ａ２区を中心になんらかの建物があったものとおもわれる。

性格不明遺構の中で33号等のように径１ｍをこえるようなものには、焼土塊が多量に出土するものがある。

Ｂ１・Ｂ２区で検出した遺構はＡ１・Ａ２区と同じ２層中からである。遺構は井戸15基、柱穴30、溝７条、不明遺構57と、Ｃ１区で明確に検出した石敷路の石敷部分が一部のびている　134号井戸（第33図 134）の平面形が井戸本体と崩壊による変形がはっきりと見られる。このように片側だけが崩壊した例は少なく、ほとんどは周囲すべて崩壊していた。又近接する168・169号井戸(第33図 168･169)のように互いに引合い崩壊するようである。

Ｂ１区には柱根をのこす93・101・113・115号柱穴(第33図 93･101･113･115)とその他の柱穴が集中する。又Ｂ２区北半分にも多い。この２個所には建物が存在している。

Ａ・Ｄ・Ｅ・Ｆ・Ｇ・Ｈ・Ｉ溝（第33図 Ａ･Ｄ･Ｅ･Ｆ･Ｇ･Ｈ･Ｉ）がある。これらは排水路と考えられるが溝底の高低はほとんどない。Ｉ溝(第33図 Ｉ)は石敷路の片側に沿わせて掘らせた溝であり、道路に付属する排水路と思われる。この溝がＢ２区の半ばで消えており道路もそこで終っているのであろう。Ａ溝(第33図 Ａ)もＣ２区から連続しているものであった。

石敷路は170号井戸(第33図 170)の上面を覆ってのび、図示されない延長上にもわずかに散乱する円礫が検出されたが、面として広がるものではなかった。

Ｃ１・Ｃ２・Ｃ３区で検出した遺構は２層中からである。遺構は井戸８基、柱穴20、溝７条、石敷路１、不明遺構48であった。

井戸はＣ１・Ｃ２区にだけあり186・188号井戸(第33図 186･188)を除けば、大きな崩壊をまぬがれてほぼ旧状を保っていたと思われる。特に194号井戸（第33図 194）は崩壊がなかったと思われる。又186号井戸（第33図 186）は大きく三段に崩壊していた。これは井戸を使用しなくなってすぐに埋めたものと、埋めずに自然崩壊する期間があったものの違いであろう。

Ｃ２区に柱穴が集中しており、柱根をのこすものは226号柱穴(第33図 226)のみではあるが建物の存在がうかがえる。

198号柱穴(第33図 198)は、壁の崩落がほとんどないしっかり方形で底からは地鎮具として使

用された六器・袋(小把)・鞆が出土している。

A・B・C・I・G・K・L溝(第33図 A・B・C・I・G・K・L)の中でA・I(第33図 A・I)溝はC2区にのびていた溝の延長である。K溝(第33図 K)は2層をほぼ除去しての検出であり、最下面の遺構と言える。他の溝とは幅が広く、底面も広く平坦であった。C1区の北端で直角に納めており、排水のためとは考えられない。

石敷路(第33図)は2層最上面で検出された。下にいくつかの遺構と重なっている。通路は南端を水田に切られC1区で北にむかい途中からY字状に北東と北西にわかれている。北西にのびるものはC1区内で石敷がなくなっているが、沿わせて掘られたI溝(第33図 I)はC3区から先に北にのびている。

D1・D2・D3区から検出された遺構は、井戸15基、柱穴69、不明遺構92であった。これらはすべて2層中からの検出である。

井戸は柱穴と同様の分布を示した。D1区の267号井戸(第33図 267)は発掘時に悪臭になやまされ、便所ではないかと考えられた。近年一乗谷朝倉氏遺跡で確認された便所を発掘時には悪臭になやまされていると聞く。

柱穴はD1区に集中し、柱根をのこす286・287・289・313号柱穴(第33図 286・287・289・313)がある。この他にも重複する方形の柱穴が17ケ所にあり、建替えがかなりあったものと思われる。

E1・E2・E3区から検出した遺構は、井戸4基、柱穴13、不明遺構59であった。

462号井戸(第33図 462)は正方形の平面形を下端までもつ唯一の例である。E1区の東半にある柱根をもつ柱穴は、D1区と関連をもつものと思われる。

E1・E2区にまたがっている大型の長方形の落込みは深さ0.1～0.15mほどで北辺で消えている。これがどのような性格をもつものかは確定されない。D・E区には9～10世紀にかけての須恵器と瓦が出土しており、それらとの関連を考慮する必要がある。又D1・E1区に柱穴についても同様である。F1・F2・F3区についても1層の除去後に遺構の検出を試みたが遺構はなく、遺跡の西限を確認した。

E・F区のある遺跡の西側では中世から江戸にかけての遺物が極端に減少し、代わって律令期の遺物が多くなっていた。56年度に調査した結果と合わせてみると、遺跡は中高の微高地に律令期の集落が営まれ、中世から江戸にかけて中央の高い部分を削平、整地してなんらかの生活があったと思われる。それは、律令期の遺構と遺物が遺跡の縁辺にだけにしか検出されたことからも明らかであろう。

今回の調査では、井戸54基・柱穴172・石敷路2・溝状遺構13条・不明遺構を検出した。

これらの遺構相互の関係の把握は困難であったが、中世の末期から江戸時代の初期にかけて石敷の道路に沿って建物が立ち並んでおり、各建物には井戸が付設されていた事が想定される。ここにおける建物は、一般的な農業村落を構成する農家としては、井戸が一時的な使用にしか耐えられず、恒常的な農家とは考えられない。 (山口)

2　遺構各説

1　井戸（第33図）

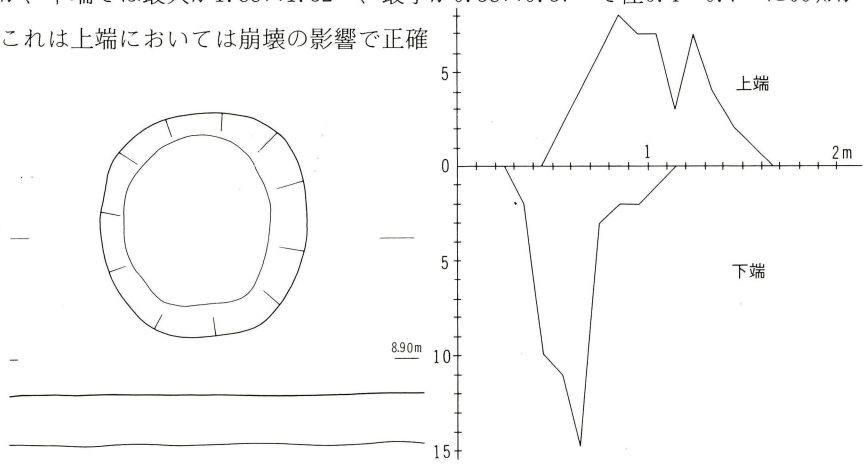
今回の調査では54基の井戸が検出された。ここで井戸とした遺構は、掘り込まれた状態が筒状で深さが２ｍ弱のものを主に抽出した。筒状の掘り方は井戸底までに段を持つものと、持たないものがある。

すべての井戸に共通することは、素掘りで、崩壊を防ぐなんらの施設も検出しえなかったことである。井戸底まで掘り上げた後一日もたたずして崩壊が始まり、周囲には近よれる状態ではなかった。井戸底の湧水面付近の井戸枠もなく、湧水に伴ない当然崩壊するのである。

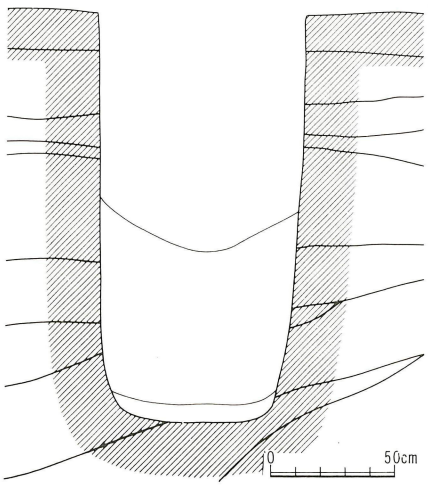
これらの井戸の周囲で井戸屋形の痕跡を精査したがやはり検出されなかった。

井戸の規模は上端で最大が径2.36×232ｍ、最小が径0.57×0.56ｍであった。上端の規模にばらつきが目立つが、下端では最大が1.88×1.32ｍ、最小が0.38×0.37ｍで径0.4～0.7ｍに66％が集中していた。これは上端においては崩壊の影響で正確な旧状を把握しえないが、下端においては底部であるため崩壊はほとんどなかったことにより旧状に近い数値を計測しえたためであろう。崩落を考慮するならば上端は１ｍを超えることがなかったと考えるべきものが大半を占めるのであろう。

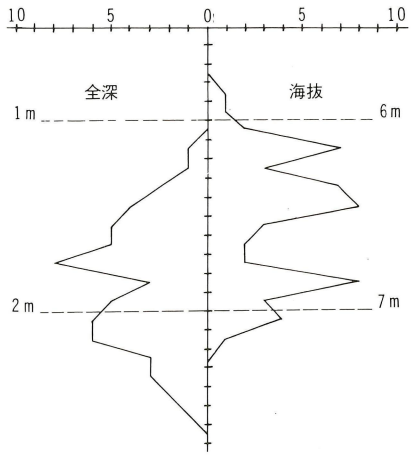
井戸の底は使用目的を果すには湧水層まで達することが必要であり、それが海抜７ｍ以下であって、湧水層




**第28図**　下苅生田畑田遺跡
井戸上・下端径計測グラフ




**第27図**　501号井戸実測図




**第29図**　下苅生田畑田遺跡
井戸底深さ・海抜計測グラフ

を探り当ててそれ以上掘らなかったと思われる。

501号井戸は本遺跡においてもっとも平均的な規模をもつもので崩落も少なく、埋没状況も故意に埋められたものの好例であろう。この例では、最下層で砂層に達していないが、これは旧河道の埋没土の中に井戸を掘ったために水を汲み上げることは出来なかったであろう。そのことからも井戸を掘り、すぐに埋められたと見るのが妥当であろう。

個々の井戸については計測表に記したが掘り方に段のないものは上段下端に井戸底の規模を記し、有るものは下段下端に記した。海抜□mと記したものは、井戸底の高さを計測値を記した。また、遺構が重複していて計測不能の場合には記していない。

第5表　遺構計測表　井戸

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段の深さcm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体の深さcm | 海抜 m |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SE-011 | 149×173 | 122×106 | | | | 171.2 | 666.4 |
| -022 | 110×152？ | | | | | 220.5 | 609.3 |
| -029 | 113×132 | 69× 69 | | | | 209.5 | 610.6 |
| -032 | 87× 82 | 71× 68 | | | | 175.8 | 640.8 |
| -034 | 195×195 | 93× 93 | | | | 152.8 | 662.8 |
| -036 | 125×165 | | | | | 219.2 | 603.4 |
| -037 | 114×125 | 86× 89 | | | | 206.3 | 609.3 |
| -040 | 129×138 | 56× 61 | | | | 176.8 | 614.8 |
| -041 | 102×113 | 68× 64 | | | | 200.1 | 611.5 |
| -042 | 79× 89 | 62× 58 | | | | 128.0 | 683.6 |
| -059 | 72× 81 | 42× 43 | | | | 113.2 | 714.6 |
| -063 | 80× 75 | 36× 41 | | | | 254.0 | 591.6 |
| -072 | 134×127 | 100× 96 | | | 48× 46 | 209.0 | 614.6 |
| -111 | 92× 87 | 58× 68 | | | | 157.4 | 677.2 |
| -131 | 151×160 | | | | | 237.0 | 593.6 |
| -134 | 212× 93 | 100×190 | 119.3 | | 138×107 | 222.0 | 612.6 |
| -138 | 138×123 | | | | | 246.0 | 581.6 |
| -139 | 236×232 | 166×142 | 35.1 | | 60× 76 | 175.7 | 651.6 |
| -140 | 250×200 | 189×198 | | | 70× 70 | 223.0 | 610.6 |
| -142 | 207×213 | 146×121 | | | | | |
| -144 | 135＋α×117 | 63× 61 | | | | 232.0 | 595.2 |
| -146 | 149＋α×108 | 91× 60 | | | | 174.5 | 659.1 |
| -151 | 132×252 | 70× 82 | 90.6 | | 53× 51 | 223.6 | 612.9 |

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段の深さcm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体の深さcm | 海抜 m |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| -153 | 105× 99 | 91× 61 | | | | 238.2 | 592.4 |
| -163 | 78× 78 | 58× 58 | | | | 213.0 | 642.6 |
| -168 | 67× 71 | 48× 48 | | | | 209.0 | 654.6 |
| -169 | 57× 56 | 38× 37 | | | | 200.0 | 645.6 |
| -170 | 135×127 | 95× 87 | | | | 212.0 | 618.6 |
| -177 | 135×144 | 76× 98 | | | | 219.0 | 612.1 |
| -184 | 102×115 | 72× 70 | | | | 186.0 | 657.1 |
| -186 | 149×202 | 124×110 | | | 70× 68 | 220.3 | 639.8 |
| -188 | 214×132 | 188×132 | | | | 147.3 | 699.3 |
| -194 | 80× 82 | 45× 42 | | | | 183.0 | 627.1 |
| -199 | 86× 69 | | | | | 199.5 | 638.6 |
| -250 | 70× 68 | 57× 49 | | | | 142.0 | 684.1 |
| -267 | 74× 74 | | | | | 195.5 | 660.6 |
| -295 | 72×90＋α | 52× 61 | | | | 153.5 | 685.1 |
| -296 | 105×106 | 49× 62 | | | | 164.0 | 695.1 |
| -318 | 92× 88 | 67× 61 | | | | 203.0 | 653.1 |
| -329 | 78× 88 | 53× 56 | | | | 195.0 | 657.1 |
| -361 | 95× 95 | 77× 77 | | | | 199.0 | 652.1 |
| -369 | 88× 86 | 67× 61 | | | | 155.0 | 679.1 |
| -380 | 104× 90 | 74× 64 | | | | 183.0 | 666.1 |
| -386 | 122×136 | 80× 81 | 70 | | 46× 56 | 145.5 | 700.6 |
| -397 | 104× 92 | 69× 73 | | | | 178.0 | 667.1 |
| -400 | 72× 62 | 45× 45 | | | | 178.0 | 666.1 |
| -417 | 86× 92 | 67× 77 | | | | 145.0 | 684.1 |
| -418 | 60× 54 | 56× 64 | | | | 155.0 | 687.1 |
| -421 | 80× 90 | 68× 72 | | | | 166.0 | 671.1 |
| -439 | 94×131 | 92×124 | 40 | | 50× 54 | 166.0 | 685.1 |
| -456 | 122×104 | 73× 72 | | | | 201.0 | 652.1 |
| -459 | 112×108 | 67× 45 | | | | 171.0 | 664.1 |
| -462 | 94× 92 | 59× 61 | | | | 168.0 | 686.1 |
| -500 | 94×75＋α | | | | | | |
| -501 | 43＋α× 70 | 23＋α× 53 | | | | 165.0 | 659.6 |

2　柱穴（第33図）

今回の調査からは、172の柱穴を検出した。

柱穴は建物の一部を構成するものであり、建物の考古学的な資料としては建物を復元する上で最も重要なものである。本遺跡から検出した柱穴は、平面的な相互の関係が一棟の建物として把握することが出来なかった。

本遺跡から検出された柱穴には構造的に３タイプがある。

これらで柱根を残している明らかに柱が立っていた柱穴から取上げてみると、46・143号柱穴でみられる礎石を柱穴の底に据え、その上に柱をのせているものが一つである。このタイプの礎石に使用された石材は、笏谷石（緑色凝炭岩）製の石臼等の石製品の廃物を利用し、礎石として当初から製作されてはいなかった。その他の自然石を利用する例も無かった。

44・45・58・101号柱穴等でみられる柱穴は、掘り方とその底部にもう一段柱よりやや大きめの掘り方を設けてそこに柱をすえるいわゆる二段式のタイプである。

最後のタイプは286・287・289号柱穴でみられる柱穴の掘り方を一段だけにして底に柱をすえるものである。

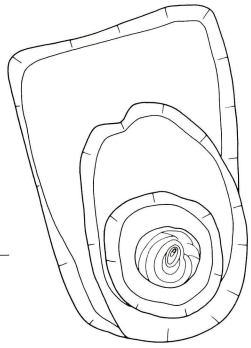
後二者のタイプは柱をすえる礎石をもたないことでは近い関係にあると言えるし、313号柱穴にみられるように一段掘りのタイプにすえられた柱が沈み込んだ場合には、二段掘りのタイプと判別することがむずかしい場合もありうる。

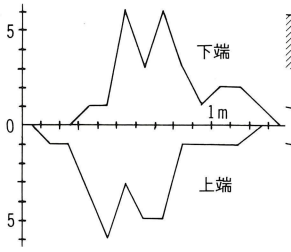
この３タイプとは別に平面的プランによっても三分できる。それは正方形もしくは矩形の44・45・442号柱穴等のもの、円形の58・101号柱穴等のもの、不定形の286号柱穴等のものである。

矩形・円形は、最初から意図した平面形をそのまま遺した例で、不定形は、柱の抜き取る際に掘りかたを破壊したか、自然に崩壊したのであろう。

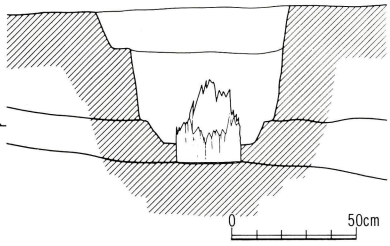
一棟の建物のために掘られた柱穴が同一のタイプであれば、一棟の建物の把握は容易であろうが、そのような例はなかったために建物の把握を困難にした。

矩形をした 198号柱穴ではこのタイプの一つの例として地鎮に使用された宝器を埋納していた。これは矩形の掘りかたをもつ柱穴が他のタイプの柱穴よりも重要な意味を持っていたことを示した例であろう。




**第30図**　下茜生田畑田遺跡
柱穴上下端径計測グラフ




**第31図**　198号柱穴実測図

172の柱穴を抽出したがこのほとんどには柱根、礎石等の明らかに柱穴であることが判断できるものは少なく、礎石、柱根等を残す柱穴は40であった。この40の柱穴は、正方形もしくは矩形のもの、円形のもの、不定形のものが67.5％、10％、17.5％となり、約７割近くが方形であった。又方形の平面的規模をみると長辺が50～90cmに66.7％が集中している。又二段掘りにして柱をすえる穴を設けているもので平面的規模が上記のものに近いものも抽出した。

これらの柱穴はＡ２・Ｂ１・Ｃ１・Ｃ２区を中心に五群に集中している。五群のそれぞれに建物が存在しているのであろうが、柱穴相互を関係づけることがむずかしいが柱穴が重複しているものが多く建替えが行なわれたことがうかがえる。又建替えには従来の柱を引抜いたと思われる115号柱穴等の例もある。これが材の再利用のためにしたかどうかは不明である。

第６表　遺構計測表　柱穴

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK-001 | 70× 67 | 47× 43 | 38.6 | 29×26 | 18×19 | 67.3 | 772.3 | |
| -002 | 79× 56 | 64× 46 | 33.0 | 26×25 | 18×17 | 53.5 | 783.1 | |
| -030 | 59× 72 | 49× 55 | | | | 8.9 | 831.6 | |
| -031 | 78？× 60 | 72？× 47 | | | | 21.5 | 799.0 | |
| -044 | 62× 59 | 45× 47 | | | 24×21 | | | 柱根 |
| -045 | 76×106 | 50× 81 | | 50×76 | 12×13 | 33.0 | 812.6 | 柱根 |
| -046 | 60× 62 | 47× 42 | | | | 11.2 | 803.4 | 柱根、石臼 |
| -047 | 50× 78 | 37× 58 | 10.6 | | 13×18 | 17.7 | 812.9 | |
| -050 | 74× 64 | 62× 52 | 27.5 | | 12×12 | 36.2 | 785.9 | |
| -055 | 56× 60 | | | 31×12 | 14×14 | 20.1 | 798.3 | 柱根2 |
| | | | | 14×28 | 12×12 | | | |
| -056 | 50＋α×50 | 14＋α×20 | | | | 5.7 | 802.1 | 柱根 |
| -058 | 59× 58 | 44× 44 | 23.6 | 27×27 | 16×16 | 36.4 | 785.9 | 柱根 |
| -068 | 77× 62 | 62× 44 | | | 37×14 | 32.0 | 794.9 | 石 |
| | | | | | 22×20 | | | |
| | | | | | 13×14 | | | |
| -071 | 59× 49 | 18× 18 | | | | 29.0 | 505.5 | |
| -073 | 147× 36 | 39× 34 | | | | 53.0 | 721.1 | |
| -074 | 74× 84 | 62× 64 | | | | 34.8 | 784.3 | 石臼 |
| -075 | 52× 56？ | 32× 32 | | | | 27.0 | 822.5 | |
| -076 | 64× 68？ | 48×38＋α | | | | 16.5 | 802.6 | |
| -080 | 64× 64 | 41× 42 | | | | 52.0 | 768.1 | |

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| -081 | 56× 61？ | 48×42＋α | | | | 14.7 | 805.9 | |
| -084 | 61× 53 | 42× 40 | | | 25×22 | 41.0 | 793.6 | |
| -089 | 92×88＋α | 78×55＋α | | | | 40.0 | 808.6 | |
| -090 | 68× 86 | 60× 74 | | | | 78.0 | 770.6 | |
| -091 | 108？× 57 | 97？× 49 | 34.8 | | | 53.0 | 765.6 | |
| -092 | 109× 92 | 89× 84 | 23.0 | 39×33 | 28×24 | 50.0 | 784.6 | |
| | | | | 22×30 | 26×23 | 56.0 | | |
| -093 | 75× 54 | 58× 38 | | | 26×26 | 31.0 | 784.6 | 柱根 |
| -094 | 62× 58 | 39× 34 | 18.0 | | | 34.0 | 802.6 | |
| -097 | 104× 68 | 88× 52 | | 40×34 | 29×28 | 48.3 | 750.6 | |
| -101 | 74× 69 | 28× 26 | | | | 12.2 | 807.4 | 柱根 |
| -103 | 85× 46 | | | | | 9.2 | 809.4 | |
| -106 | 76× 48 | 56× 39 | | | | 29.5 | 820.6 | |
| -107 | 52× 50 | 27× 28 | | | | 69.4 | 747.2 | |
| -108 | 36× 28 | | | | | 37.0 | 810.6 | |
| -112 | 26× 22 | 18× 14 | | | | 28.0 | 836.0 | |
| -113 | 118× 96 | 59× 46 | 10.9 | | | 52.0 | 782.6 | 柱根 |
| -115 | 84×118 | 72× 80 | | | | 32.5 | 802.1 | 柱根 |
| | | 42× 37 | | | 48×42 | | | |
| -130 | 37× 36 | 30× 31 | | | 11×12 | 16.0 | 830.0 | |
| -143 | 101× 60 | 80× 46 | | | | 45.0 | 782.1 | 柱根、石臼 |
| -145 | 75×100 | 58× 80 | | | | 42.0 | 807.7 | 石臼 |
| -150 | 107×110 | 88× 84 | | | | 11.0 | 834.6 | |
| -159 | 62× 51 | 28× 28 | | | | | | 柱根 |
| -160 | 97×100 | | | | | 12.0 | | |
| -173 | 62× 71？ | 50× 60？ | | | | 28.8 | 807.8 | |
| -175 | 56× 63 | 38× 41 | | | | 31.8 | 799.3 | |
| -178 | 68× 45 | 52× 28 | 31.0 | | 27×24 | 36.0 | 798.1 | |
| -185 | 103×78＋α | 82×80＋α | | | | 59.8 | 785.6 | 石 |
| -193 | 90× 72 | 73× 63 | | | | 16.2 | 821.6 | |
| -197 | 74× 40 | 67× 28 | | | 39×24 | 18.8 | 805.0 | |
| | | | | | 26×24 | | | |

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| -198 | 60× 64 | 53×54＋α | | | | 84.9 | 746.5 | |
| -200 | 70× 92 | 59× 77 | | | | 28.4 | 808.3 | |
| -201 | 100× 60 | 82× 48 | | | | 22.3 | 814.4 | |
| -202 | 60× 38 | 47× 31 | | | | 41.7 | 795.0 | |
| -206 | 107× 83 | 92× 64 | | | | 24.3 | 810.1 | |
| -207 | 108×108 | 50× 43 | 15.8 | | 24×18 | 36.9 | 797.5 | |
| -208 | 104× 84 | 51× 57 | 12.6 | | 35×40 | 37.9 | 797.2 | |
| -219 | 110× 68 | 70× 38 | | | | 57.0 | 750.1 | |
| -220 | 45× 68 | 40× 46 | | | | 72.7 | 766.6 | |
| -221 | 55× 68 | 39× 50 | | | | 86.7 | 747.6 | |
| -222 | 58× 78 | 44× 60 | 19.5 | | | 91.1 | 741.7 | |
| -223 | 62× 68 | 50× 58 | | | | 71.1 | 763.7 | |
| -224 | 108× 63 | 68× 98 | 17.0 | | 10×11 | 30.0 | 787.1 | |
| -226 | 27× 28 | 14× 19 | | | | 28.0 | 765.1 | 柱根 |
| -228 | 62× 45 | 46× 30 | | | | 14.0 | 809.8 | |
| -261 | 54× 65 | 11＋α×47 | | | | 20.0 | 804.1 | |
| -262 | 58× 70 | 48× 61 | | | | 17.0 | 794.1 | 石臼 |
| -269 | 62× 58 | 54× 44 | 5.0 | 43×39 | 36×30 | 44.0 | 793.1 | |
| -271 | 68× 49 | 33× 32 | 17.0 | | | 62.0 | 775.1 | |
| -272 | 75× 71 | 67× 64 | | | | 44.0 | 792.1 | |
| -275 | | | | | | 12.0 | 825.1 | 石 |
| -276 | 48× ? | 38× ? | | 23×28 | 13×15 | 14.0 | 822.1 | |
| -277 | 28× 33 | 23× 18 | | | | 50.0 | 786.1 | |
| -278 | 54？× 43 | 43？× 21 | | | | 25.0 | 806.1 | |
| -279 | 61× 51 | 49× 38 | | | | 15.0 | 815.1 | |
| -280 | 67× 44 | 50× 33 | 15.0 | 12×12 | 7× 7 | 19.0 | 810.1 | |
| -281 | 89× 48 | 74× 47 | | 24×24 | 14×14 | | | |
| -282 | 62× 51 | 58× 43 | 6.0 | 31×21 | 21×11 | 41.0 | 793.1 | |
| -283 | 61× 54 | 45× 42 | | | | 19.0 | 815.1 | |
| -284 | 67× 77？ | 49× 70？ | | | | 19.0 | 819.1 | 石臼 |
| -285 | 98× 55？ | 75× 32 | | | | 69.0 | 796.1 | 石 |
| -286 | 70× 55 | 62× 47 | ? | 22×22 | 20×20 | 62.0 | 792.1 | 柱根 |

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| -287 | 73× 62 | 60× 52 | | 24×20 | 20×18 | 56.0 | 798.1 | 柱根 |
| -288 | 38× 37 | 28× 25 | | | | 19.0 | 825.1 | |
| -289 | 317？× 79 | 290？× 60 | ？ | 26×26 | 24×20 | 47.0 | 812.1 | 柱根 |
| -290 | 70？× 69 | 60？× 59 | | | | 22.0 | 817.1 | |
| -291 | 86× 74 | 68× 69 | | | | 38.0 | 804.1 | 石 |
| -298 | 60× 52 | 52× 43 | ？ | 32×52 | 28×48 | 65.0 | 793.1 | |
| -299 | 74× 86 | 51× 67 | | | | 50.5 | 781.1 | |
| -301 | × 32 | 13× 21 | | | | 22.0 | 816.1 | 石 |
| -302 | 97× 78 | 85× 62 | | | | 16.0 | 819.1 | |
| -303 | 29× 30 | 20× 21 | | | | 23.0 | 812.1 | |
| -304 | 96×114 | 79×102 | | | | 39.0 | 818.1 | |
| -307 | 37× 61 | 29× 52 | | | | 62.0 | 796.1 | |
| -308 | × 54 | × 46 | | | | 43.0 | 815.1 | |
| -309 | × 34 | × 21 | | | | 50.0 | 807.1 | |
| -311 | 69× | 59× | 25.0 | 37×40 | 21×27 | 40.0 | 798.1 | |
| -313 | 126× 86 | 111× 75 | 40.0 | 53×50 | 41×36 | 52.0 | 786.1 | 柱根 |
| -314 | 89× 69 | 78× 56 | 14.0 | 41×28 | 34×16 | | | |
| -315 | × 49 | 17× 26 | | | | 47.5 | 808.1 | |
| -316 | × 45 | × 30 | | | | 77.0 | 780.6 | |
| -319 | 97× | 79× | 57.5 | 43× | 25× | 82.5 | 786.1 | |
| -320 | 32× 27 | 21× 21 | | | | 67.0 | 777.1 | |
| -322 | 51× 42 | 35× 25 | 29.0 | 14×10 | 17× 9 | 39.0 | 813.1 | |
| -323 | 68× 91 | 62× 91 | | | | 13.0 | 838.1 | |
| -325 | 39× 61 | 32× 51 | | | | 34.0 | 822.1 | |
| -326 | 74× 55 | 50× 37 | | | | 48.0 | 789.1 | |
| -327 | × 54 | × 42 | | | | 36.0 | 799.1 | |
| -330 | 90×214 | 80×204 | | | | 42.0 | 791.1 | 石 |
| -332 | 31× 23 | 27× 19 | | | | 34.0 | 819.1 | |
| -333 | 37× 25 | 25× 18 | | | | 11.0 | 815.1 | |
| -334 | 31× 42 | 18× 31 | | | | 39.0 | 815.1 | |
| -335 | 44× 28 | 32× 18 | 11.0 | 20×14 | 9× 9 | 18.0 | 836.1 | |
| -336 | 32× 36 | 24× 26 | | | | 22.5 | 832.6 | |

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| -337 | 42× 38 | 30× 29 | | | | 37.0 | 818.1 | |
| -338 | 36× 49 | | | | | 7.5 | | |
| -339 | 51× 56 | 33× 24 | 25.0 | 35×30 | 24×24 | 43.0 | 811.1 | |
| -340 | 18＋α×40 | 12＋α×28 | | | | 18.0 | 832.1 | |
| -342 | 52× 49 | 42× 40 | 18.5 | 24×26 | 14×14 | 28.5 | 826.6 | |
| -343 | 40× 42 | 32× 34 | | 26×25 | | 23.0 | 831.1 | |
| -344 | 67× 72 | 60× 53 | | | | 45.0 | 792.1 | |
| -345 | 78× 62 | 67× 51 | | | | 37.0 | 800.1 | 石臼 |
| -346 | 50× 78 | 28× 68 | | | | 17.0 | 815.1 | |
| -347 | 61× 39 | | | | | 44.0 | 789.1 | |
| -348 | 86×126 | 62×124 | | | | 38.0 | 792.1 | |
| -349 | 62× 64 | 49× 59 | 18.0 | 30×33 | 25×22 | 40.0 | 794.1 | |
| -353 | 52× 57 | 43× 42 | | | | 25.0 | 810.1 | 石 |
| -356 | 40× 65 | 30× 42 | 13.0 | | 24×22 | 16.0 | 813.1 | |
| -357 | 31× 35 | | | | | 32.0 | 819.1 | |
| -358 | 51× 54 | 32× 40 | 32.0 | 24×24 | 12×11 | 48.0 | 801.1 | |
| -359 | 52× 83 | 70× 77 | | | | 41.0 | 800.1 | 石 |
| -360 | 61× 51 | 49× 42 | | | | 38.0 | 799.1 | 石 |
| -362 | 44× 44 | 34× 37 | | | | 7.0 | 818.1 | |
| -366 | 77× 77 | 50× 37 | | | | 96.0 | 736.1 | |
| -370 | 54× 44 | 41× 38 | | | | 31.0 | 759.1 | |
| -371 | | | | | | 37.0 | 790.1 | |
| -372 | | | | | | 39.5 | 791.1 | |
| -375 | 60× 48 | 43× 34 | 26.0 | 33×32 | 26×21 | 47.0 | 802.1 | |
| -377 | 68× 61 | 57× 49 | | | | 15.0 | 814.1 | |
| -381 | 48×42＋α | 37×37＋α | 21.0 | 28×27 | 15×22 | 35.0 | 811.1 | |
| -382 | 41× 71 | 24× 24 | | | | 51.0 | 778.1 | |
| | | 22× 20 | | | | | | |
| | | 30× 48 | | | | | | |
| -383 | 38× 40 | 28× 29 | | | | 58.0 | 785.1 | |
| -384 | 41× 65 | 37× 55 | | | | 35.0 | 810.1 | |
| -387 | 50× 54 | 40× 40 | | | | 64.0 | 782.1 | |

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| -388 | 48× 51 | 15＋α×43 | | | | 26.0 | 818.1 | |
| -394 | 38× 54 | 28× 42 | 34.0 | 28×25 | 21×24 | 59.0 | 788.1 | |
| -395 | 38× 50 | 32× 46 | 36.0 | 31×32 | 24×22 | 52.0 | 795.1 | |
| -399 | 64× 40 | 40× 30 | 13.0 | 18×21 | 20×16 | 43.0 | 801.1 | |
| -402 | 64× 59 | 37×38＋α | | | | 47.0 | 796.1 | |
| -404 | 26× 26 | 18× 16 | | | | 13.0 | 831.1 | |
| -406 | 54× 50 | 32× 48 | 56.0 | | 20×20 | 66.0 | 775.1 | |
| -407 | 47× 46 | 35× 28 | | | | 23.0 | 821.1 | |
| -409 | 62× 67 | 50× 56 | 14.0 | 48×60 | 42×35 | 31.0 | 797.1 | 石 |
| -410 | 48× 36 | 34× 30 | 12.0 | 27×27 | 18×18 | 54.0 | 789.1 | |
| -411 | 58× 72 | 42× 30 | 15.0 | 32×26 | 28×31 | 21.0 | 807.1 | 石臼 |
| | | 45× 27 | | | | | | |
| -412 | 47× 52 | 32× 44 | | | | 19.0 | 825.1 | |
| -420 | 100× 89 | 72× 72 | | | | 78.0 | 761.1 | |
| -431 | 53×57＋α | 42×50＋α | | | | 4.0 | 830.1 | |
| -432 | 34× 24 | 11× 11 | | | | 24.0 | 797.1 | 柱根 |
| -433 | 38×72＋α | 27×72＋α | 12.0 | | 22×22 | 28.0 | 810.1 | |
| -436 | 45× 61 | 21× 25 | | | | 21.0 | 816.1 | |
| | | 12× 13 | | | | | | |
| -442 | 54× 45 | 45× 35 | | | | 29.0 | 800.1 | 柱根 |
| -446 | 55× 41 | 42× 31 | | | | 32.0 | 800.1 | 石 |
| -448 | 75× | 57× | 19.0 | 32×25 | 18×18 | 44.0 | 793.1 | |
| -449 | × 32 | × 25 | | | | 15.0 | 814.1 | 石 |
| -451 | 37× 41 | ?× 15 | | | | 32.0 | 804.1 | 石 |
| -461 | 57× 57 | 46× 48 | | | | 15.0 | 839.1 | |
| -467 | 28× 29 | 20× 22 | | | | 31.0 | 821.1 | |
| -468 | 39× 68 | 22× 57 | 31.0 | 13×30 | 9×17 | 39.0 | 811.1 | |
| -469 | 32× 39? | 26× 29? | 15.0 | 11×11 | 4× 5 | 20.0 | 831.1 | |
| -471 | 55× 78 | 27× 65 | | | | 31.0 | 803.1 | |
| -472 | 88× 47 | 80× 45 | 17.0 | 45×31 | 27×16 | 41.0 | 794.1 | 362と共用 |
| -480 | 60× 55 | 55× 55 | 33.0 | 49×44 | 40×22 | 51.5 | 796.6 | |
| -485 | 42× 49 | 30× 38 | | | | 43.0 | 789.1 | 石 |

3　石敷路（第33図）

Ｃ１区を中心にＣ２・Ｃ３区で南北に延びる石敷路とそれからＣ１区で東に分かれてＢ１・Ｂ２区に延びる石敷路を検出した。

調査区内では石敷部分が南北に7.50ｍ、東西に8.68ｍ検出された。

石敷部分の幅は、南北方向の石敷部分が広く、1.38ｍで東西方向の石敷部分が0.83ｍであった。両方が交差していた部分は当然広くなっていた。

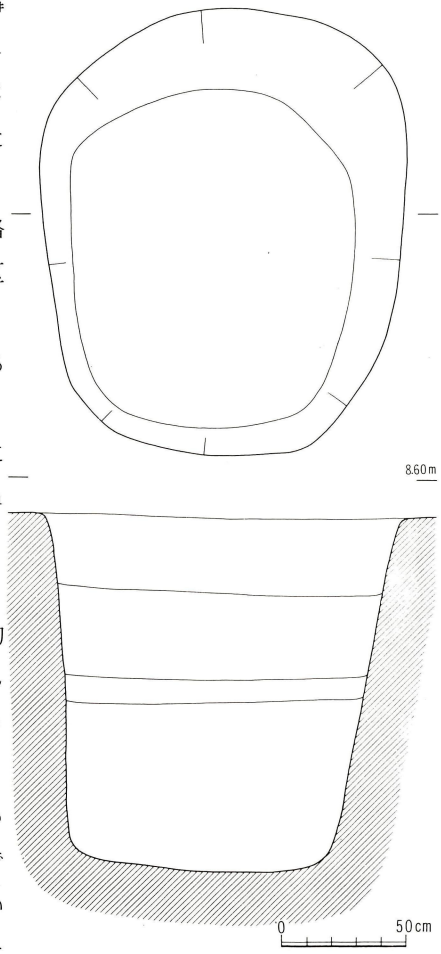
路床は、厚さ0.1ｍほどで砂利と土で固くしまっており、路面には小さな砂利が敷き詰められていた。石敷の最下層には拳大の円礫が一面に敷かれ、路床をより堅固にしていた。路面は多いところでは三面が確認されており、路床の改修が数回にわたって行われていた。この路床には陶磁器の破片がかなり含まれており、周囲の遺構と同時期に併存していたのであろう。

この石敷路の片側には側溝が付設されており、この溝に路床の砂利が落ちていたことからも同時期にこの溝があったことを明らかにしていた。この溝からも僅かではあるが陶磁器の破片が出土していた。この溝は既に路床の石敷部分が欠失してしまったＣ２・Ｃ３・Ｂ２区においても延びており、石敷路が延びていたことを推定し得た。

この側溝は、石敷路が交差していたＣ１区から石敷路の北側に沿って北と東に延びＢ１・Ｂ２・Ｃ２・Ｃ３区ても検出した。調査区内では長さ24.35ｍを検出したが更に北に延び、調査区外の水田にまで延びていたのであろう。上端の幅は、最大0.85ｍ・最小0.30ｍで平均0.4ｍほどであった。上端からの深さは、0.2ｍで東南東にのびる一方は、Ｂ１・Ｂ２区にのびて東から西に0.05ｍ下降しており、他方は、Ｃ２・Ｃ３区に0.4ｍ下降し、ほぼ北にのびている。

この石敷路は２層最上面にあり、他の遺構との平面的関係については明らかになっていないが、柱穴が集中していた群が石敷路をさけるようにあり、路の左右にふりわけられたように存在している。

この石敷路は、現在も存続している下茹生田集落から北にむかって調査地に連続するようにあり、遺跡中央で左右にわかれている。現在ではこの間に水田を挟んでいる。現在の地割や明治年間の小全図の地割と異なり、それ以前に消滅していたもので、重複する他の遺構よりは




**第32図**　３号土壙実測図

すべて新しいものである。しかし現在のように耕地として利用する場合には石敷であることは極力避けられるべきで砂利を持ち込むことは考えられず、石敷遺構が耕地となる以前、本遺跡が営まれた時期に存在したと思われる。

他に11条の溝が検出されている。

これらの溝からは遺物が出土しておらず、その性格を明らかにすることは出来なかった。A・C溝が東西方向に延びていただけで他のB・D・E・F・G・H・J・K・L溝は、南北方向に延びていた。K溝を除いては幅も深さもほぼ同様の規模を持っており、似た性格を持っていたのかも知れない。

不明遺構として取り扱ったものが273ある。例として3号土壙を図示したが、性格・用途共に把握できない遺構を不明遺構とした。これらの中には井戸と同様の規模をもっていたが深さが極端に浅いもの等もあり、掘りかけて中止したものも含まれているのであろう。江戸時代初期ということを考慮に入れるならば貯蔵用の掘り込みが多数あることは不自然であろう。

第7表　遺構計測表　不明遺構

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK-003 | 175×150 | 134×117 | | | | 116.2 | 730.4 |
| -004 | 217×190 | 193×166 | 44.0 | 215×128 | 185×107 | 61.0 | 804.6 |
| -005 | 37× 33 | 27× 20 | | | | | |
| -006 | 31× 26 | 163× 13 | | | | 21.0 | 826.6 |
| -007 | 34× 30 | 19× 19 | | | | 15.0 | 832.6 |
| -008 | 112× 99 | 95× 87 | | 90× 69 | 73× 62 | 63.0 | 781.6 |
| -009 | ?× 76 | 56?× 65 | | | | 36.0 | 808.6 |
| -010 | 114×118 | 85× 92 | | | | 93.0 | 754.6 |
| -012 | 96?×101 | 78× 84 | | | | 118.0 | 727.6 |
| -013 | 87?× 90 | 66?× 70 | | | | 34.9 | 809.6 |
| -014 | 59× 73? | 46× 59? | | | | 38.0 | 801.6 |
| -015 | 135×115 | 139×104 | | | | 80.0 | 766.6 |
| -016 | 129× 58 | 98× 47 | | | | 41.2 | 798.4 |
| -017 | 36× 32 | | | | | 33.7 | 799.9 |
| -018 | 111?×138 | 99?×129 | | | | 21.4 | 831.2 |
| -019 | 164×182 | 116×145 | | | | 73.9 | 755.9 |
| -020 | 102×116? | 91×106? | | | | 30.5 | 799.3 |
| -021 | 27× 34 | 18× 32 | | | | 9.2 | 820.9 |
| -023 | 65× 58 | 52× 46 | | | | 28.4 | 802.7 |

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| -024 | 71＋α×98＋α | 47＋α×84＋α | | | | 38.1 | 794.2 |
| -025 | 55×118 | 39× 90 | | | | 68.8 | 763.6 |
| -026 | 79×106 | | | | | 13.9 | 831.5 |
| -027 | 118× 62＋α | 104× 62＋α | | | | 30.8 | 784.8 |
| -028 | 120？×145 | | | | | 42.9 | 788.6 |
| -033 | 243×197＋α | 199×168＋α | | | | 25.0 | 820.6 |
| -035 | 80？× 71 | 66？× 57 | | | | 20.0 | 825.6 |
| -038 | 70× 62 | 66× 62 | | | | 64.0 | 781.6 |
| -039 | 92× 85 | 64× 63 | | | | 51.0 | 794.6 |
| -043 | 52× 46 | | | | | | |
| -048 | 22× 24 | 12× 12 | | | | 21.5 | 809.3 |
| -049 | 40× 48 | 28× 32 | | | | 44.0 | 777.6 |
| -051 | 48× 40 | 38× 26 | | | | 48.3 | 779.0 |
| -052 | 11× 15 | | | | | 21.6 | 807.5 |
| -053 | 62× 66 | | | | | 32.8 | 766.3 |
| -054 | 105× 70＋α | 86× 60＋α | | | | 24.0 | 820.6 |
| -057 | 46＋α× 96 | 39＋α×72＋α | | | | 49.4 | 773.6 |
| -060 | 10× 11 | | | | | 24.4 | 802.5 |
| -061 | 37× 59 | 29× 49 | | | | 24.8 | 802.1 |
| -062 | 42× 28 | 31× 24 | | | | 19.3 | 805.6 |
| -064 | 22× 23 | 15× 16 | | | | 28.7 | 798.4 |
| -065 | 30× 39 | 19× 18 | | | | 22.0 | 805.1 |
| -066 | 40× 69 | | | | | 34.7 | 792.4 |
| -067 | 69× 48 | 45× 18 | | 22× 20 | | 25.1 | 801.8 |
| -069 | 28× 31 | | | | | 8.0 | 826.4 |
| -070 | 120＋α×110 | | | | | 48.0 | 786.8 |
| -077 | 72× 82 | 60× 60 | | | | 47.0 | 803.6 |
| -078 | 60？×124 | ？× 85 | | | | 31.0 | 820.6 |
| -079 | 113？×133 | ？×122 | | | | 13.0 | 838.6 |
| -082 | 102？× 79 | 90？× 85 | | | | 46.9 | 787.6 |
| -083 | 42＋α× 51 | 22＋α× 22 | | | | 20.6 | 813.9 |
| -085 | 42× 40 | 35× 27 | | | | 33.0 | 801.6 |

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| -086 | 51× 72 | | | | | 33.0 | 801.6 |
| -087 | 28× 30 | 16× 17 | | | | 33.0 | 803.6 |
| -088 | 36＋α× 59 | | | | | 49.0 | 784.6 |
| -095 | 18× 14 | | | | | 22.0 | 812.6 |
| -096 | 10× 16 | | | | | 37.0 | 797.6 |
| -098 | 116？× 46 | 92＋α× 30 | | | | 27.0 | 807.6 |
| -099 | 40× 38 | 30× 26 | | | | 30.0 | 814.6 |
| -100 | 50× 44 | 25× 25 | | | | 31.0 | 803.9 |
| -102 | 66× 54 | 38× 26 | | | | 69.0 | 780.6 |
| -104 | 68× 51 | 49× 42 | | | | 52.0 | 798.6 |
| -105 | 54× 44 | 26× 24 | | | | 42.0 | 776.6 |
| -109 | 36＋α× 22 | 36× 22 | | | | 25.6 | 822.0 |
| -110 | 30× 29 | 21× 23 | | | | 8.0 | 840.6 |
| -114 | 96× 89 | | | | | 99.0 | 735.4 |
| -116 | 58× 59 | 44× 46 | | | | 44.0 | 804.0 |
| -117 | 82× 76 | 36× 30 | | | | 56.0 | 778.8 |
| -118 | 133× 58 | 104× 34？ | | | | 27.0 | 807.6 |
| -119 | 34× 25 | | | | | 20.0 | 814.6 |
| -120 | 56× 48 | 38× 38 | | 28× 28 | | 16.0 | 782.1 |
| -121 | 37× 37 | 24× 24 | | | | 20.0 | 777.1 |
| -122 | 90× 78 | 78× 72 | | | | 27.0 | 807.8 |
| -123 | 15× 12 | 8× 4 | | | | 8.0 | 789.1 |
| -124 | 24× 24 | | | | | 39.0 | 795.3 |
| -125 | 15× 14 | | | | | 12.0 | 802.6 |
| -126 | 17× 18 | | | | | 33.0 | 801.6 |
| -127 | 14× 14 | | | | | 34.0 | 800.6 |
| -128 | 25＋α×10＋α | 20＋α× 6＋α | | | | 35.0 | 799.6 |
| -129 | 46× 44 | | | | | 34.0 | 800.6 |
| -132 | 109× 12 | | | | | 17.2 | 813.4 |
| -133 | 141×151 | 128×138 | | | | 41.0 | 789.6 |
| -135 | 120×122 | | | | | 55.0 | 857.6 |
| -136 | 133×130 | 96×107 | | | | 60.0 | 792.6 |

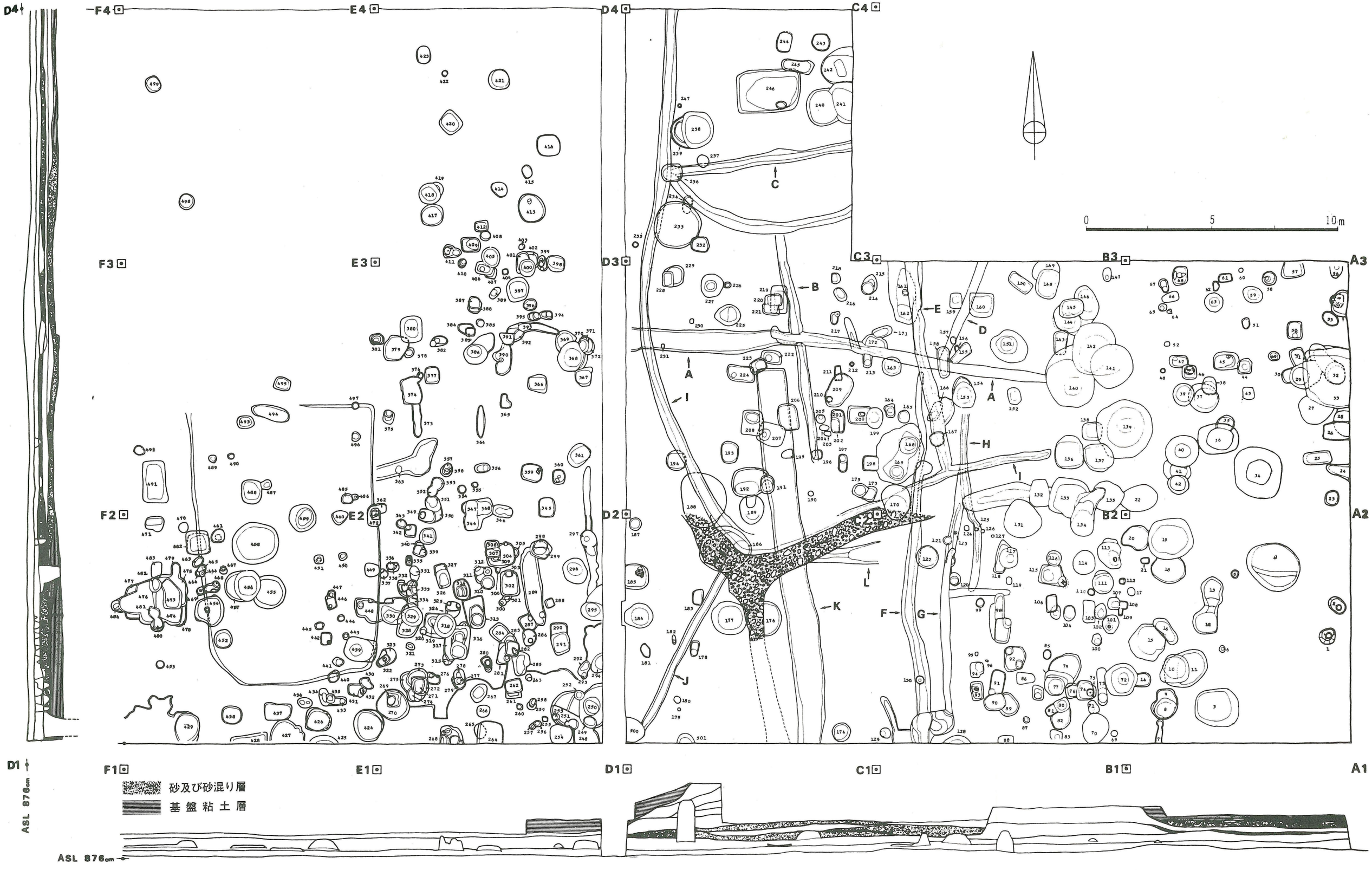
| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| -137 | 118×120 | | | | | 10.0 | 842.6 |
| -141 | 172×175 | 122×132 | | | | | |
| -147 | 98× 38 | 20× 15 | | | | 29.7 | 803.9 |
| -148 | 119×110 | 100×114 | | | | 62.1 | 771.5 |
| -149 | 79+α×111 | | | | | 24.3 | 809.3 |
| -152 | 55× 52 | 36× 28 | | | | 44.0 | 786.6 |
| -154 | 89× 86 | 82× 70 | | | | 39.1 | 793.5 |
| -155 | 79× 90 | 76× 87 | | | | 30.5 | 800.0 |
| -156 | 30× 27 | 18× 12 | | | | 29.5 | 801.1 |
| -157 | 36× 24 | 28× 20 | | | | 31.5 | 798.8 |
| -158 | 127× 51 | 107× 39 | | | | 22.0 | 808.6 |
| -161 | 28× 27 | 14× 20 | | | | 8.0 | 792.1 |
| -162 | 248×136 | 128× 46 | | | | 15.0 | 787.1 |
| -164 | 57× 45 | 41× 33 | | | | 18.7 | 790.6 |
| -165 | 50× 50 | 39× 37 | | | | 16.0 | 838.6 |
| -166 | 84× 50 | 32× 30 | | | | 11.0 | 787.1 |
| -167 | 61× 60 | 50× 51 | | | | 21.0 | 831.6 |
| -171 | 48× 81 | 31× 60 | | | | 31.0 | 799.6 |
| -172 | 50+α×102+α | 35+α×75+α | | | | 22.5 | 808.1 |
| -174 | 77× 77 | 62× 58 | | | | 36.0 | 760.1 |
| -176 | 138×184 | 120×112 | | | | 40.0 | 801.1 |
| -179 | 18× 16 | | | | | 7.0 | 810.6 |
| -180 | 32× 29 | | | | | 8.5 | 802.1 |
| -181 | 62× 40 | 48× 32 | | | | 18.0 | 821.1 |
| -182 | 41× 19 | 17× 10 | | | | 18.0 | 819.1 |
| -183 | 67× 55 | 57× 35 | | | | 24.3 | 817.6 |
| -187 | 52× 51 | 38× 38 | | | | 25.5 | 821.1 |
| -189 | 126× 92 | 52× 47 | | | | 19.5 | 816.8 |
| -190 | 26× 24 | | | | | 5.0 | 797.1 |
| -191 | 78× 58 | 60× 50 | | 49× 42 | | 39.7 | 796.6 |
| -192 | 119×154 | 101×130 | 19.5 | 50× 90 | | 21.1 | 795.7 |
| -195 | 40× 49 | | | | | 39.3 | 795.1 |

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| -196 | 43× 44 | 33× 24 | | | | 22.0 | 778.1 |
| -203 | 18× 24 | | | | | 17.6 | 819.1 |
| -204 | 28× 38 | | | | | 14.5 | 822.2 |
| -205 | 37× 38 | 19× 19 | | | | 25.3 | 811.5 |
| -209 | 132× 97 | 114× 82 | | | | 14.5 | 843.4 |
| -210 | 27× 28 | 20× 19 | | | | 15.0 | 786.1 |
| -211 | 64× 32 | 48× 23 | | | | 27.0 | 780.1 |
| -212 | 22× 22 | 12× 10 | | | | 14.0 | 782.1 |
| -213 | 57× 40 | 44× 39 | | | | 5.7 | 781.4 |
| | | 24× 24 | | | | | |
| -214 | 52× 52 | 42× 42 | | | | 21.0 | 779.1 |
| -215 | 72× 62 | | | | | 15.0 | 787.1 |
| -216 | 58× 58 | 40× 28 | | | | 22.7 | 811.6 |
| -217 | 52× 32 | | | | | 20.0 | 780.1 |
| -218 | 45× 40 | 33× 20 | | | | 29.0 | 772.1 |
| -225 | 86×102 | 61× 62 | 24.0 | 58× 34 | | 38.3 | 799.5 |
| -227 | 91× 70 | 45× 48 | | 30× 31 | | 45.0 | 749.1 |
| -229 | 82× 79 | 78× 60＋α | | | | 22.0 | 812.3 |
| -230 | 23× 18 | | | | | 13.6 | 820.7 |
| -231 | 20× 15 | | | | | 40.7 | 793.6 |
| -232 | 64× 72 | 54× 48 | | | | 28.0 | 824.1 |
| -233 | 185×190 | 164× 157 | | | | 48.4 | 804.2 |
| -234 | 74× 41 | 41× 31 | | | | | |
| -235 | 28× 28 | 16× 18 | | | | 22.0 | 771.1 |
| -236 | 72× 82 | 60× 66 | | | | 51.0 | 795.1 |
| -237 | 56× 50 | | | | | 36.0 | 807.1 |
| -238 | 146×118 | 110× 99 | | | | 48.0 | 752.1 |
| -239 | 130× 49＋α | 122× 46＋α | 13.0 | 89×46＋α | 75×30＋α | 23.0 | 767.1 |
| -240 | 147×112＋α | 125× 97＋α | | | | 25.0 | 764.1 |
| -241 | | | | | | 33.0 | 750.1 |
| -242 | | | 16.0 | | | 36.0 | 747.1 |
| -243 | 70× 74 | 61× 62 | | | | 24.0 | 808.1 |

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| -244 | 70× 61 | 72× 54 | | | | 35.5 | 798.6 |
| -245 | 56× 82 | 48×108 | | | | 21.0 | 814.1 |
| -246 | 178×256 | 149×234 | 42.0 | 32× 46 | 21×30 | 90.0 | 692.1 |
| | | 130×212 | | | | | |
| -247 | 20× 19 | 12× 10 | | | | 22.0 | 772.1 |
| -248 | | | | | | 38.0 | 811.1 |
| -249 | 47× 50 | 33× 40 | | | | 87.5 | 761.5 |
| -251 | 45× 52 | 32× 42 | | | | 79.0 | 770.1 |
| -252 | 39× 40 | 25× 22 | | | | 48.5 | 804.6 |
| -253 | 30× 30 | 22× 20 | | | | 52.0 | 801.1 |
| -254 | 75× 87 | | | | | 27.0 | 794.1 |
| -255 | 24× 24 | 21× 20 | | | | 18.0 | 806.1 |
| -256 | 29× 30 | 18× 18 | | | | 23.0 | 799.1 |
| -257 | 29× 29 | 14× 15 | | | | 16.0 | 805.1 |
| -258 | 30× 30 | 23× 18 | | | | 18.0 | 806.1 |
| -259 | 37× 38 | | | | | 14.0 | 811.1 |
| -260 | 30× 27 | 18× 17 | | | | 18.0 | 806.1 |
| -263 | 30× 28 | 16× 16 | | | | 2.0 | 822.1 |
| -264 | 86＋α×104 | 80＋α× 79 | | | | 20.0 | 831.1 |
| -265 | 64× 52 | | | | | 28.0 | 796.1 |
| -268 | 72＋α× 95 | | | | | 69.0 | 779.6 |
| -270 | 123×132 | 120×118 | | | | 23.0 | 815.1 |
| -273 | 82× 86 | 62× 68 | | | | 22.0 | 813.1 |
| -274 | 56× 50＋α | 45× 46＋α | | | | 26.0 | 811.1 |
| -292 | 66× 41 | 41× 22 | | | | 28.0 | 813.1 |
| -293 | 34× 27 | 20× 18 | | | | 26.0 | 815.1 |
| -294 | ?× 70 | ?× 52 | | | | 78.0 | 748.1 |
| -297 | 69× 68 | 63× 64 | | 10× 8 | | 10.0 | 799.6 |
| -300 | 29× 30 | 13× 12 | | | | 24.0 | 812.1 |
| -305 | 43× ? | 24× ? | | | | 23.5 | 831.1 |
| -306 | ?× 25 | ?× 15 | | | | 24.0 | 828.1 |
| -310 | 57× 56 | 41× 40 | | | | 34.0 | 801.1 |

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| -312 | 36× 33 | 13× 16 | | | | 15.0 | 819.0 |
| -317 | 133×101 | 127× 78 | 46.0 | 71× 71 | 45×49 | 97.0 | 758.1 |
| -321 | 30× 39 | 12× 22 | | | | 17.0 | 814.1 |
| -324 | ?× 56 | ?× 49 | | | | 14.0 | 842.1 |
| -328 | ?× 89 | ?× 62 | | | | 51.0 | 802.1 |
| -331 | 66× 42 | 39× 42 | | | | 29.0 | 809.1 |
| -341 | 70× 70 | 51× 49 | | | | 61.0 | 794.1 |
| -350 | 58× 58 | | | | | 13.0 | 821.1 |
| -351 | 68× 65 | 47× 42 | | | | 54.0 | 779.1 |
| -352 | 44× 44 | 43× 37 | | | | 20.0 | 813.1 |
| -354 | 38× 38 | 28× 25 | | | | 29.0 | 801.1 |
| -355 | 24× 27 | 22× 17 | | | | 32.0 | 800.1 |
| -363 | 37× 25 | | | | | 21.0 | 812.1 |
| -364 | 129× 39 | 120× 25 | | | | 78.0 | 805.1 |
| -365 | 72× 49 | 50× 37 | | | | 19.0 | 806.1 |
| -367 | 72× 73 | 55× 58 | | | | 95.0 | 738.1 |
| -368 | 122×118 | 75× 69 | | | | 97.0 | 752.1 |
| -373 | 132× 40 | 125× 31 | | | | 19.0 | 809.1 |
| -374 | 112×106 | 101× 73 | | | | 8.0 | 821.1 |
| -376 | 31× 28 | 20× 18 | | | | 18.0 | 811.1 |
| -378 | 35× 44 | 24× 28 | | | | 20.0 | 813.1 |
| -379 | 199×194 | 86× 91 | | | | 43.0 | 790.1 |
| -385 | 34× 34 | 36× 28 | | | | 39.0 | 805.1 |
| -389 | 52× 52 | 29× 28 | | | | 46.0 | 799.1 |
| -390 | 132× 82 | 114× 60 | | | | 13.0 | 814.1 |
| -391 | 44× 64 | | | | | 25.0 | 804.1 |
| -392 | 70× 72+α | 46× 60 | 15.0 | 36× 37 | 31×30 | 27.0 | 819.1 |
| -393 | 36×163+α | 28×154+α | | | | 15.0 | 833.1 |
| -396 | 48× 57 | 37× 47 | | | | 19.0 | 829.1 |
| -398 | 68× 80 | | | | | 42.0 | 789.1 |
| -401 | 80× 56 | 65× 50 | | | | 56.0 | 787.1 |
| -403 | 25× 25 | 24× 18 | | | | 23.0 | 818.1 |

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| -405 | 82× 72 | 13× 54 | | | | 75.5 | 718.5 |
| -408 | 42× 52 | 31× 34 | | | | 28.0 | 786.1 |
| -413 | 114×107 | 107× 93 | 35.0 | 72× 18 | 10×14 | 53.0 | 801.1 |
| -414 | 62× 68 | 56× 57 | | | | 11.0 | 831.1 |
| -415 | 58× 43 | 48× 36 | | | | 10.0 | 829.1 |
| -416 | 87× 96 | 80× 86 | | | | 8.0 | 831.1 |
| -419 | 60× 54 | | | | | 11.0 | 831.1 |
| -422 | 28× 25 | 20× 18 | | | | 28.0 | 808.1 |
| -423 | 74× 68 | 70× 49 | | | | 15.0 | 821.1 |
| -424 | 123×118 | 122× 99 | 38.0 | 113×112 | 112×90 | 62.5 | 788.6 |
| -425 | 111＋α×66＋α | 110＋α×32＋α | | | | 32.0 | 801.1 |
| -426 | 95×110 | 75× 89 | | | | 35.0 | 816.1 |
| -427 | 87＋α×130 | 75×122 | | | | 15.0 | 836.1 |
| -428 | 49＋α×147 | 25＋α×124 | | | | 13.0 | 825.1 |
| -429 | 106＋α×100 | 82＋α×102 | | | | 25.0 | 809.1 |
| -430 | 50× 58 | 41× 46 | | | | 23.0 | 811.1 |
| -434 | 73× 42＋α | 39× 18＋α | | | | 21.0 | 814.1 |
| -435 | 38× 37 | 21× 21 | | | | 43.0 | 791.1 |
| -437 | 71×108 | 64× 96 | | | | 15.0 | 836.1 |
| -438 | 72× 80 | 62× 68 | | | | 13.0 | 824.1 |
| -440 | 53× 50 | 34× 34 | | | | 66.0 | 785.1 |
| -441 | 41× 45 | 27× 27 | | | | 32.0 | 797.1 |
| -443 | 34× 38 | 18× 16 | | | | 27.0 | 800.1 |
| -444 | 28× 31 | 17× 23 | | | | 11.0 | 821.1 |
| -445 | 32× 41 | 22× 25 | | | | 15.0 | 818.1 |
| -449 | 58× 65 | | | | | 35.0 | 794.1 |
| -450 | 33× 35 | 16× 21 | | | | 15.0 | 813.1 |
| -452 | 75× 72 | 55× 56 | | | | 59.5 | 794.6 |
| -453 | 33× 26 | 33× 26 | | | | 28.0 | 806.1 |
| -454 | 119×120 | 103× 90 | 37.0 | 24× 22 | 15× 11 | 59.0 | 796.1 |
| -455 | 138× ? | 100× ? | | | | 38.5 | 816.6 |
| -457 | 123× ? | 102× ? | | | | 53.0 | 799.1 |




第33図　下茨生田畑田遺跡遺構全体図

| 遺構番号 | 上段上端 cm | 上段下端 cm | 上段深cm | 下段上端 cm | 下段下端 cm | 全体深cm | 海抜 m |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| -458 | 169×189 | 128×152 | | | | 58.0 | 795.1 |
| -460 | 59× 66 | 50× 61 | | | | 28.0 | 825.1 |
| -463 | 53× 32 | 39× 20 | | | | 6.0 | 829.1 |
| -464 | 24× 23 | 11× 9 | | | | 30.0 | 821.1 |
| -465 | 35× 37 | 20× 12 | | | | 29.5 | 818.6 |
| -466 | | | | | | 24.0 | 827.1 |
| -470 | 43× 41 | | | | | 6.0 | 828.1 |
| -473 | 119×110 | 71× 57 | | | | 56.0 | 792.1 |
| -474 | | | | | | 32.0 | 816.1 |
| -475 | | | | | | 41.0 | 808.1 |
| -476 | 176× 77？ | 160× 60？ | | | | 44.5 | 807.6 |
| -477 | 141×129 | | | | | 25.5 | 825.1 |
| -478 | | | | | | 16.0 | 832.1 |
| -479 | ？× 40 | ？× 27 | | | | 25.0 | 820.1 |
| -481 | 44× 55 | | | | | 55.0 | 793.1 |
| -482 | 57× 49 | 45× 28 | | | | 46.0 | 799.1 |
| -483 | 63× 43 | | | | | 29.0 | 815.1 |
| -484 | 39× 30＋α | 17× 24＋α | | | | 33.5 | 817.1 |
| -486 | 26× 29？ | 10× 10 | | | | 20.0 | 814.1 |
| -487 | 42× 44 | 20× 24 | | | | 23.0 | 804.1 |
| -488 | 97× 70 | 80× 63 | | | | 52.0 | 775.1 |
| -489 | 34× 35 | 17× 21 | | | | 13.0 | 811.1 |
| -490 | 27× 29 | 19× 20 | | | | 29.0 | 795.1 |
| -491 | 164× 90 | 136× 72 | | | | 38.0 | 799.1 |
| -492 | 41× 32 | 47× 35 | | | | 21.0 | 807.1 |
| -493 | 52× 69 | 36× 49 | | | | 11.0 | 814.1 |
| -494 | 62×155 | 51×139 | | | | 28.0 | 821.1 |
| -495 | 54× 68 | 40× 50 | | | | 39.0 | 812.1 |
| -496 | 40× 35 | 23× 28 | | | | 25.0 | 803.1 |
| -497 | 32× 30 | 22× 21 | | | | 16.0 | 813.1 |
| -498 | 65× 63 | 53× 51 | | | | 17.0 | 818.1 |
| -499 | 68× 50 | 53× 45 | | | | 20.0 | 809.1 |

# 第３節　遺物

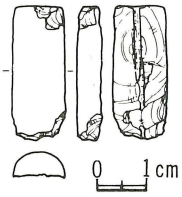
１　遺物概説

本遺跡の出土遺物には、律令・江戸時代の主に２時代の品がある。そして、それらの内には、土器類、銭貨、石製品、木製品、金属製品、土製品などがある。以下、これらを各時代ごとに報告する。

２　遺物各説

１）　古墳時代

古墳時代の遺物としては碧玉製の管玉が１点ある。縦に半分以上が欠けているために正確な計測値を示すことが出来ないが、直径が11mmで長さが27mm以上ある。縦に半分が欠失しているために穿孔の観察は容易で、1.5mmの孔が両側から穿たれているが、玉錐の中心を決める打痕は後の欠損の痕跡と紛らわしくて判別できない。碧玉は濃緑色を呈する硬いもので光沢のあるものである。（冨山）




**第34図** 碧玉製管玉実測図

２）　律令時代

律令時代の遺物には、土器類、土製品、瓦、銭貨等がある。

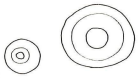
土器類（第36図）

律令時代の土器は、遺跡の縁辺に出土しており、中央部では極めて希薄な出土状態である。なお、出土土器の個別の詳細は観察表に譲り、主要な品のみについて説明したい。

須恵器（第36図 1～38）

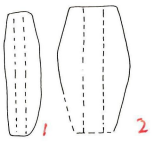
土器類としては須恵器の坏Ａ（1～16）・坏Ｂ（17～23）・皿Ａ（30～32）・盤Ａ（33～37）・盤Ｂ（38）・蓋（24～29）がある。坏Ａは口径が8.5cmのもの（1）を除いて13cm前後で、器高が3.0～3.5cm多い。坏Ｂは前記の坏Ａに高台を付けたもの（17～19）と大型の坏Ａに高台を付けたもの（20～22）がある。皿Ａは底部から緩やかに口縁部まで延びたもので、15.5cm前後の口径をもち、器高は２cm強と低い。盤Ａは底部から屈曲して口縁部まで延びたもので、16cm強の口径をもち、器高は2.5cm前後と低い。盤Ｂは前記の盤Ａに高台を付けたものである。蓋は内面の高さが１cmに満たないもの（24・25）と２cmに近いもの（27～29）があり、口径も13cm前後のもの（26・27）と16cm前後のもの（24・25・28・29）がある。

これらの須恵器の中には墨書されていたものもある。調査前に『廣嶋』と墨書されていた須恵器を表採し、器種は蓋で内面に書かれている。『中』は坏Ａに多く書かれ、殆どが底部の外面である。墨書の字句は上茨生田遺跡で検出したＳＤ－００６の旧河道から出土した墨書土器の字句と同じものがあり、ＳＤ－００６の延長と思われる旧河道も検出した。



土製品（第35図）

土製品としては土錘が２点出土している。１点は長さが5cm、径1.5cmで両端が丸みを持つ円筒形をしている。他は中央に稜を持つ紡錘形で最大径が2.8cmで、長さは先端が欠失しているために計測ができない。胎土は同時期の土師器と同様である。




**第35図** 土錘実測図

第８表　下茨生田畑田遺跡出土土器観察表

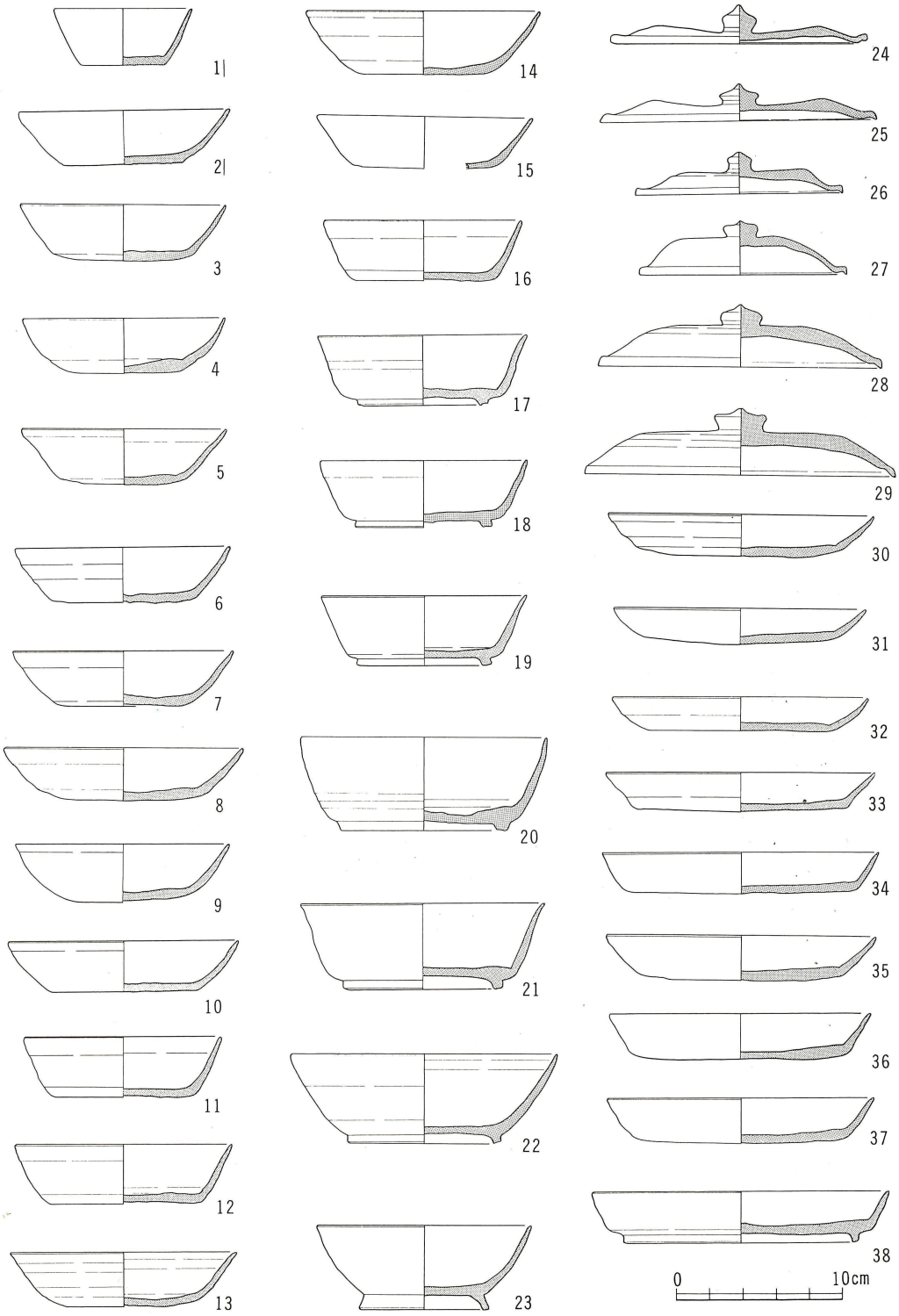
| 器形 | 土器番号 | 法量 cm | 形態の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・質 | 色調 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 坏A | 1 | 口径 8.2<br>器高 3.4 | 体部は底部から明瞭に屈曲し、直線的に外上へにのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。 | 砂粒を含む。<br>焼成良好 | 灰色 | 5/7遺存 |
| 坏A | 2 | 口径 12.5<br>器高 3.2 | 体部は底部から明瞭に屈曲し、内湾ぎみにのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。 | 微砂粒を含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 2/3遺存<br>底部外面に墨痕あり。 |
| 坏A | 3 | 口径 12.4<br>器高 3.3 | 底部はわずかに丸みをもつ。体部は底部から直線的に外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 微砂粒を若干含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 4/7遺存 |
| 坏A | 4 | 口径 12.2<br>器高 3.3 | 体部は底部から丸みをもって立ち上がり、内湾する。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りする。 | 微砂粒を多く含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 1/2遺存<br>口縁部に煤が付着。 |
| 坏A | 5 | 口径 12.2<br>器高 3.3 | 体部は直線的に外上方へのび、体部中程でやや外反する。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 砂粒を含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 1/3遺存 |
| 坏A | 6 | 口径 13.0<br>器高 3.3 | 体部は底部から明瞭に屈曲し、直線的に外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 砂粒を若干含む。<br>焼成良好 | 青灰色 | 2/5遺存 |
| 坏A | 7 | 口径 13.2<br>器高 3.3 | 体部は底部からやや丸みをもって立ち上がり、直線的に外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 砂粒を含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 3/4遺存 |
| 坏A | 8 | 口径 14.4<br>器高 3.2 | 体部は底部からやや丸みをもって立ち上がり、直線的に外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 砂粒を含む。<br>焼成良好 | 茶灰色 | 4/7遺存 |
| 坏A | 9 | 口径 12.8<br>器高 3.5 | 体部は底部から丸みをもって立ち上がり、直線的に外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 微砂粒を含む。<br>焼成良好 | 黄灰色 | 2/5遺存 |
| 坏A | 10 | 口径 13.8<br>器高 3.0 | 体部は底部から明瞭に屈曲し、やや内湾ぎみにのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 砂粒を含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 5/6遺存 |
| 坏A | 11 | 口径 11.8<br>器高 3.6 | 箱形を呈する。体部は底部から明瞭に屈曲し、直線的に外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 微砂粒を含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 1/3遺存 |
| 坏A | 12 | 口径 13.0<br>器高 3.6 | 箱形を呈する。体部は底部から明瞭に屈曲し、直線的に外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整し、内面は仕上げナデ調整する。 | 微砂粒を若干含む。<br>焼成良好 | 灰色 | 2/5遺存 |
| 坏A | 13 | 口径 13.6<br>器高 3.3 | 体部は底部から丸みをもって立ち上がり、わずかに内湾しながらのび、口縁部でやや外反する。 | 体部は回転ナデ調整する。 | 砂粒を若干含む。<br>焼成良好 | 青灰色 | 3/5遺存 |
| 坏A | 14 | 口径 14.0<br>器高 3.8 | 体部は底部からやや丸みをもって立ち上がり、わずかに内湾しながらのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りする。 | 砂粒を多く含む。<br>焼成良好 | 明灰色 | 4/5遺存 |
| 坏A | 15 | 口径 13.0<br>器高 3.1 | 体部は底部からやや丸みをもって立ち上がり、直線的に外 | 体部は回転ナデ調整する。 | 砂粒を含む。<br>焼成良好 | 青灰色 | 1/3遺存 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 上方へのびる。 | | | | |
| 坏A | 16 | 口径 11.8<br>器高 3.6 | 箱形を呈する。体部は底部から明瞭に屈曲し、直線的に外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。 | 砂粒を含む。<br>焼成良好 | 灰色 | 2/5遺存 |
| 坏B | 17 | 口径 12.6<br>底径 7.8<br>器高 4.2 | 内面端部は接着面とする断面方形の高台をもつ。<br>体部は底部から丸みをもって立ち上がり、口縁部でやや外反する。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りする。 | 砂粒を含む。<br>焼成良好 | 暗灰色 | 3/4遺存 |
| 坏B | 18 | 口径 12.4<br>底径 8.2<br>器高 4.0 | 断面方形の高台をもつ。体部は底部から丸みをもって立ち上がり、直線的に外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 微砂粒を含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 2/5遺存 |
| 坏B | 19 | 口径 12.4<br>底径 8.1<br>器高 4.2 | 断面方形の高台をもつ。体部は底部から明瞭に立ち上がり、直線的に外上方へのびるが、口縁部でやや外反する。 | 体部は回転ナデ調整する。 | 微砂粒を若干含む。<br>焼成良好 | 暗灰色 | 2/3遺存 |
| 坏B | 20 | 口径 14.7<br>底径 10.0<br>器高 5.6 | 断面方形の高台をもつ。体部は直線的に外上方へのび、口縁部で上方に屈曲する。 | 体部は回転ナデ調整する。 | 砂粒を若干含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 3/7遺存 |
| 坏B | 21 | 口径 14.6<br>底径 9.6<br>器高 5.2 | 内面端部を接着面とする断面方形の高台をもつ。端部は直線的に外上方へのびるが、口縁部強く外反する。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 微砂粒を若干含む。<br>焼成良好 | 暗灰色 | 2/3遺存 |
| 坏B | 22 | 口径 16.0<br>底径 9.3<br>器高 5.4 | 内面端部を接着面とする断面方形の高台をもつ。体部は内湾する。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整し、内面は仕上げナデ調整する。 | 砂粒を若干含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 2/5遺存 |
| 坏B | 23 | 口径 12.8<br>底径 7.8<br>器高 5.0 | 断面方形の器高の高い高台をもつ。体部は底部から内湾しながら口縁に至る。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ナデ調整する。 | 微砂粒を若干含む。<br>焼成良好 | 暗灰色 | 3/4遺存 |
| 蓋 | 24 | 口径 15.4<br>器高 2.3 | 宝珠形のツマミをもつ。天井部は平たく、天井部から口縁部へはやや外反ぎみに移行する。 | 体部は回転ナデ調整する。 | 微砂粒を含む。<br>焼成良好 | 灰色 | 2/5遺存 |
| 蓋 | 25 | 口径 16.6<br>器高 2.2 | 宝珠形のツマミをもつ。天井部は平たく、天井部からやや外反ぎみに移行する。口縁端部はわずかに下方に折り返す。 | 体部は回転ナデ調整する。 | 砂粒を多く含む。 | 灰白色 | 3/4遺存 |
| 蓋 | 26 | 口径 12.4<br>器高 2.5 | 宝珠形のツマミをもつ。天井部は平たく、天井部から外反ぎみに移行する。口縁端部はわずかに下方に折り返す。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>天井部内面に仕上げナデ調整する。 | 微砂粒を多く含む。<br>焼成良好 | 暗灰色 | 2/3遺存 |
| 蓋 | 27 | 口径 12.4<br>器高 3.2 | 偏平な宝珠形のツマミをもつ。天井部は平たく、大きく内湾しながら口縁部に至る。口縁端部は下方に折り返す。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>天井部内面に仕上げナデ調整する。 | 砂粒を含む。<br>焼成良好 | 暗灰色 | 2/5遺存 |
| 蓋 | 28 | 口径 17.0 | 偏平な宝珠形のツマミをもつ。 | 体部は回転ナデ調整する。 | 砂粒を多く含 | 青灰色 | 4/5遺存 |

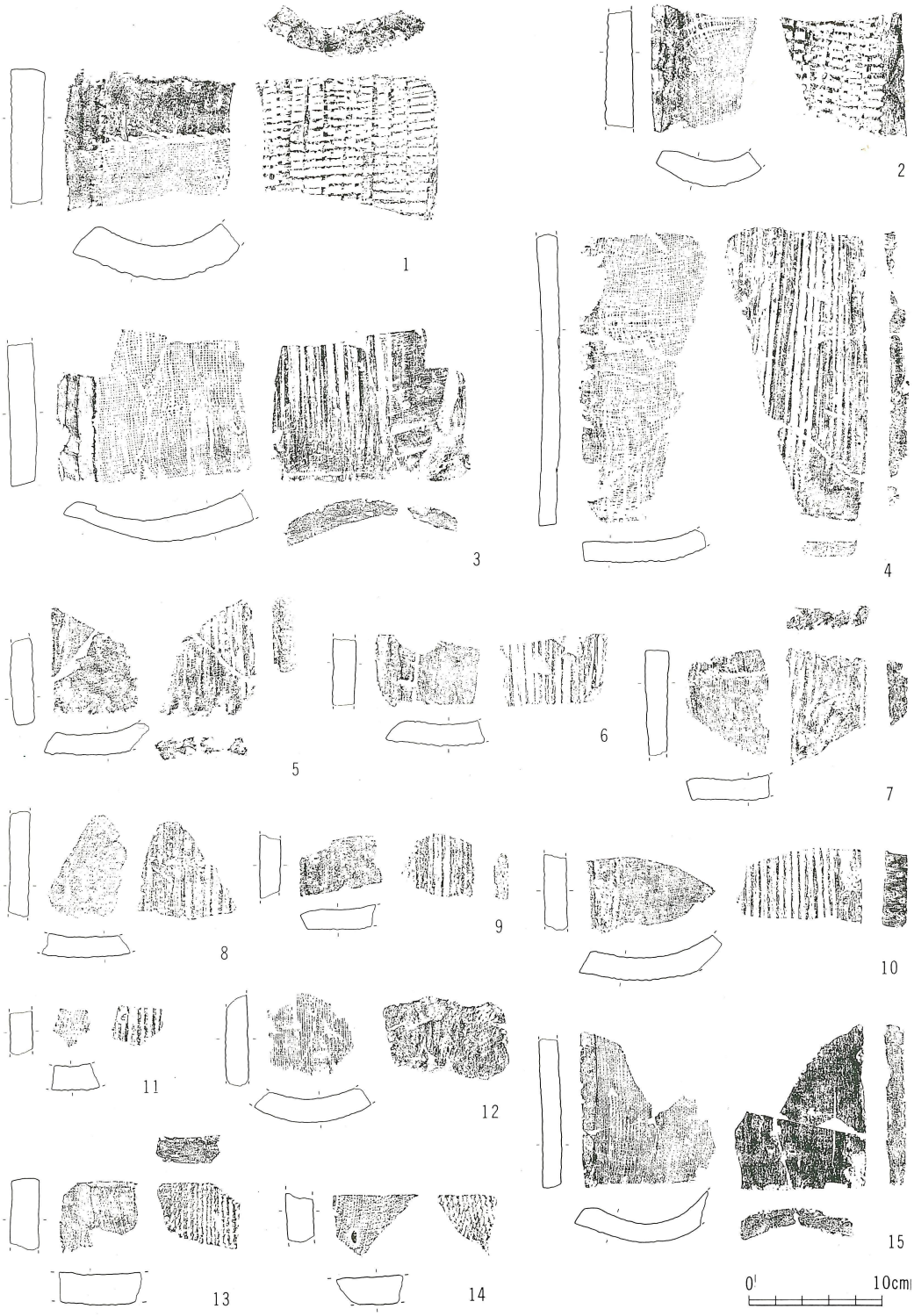
| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 器高 3.7 | 天井部は平たく、明瞭に屈曲し、内湾ぎみに口縁に至る。口縁端部はわずかに下方に折り返す。 | 天井部外面に回転ヘラ切り痕を残す。 | む。<br>焼成良好 | | |
| 蓋 | 29 | 口径 18.6<br>器高 4.0 | 偏平な宝珠形のツマミをもつ。天井部は平たく、明瞭に屈曲し、内湾ぎみに口縁で至る。口縁端部はわずかに下方に折り返す。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>天井部外面に回転ヘラ切り痕を残す。 | 砂粒を多く含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 3/4遺存 |
| 皿A | 30 | 口径 16.0<br>器高 2.5 | 体部は底部から丸みをもって立ち上がり、内湾ぎみに外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 微砂粒を若干含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 1/3遺存 |
| 皿A | 31 | 口径 15.2<br>器高 2.2 | 体部は底部からわずかに丸みをもってやや内湾ぎみに外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。 | 微砂粒を含む。<br>焼成良好 | 暗灰色 | 2/5遺存 |
| 皿A | 32 | 口径 15.4<br>器高 2.0 | 体部は底部から明瞭に屈曲し、やや内湾ぎみに外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 微砂粒を含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 4/5遺存 |
| 盤A | 33 | 口径 16.2<br>器高 2.3 | 体部は底部から明瞭に屈曲し、直線的に外上方へのびて体部中程で内湾する。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 微砂粒を含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 1/3遺存 |
| 盤A | 34 | 口径 16.6<br>器高 2.5 | 体部は底部からやや丸みをもって屈曲し、直線的に外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 砂粒を多く含む。 | 灰白色 | 2/3遺存 |
| 盤A | 35 | 口径 16.2<br>器高 2.7 | 体部は底部からやや丸みをもって屈曲し、直線的に外上方へのびて口縁部でわずかに内湾する。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 微砂粒を含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 2/5遺存 |
| 盤A | 36 | 口径 15.7<br>器高 2.7 | 体部は底部からやや丸みをもって屈曲し、直線的に外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 微砂粒を含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 3/5遺存 |
| 盤A | 37 | 口径 16.0<br>器高 2.7 | 体部は底部からやや丸みをもって屈曲し、直線的に外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底部外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 微砂粒を若干含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 6/7遺存 |
| 盤B | 38 | 口径 17.8<br>底径 14.1<br>器高 3.1 | 内面端部を接着面とする断面方形の高台をもつ。体部は底部から明瞭に屈曲し、直線的に外上方へのびる。 | 体部は回転ナデ調整する。<br>底径外面は回転ヘラ切りの後に回転ナデ調整する。 | 微砂粒を若干含む。<br>焼成良好 | 灰白色 | 3/5遺存 |

瓦（第37図 1～15）

瓦は16点出土しており、軒瓦はない。平瓦の叩きは正格子(1･2)、平行(3～11)、縄(12～14)がある。正格子は格子が長方形で荒い粗雑な叩きである。格子の方向は側縁に平行に叩いている。平行は正格子同様に荒く側縁と平行に叩いている。縄は原体に縦方向に縄を巻いて側縁と平行に叩いている。これらは足羽川対岸の福井市篠尾町にある篠尾廃寺からの出土瓦に酷似している。




**第36図**　下莇生田畑田遺跡出土須恵器実測図（１～38）




**第37図**　下莇生田畑田遺跡出土古瓦実測図（１～15）

銭貨

皇朝12銭の隆平永寶がある。保存状態が極めて悪いために図化することは出来ないが、総数15枚以上が重なっている。そのために総てが隆平永宝と断定出来ないが、判読可能な部分から読み取れた字句は隆平永宝に関するものである。

3）　江戸時代

江戸時代として取り扱う遺物の中には中世末期のものもあり、中世末期から近世初頭の混乱のなかで営まれた遺跡からの出土品である。遺物には陶器・磁器・土器・石製品・木製品・金属製品がある。

陶器(第38図 1～16・第39図 1～5・第41図 9·10)

産地を抱える関係上大型の日常雑器はすり鉢等殆どが越前焼である。小型の陶器は瀬戸・美濃製陶器と唐津焼が殆どで、朝鮮製陶器が僅かに混じっている。

越前焼(第~~41~~52図 9·10)

摺鉢が多く出土しているにも拘わらず、大型の甕のようなものは見当たらない。小型のものはお歯黒壺のようなものは出土している。摺鉢は轆轤で引かれた痕跡はなく、平らな底部は砂敷きの上に置かれて製作されている。底部直上の外面には荒縄で台から外した痕跡が強く残っている。平底から直線的に外上方に延ばし、口縁の端部を内傾させて鋭く切り落としている。切り落とした端部と口縁の外面は強く横ナデされている。櫛目は見込みの中心を通過するように端部から端部まで一杯にひかれている。

A）瀬戸・美濃製陶器(第38図 1～16)

天目茶碗(1～7)はヘラグリの中央が浅くなる高台から鋭く篦削りされた腰があり、直線に外上方に延びて口縁で屈曲している。釉調は黒褐色の鉄釉が懸けられ、鬼板にも化粧懸けが施されている。これらには口径に比較して丈の低いもの(1～3)と高いもの(4～7)がある。低いもの(1·2)は口径が11.5cm前後で器高が6cmのものが殆どである。1例のみ極めて小さいもの(3)があり、口径は6.3cmである。これは茶碗に使用することはなく、盃として使用したのであろう。丈の高いもの（4～7）は口径が11.5cmで器高が8cmほどである。高いものの胎土は低いものに比較して白っぽく軟弱である。低いものが16世紀中葉に、高いものは17世紀前葉に比定される。

鉄釉水注(8)は1点のみ出土している。土瓶型の水注で貫通する注口部の先端が欠失している。注口部の直上と反対側に紐作りの耳を1対貼りつけている。底は糸切りのままで、片側が強く火を受けている。これは16世紀前葉に比定される。

灰釉皿は折縁の皿(9)と内はげの皿(11)がある。内はげの皿(11)は内側を浅く削ったら高台から大きく開き段を持って外上方に直線的に延びている。高台に比して見込みが広く、釉がない。外面の底部にはビードロ状の灰釉が厚くたまっている。折縁の皿(9)には内面に篦で連続して花弁を掘り込み、菊皿にしている。前者が16世紀中葉、後者が16世紀後葉に比定される。

志野筒向付(12·13)は殆ど完全な状態で2点出土している。底は浅い碁笥底にして長石釉は薄

い。内面に轆轤引きの痕が明確に残る。これらは16世紀後葉に比定される。

志野織部皿(14～16)は全体像が明らかなものが3点出土している。長石釉が全体にかけられ、低い高台の内側が薄い。縁に一条と見込みの周りに二条の円を描き、見込みに竹葉の文様が描かれている。これらは17世紀前葉に比定される。

B）唐津焼(第39図 1～6)

皿が多く出土している。溝縁の浅い皿(1)は碁笥底の内面が兜布状に浅くなっている。窯詰めには砂目で重ねられ、赤褐色の胎土に白い長石釉がかけられている。低い高台の内面が兜布状に浅くなる皿(2･3)は口縁部の内面が縁溝の萌芽を思わせる僅かな凸帯が一周している。窯詰めには胎土目で重ねられ、灰色の木灰釉がかけられている。花生か徳利の肩部の大きな破片(6)がある。頸部まで白色の釉がかけれられ、肩部以下に鉄釉がかけられている。内面の観察から輪積みを轆轤で引いて消している。胎土は黒色粒を含む灰色で堅く焼き締まっている。

窯詰めの重ねる際に残される胎土目と砂目の痕跡や、皿の口縁に残る溝縁がこれらの遺物の時期を16世紀末から17世紀初頭に推定させる。

C）朝鮮製陶器(第39図 7～20)

個々で朝鮮製の陶器としたものには国産品とも中国製品とも類別が出来なかったものがある。14片の破片が出土しているが、2個体の破片である。1点(7)は小形の壺の胴部であると思われる。球形の胴部の破片は外面にだけ濁った緑色の釉が薄くかかっている。胎土は非常に薄く焼き締まっていて、暗紫色で白色粒が僅かに含まれている。内側には叩き目を消したような痕跡がある。他は1固体の甕の破片(8～20)で外面には褐色の釉がかけられ、無施釉の内面には同心円の叩き目が胴部全面に残っている。これらの破片は非常に薄く引きあげられている。この資料については朝鮮製の可能性が大きいが、国産品(唐津)の可能性も残している。

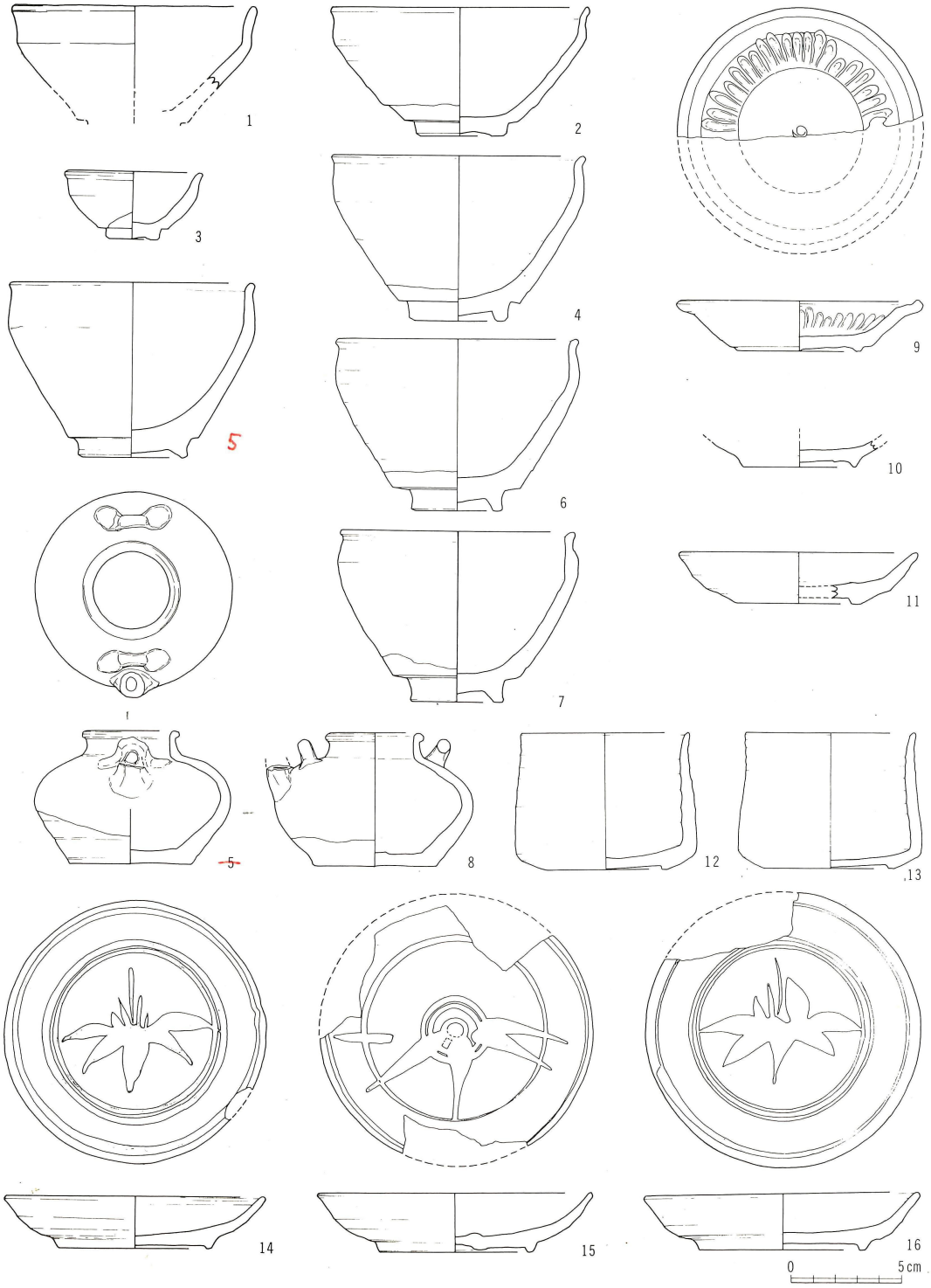
磁器(第39図 21～24)

国内産の磁器は伊万里焼が殆どを占めるが、中国製磁器・朝鮮製磁器が僅かに混じっている。舶載品は白磁・青磁の伝世を考えさせる時期の製品で小破片である。伊万里焼は染付けである。小形の頸部の長い壺(22)は花生けか徳利であろう。外面の胴部に草文を一面だけに描いている。これは17世紀中葉に比定される。低い高台をもつ大振りの湯呑み風の茶碗(24)は染付の粗くくずれた唐草文が器面を廻っており、釉調は青黒い色をしている。胎土は磁器のようではなく、「半磁器」と呼ばれるものに近い。これは佐世保市江永古窯でみられるものである。

土師質土器

土師質土器は灯明皿、カワラケ等がある。灯明皿に使用された皿には、下皿として底部に粘土で3個の突起を付け、うちわの柄のように把手がついているものがある。これは熱い灯明皿に直接触る事なく移動するために考案されたもので、一乗谷朝倉氏遺跡の中世遺構からの出土例はない。このような下皿は江戸期に入ってから出現するようである。

カワラケの口径は灯明皿とほぼ同じで土師皿と言われるような中型、大型の皿はない。




**第38図**　下苅生田畑田遺跡出土　瀬戸・美濃製陶器実測図（１～16）


**第39図**　下莇生田畑田遺跡出土　唐津焼（１～６）・朝鮮製陶器（７～20）・伊万里焼(21～24)・漆器(25・26）実測図

石製品（第40～51図）

本地区にて出土した石製品は数量的にもさることながら、その種類の豊富さにおいて、従来の石製品の認識を大きく越えるものである。

しかし、出土点数の多さの割には完成品が少ないなど、その全体の様相がはっきりしない。また、用途すら判明しないものも数多くある。ここでは石臼・火炉・その他の遺物の大きく３つに分けて述べていく。

Ａ）石臼（第40～44図）

石臼は上臼19点、下臼15点、上臼・下臼の判別が不可能なもの11点の計45点が出土している。そのうち完形、またはそれにちかいもので目がよく残っているものを中心として上臼7点、下臼8点を図示した。

直径は推定復元も含めて39～34cmを測るものがほとんどである。分画数は7分画が2点のみで他は8分画である。使用方向は判別したものがすべて、逆時計廻りである。石質も第65図3の1点が砂岩のほかはすべて緑色凝灰岩である。

いずれの臼も、破損するか、かなり低くなり薄くなるまで使用されており、その使用の激しさを伺わせるものである。

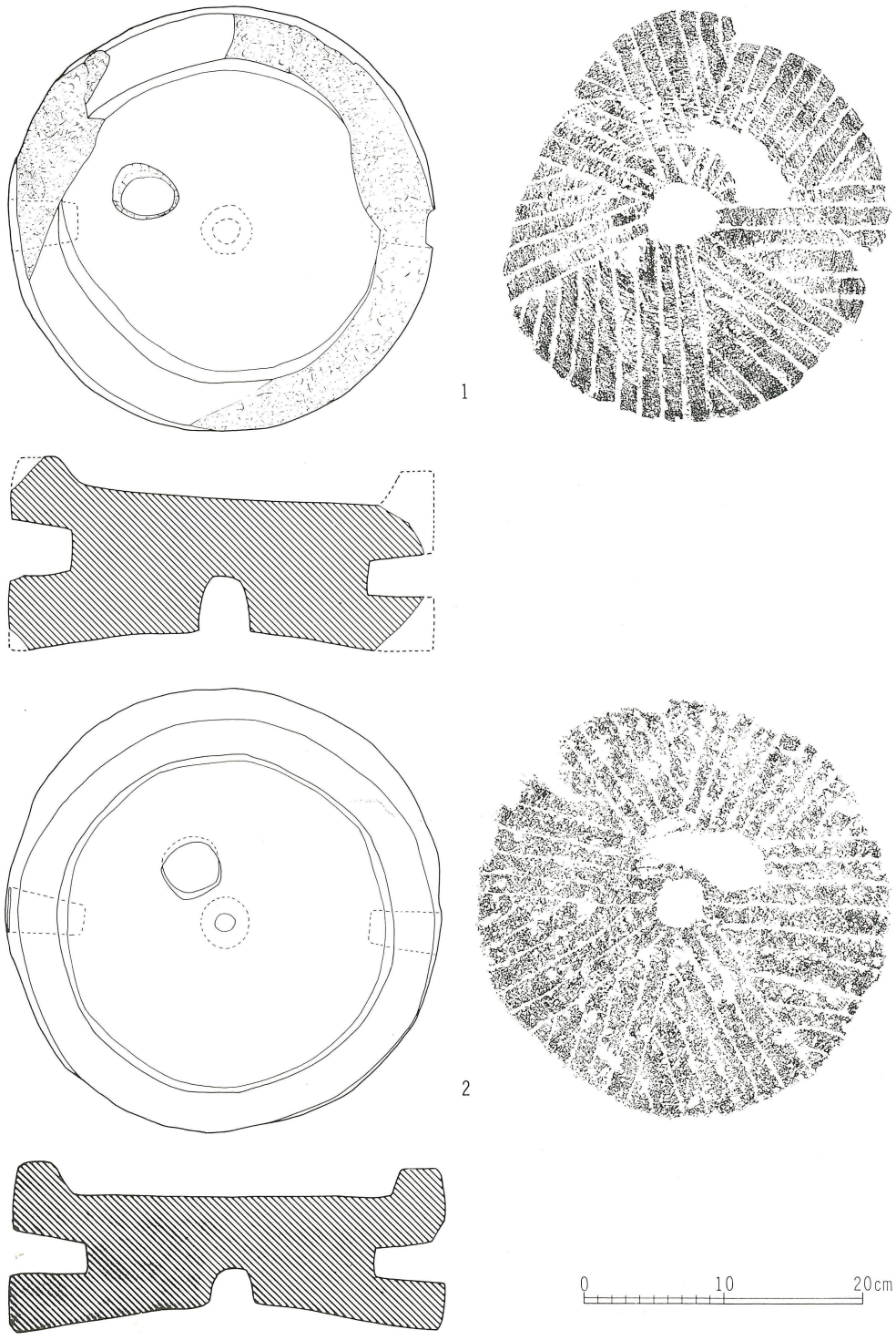
ほとんどが緑色凝灰岩を用いて、直径を30cm強にし、目を8分画に取り、逆時計廻りに使用している。このことは石臼が規格性をもってつくられていることを示す。

第９表　下蔀生田畑田遺跡出土石臼一覧表

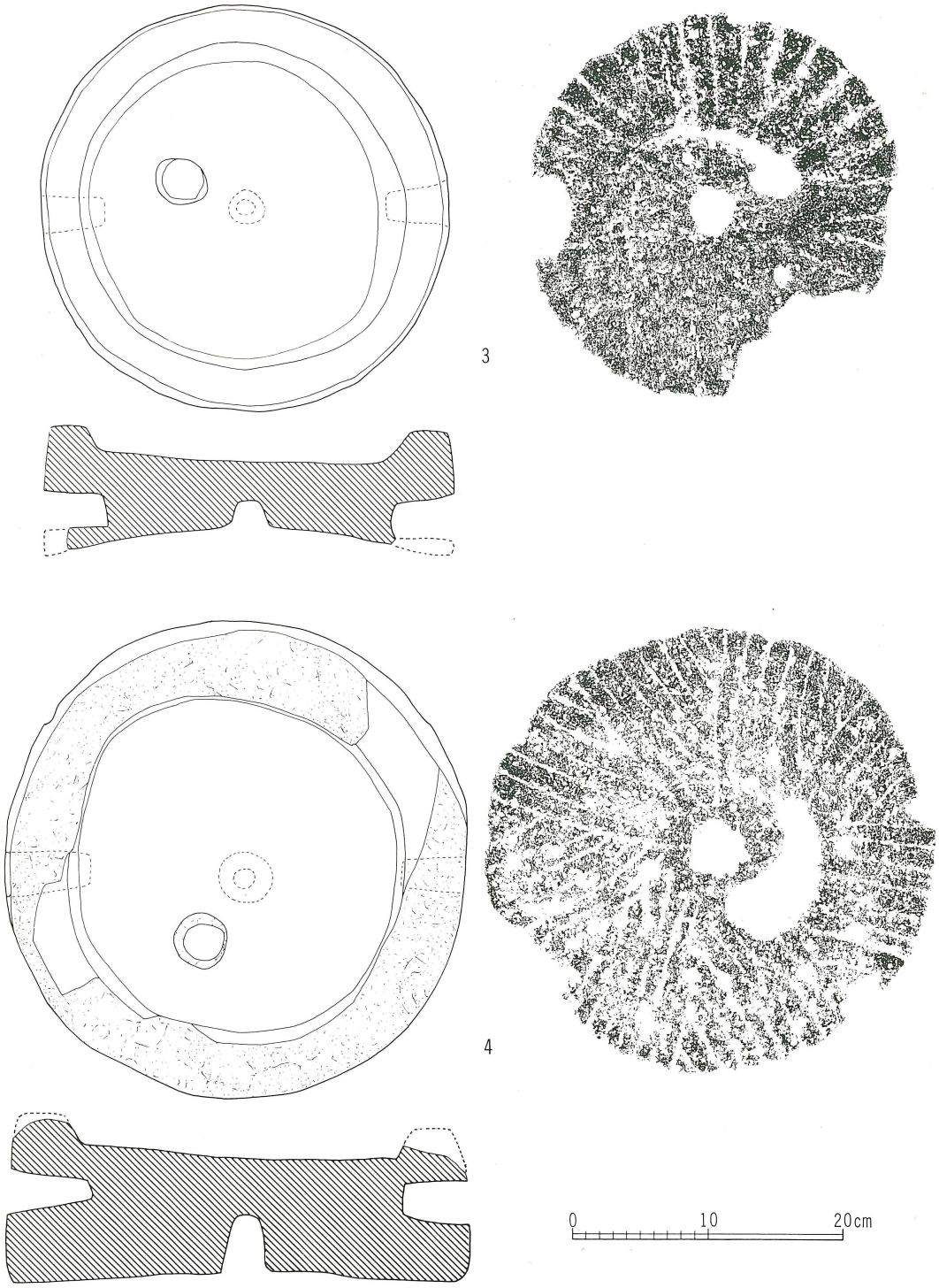
| 遺構番号 | 分画数 | 上臼 | 下臼 | 使用方向 | 直　径 | 高 さ | 石　　質 | 図版番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＫ-011 | 8 | | ○ | 逆時計廻り | 32.0 | 10.0 | 緑色凝灰岩 | 第44-13 |
| ＳＫ-011 | 8 | | ○ | 逆時計廻り | 35.6 | | 緑色凝灰岩 | 第44-14 |
| ＳＫ-027 | | ○ | | | 32.0 | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＫ-033 | | | ○ | 逆時計廻り | | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＫ-038 | 8 | | ○ | 逆時計廻り | 32.0 | 14.5 | 砂　　岩 | 第43-10 |
| ＳＫ-038 | （８） | | ○ | 逆時計廻り | | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＫ-040 | | ○ | | 逆時計廻り | | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＫ-040 | | | | | | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＫ-057 | 8 | | ○ | 逆時計廻り | 29.5 | 9.0 | 緑色凝灰岩 | 第43-9 |
| ＳＫ-073 | | | ○ | 逆時計廻り | 33.0 | 11.0 | 緑色凝灰岩 | 第44-12 |
| ＳＫ-111 | | | | 逆時計廻り | 29.2 | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＥ-140 | | | | 逆時計廻り | 30.0 | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＥ-140 | | ○ | | | 36～37 | | 緑色凝灰岩 | |

第９表　下苅生田畑田遺跡出土石臼一覧表

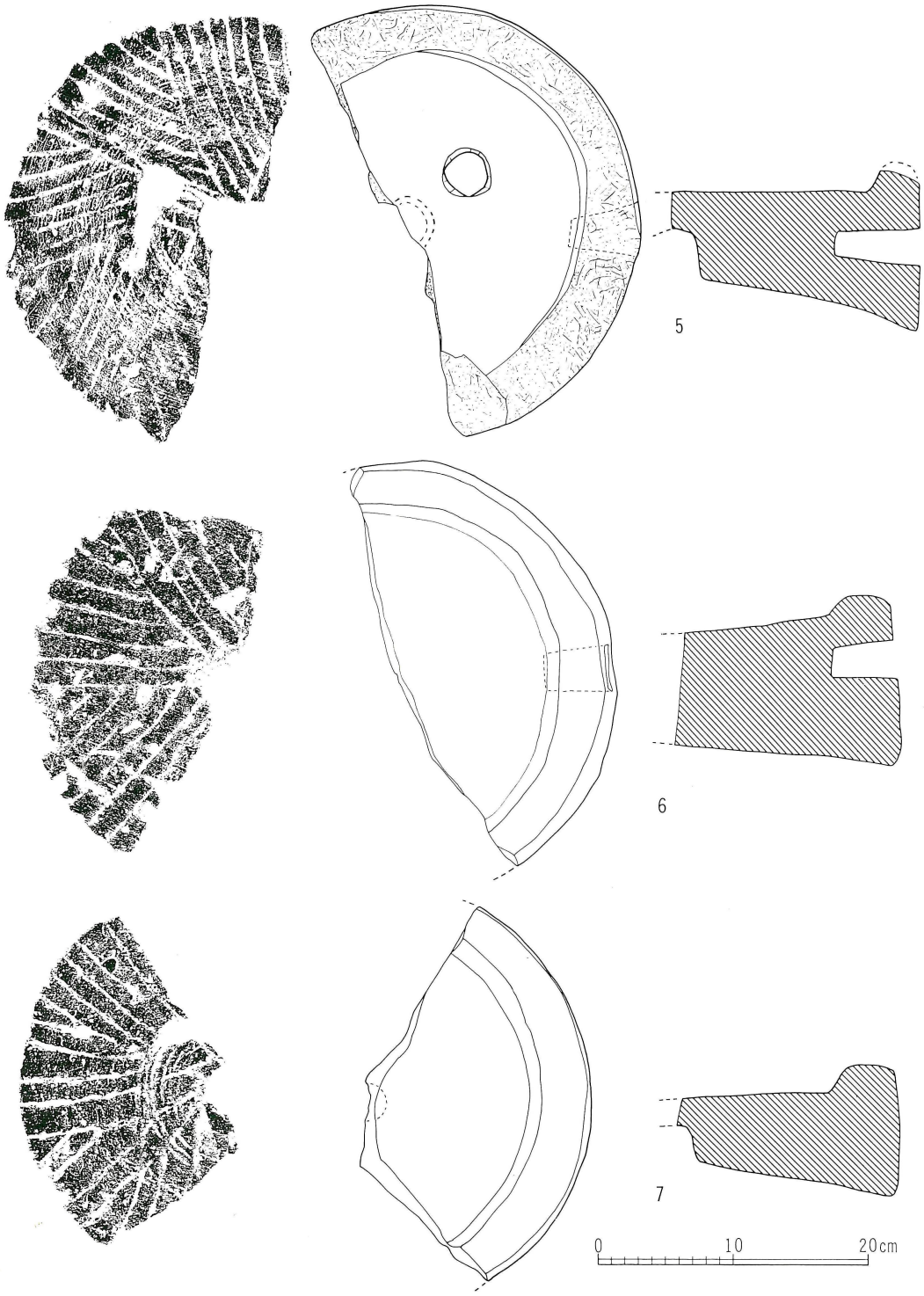
| 遺構番号 | 分画数 | 上臼 | 下臼 | 使用方法 | 直　径 | 高　さ | 石　質 | 図版番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＫ-143 | | ○ | | | | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＫ-148 | （８） | ○ | | 逆時計廻り | 34.0 | 13.4 | 緑色凝灰岩 | 第42-6 |
| ＳＥ-168 | | ○ | | 逆時計廻り | 32.0 | | 緑色凝灰岩 | 第42-7 |
| ＳＫ-170 | | | | | | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＫ-170 | | | | | | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＫ-174 | 8 | ○ | | 逆時計廻り | 34.2 | 12.5 | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＫ-176 | | | | 逆時計廻り | | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＫ-180 | | | ○ | | 32.0 | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＫ-185 | | ○ | | | 30.0 | 9.5 | 緑色凝灰岩 | 第41-3 |
| ＳＫ-222 | 7 | ○ | | 逆時計廻り | 30.0 | 12.5 | 緑色凝灰岩 | 第40-2 |
| ＳＫ-230 | （８） | ○ | | 逆時計廻り | (32.0) | | 緑色凝灰岩 | 第42-5 |
| ＳＫ-230 | | ○ | | | 30.0 | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＫ-234 | | | ○ | | 29.0 | 9.5 | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＫ-262 | 8 | | ○ | 逆時計廻り | 29.7 | 8.5 | 緑色凝灰岩 | 第43-9 |
| ＳＫ-271 | 8 | | ○ | 逆時計廻り | 32.9 | 13.0 | 緑色凝灰岩 | 第43-11 |
| ＳＫ-295 | | | ○ | | 30～32 | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＫ-361 | | ○ | | | 32.8 | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＥ-500 | | (○) | | | | | 緑色凝灰岩 | |
| ＳＥ-501 | 7 | ○ | | 逆時計廻り | 30.0 | 14.5 | 緑色凝灰岩 | 第40-1 |
| ＳＤ Ⅰ | 8 | | ○ | 逆時計廻り | 30.0 | 12.5 | 緑色凝灰岩 | 第44-15 |
| ＳＤ Ⅰ | | ○ | | | | | 緑色凝灰岩 | |
| 包含層 | （８） | | ○ | 逆時計廻り | 31.0 | 7.0 | 緑色凝灰岩 | 第43-8 |
| 包含層 | （８） | ○ | | 逆時計廻り | | | 緑色凝灰岩 | |
| 包含層 | | ○ | | | 32.0 | | 緑色凝灰岩 | |
| 包含層 | 8 | | ○ | 逆時計廻り | 33.0 | 13.5 | 緑色凝灰岩 | |
| 包含層 | | | ○ | | | | 緑色凝灰岩 | |
| 包含層 | | (○) | | | | | 緑色凝灰岩 | |
| 包含層 | | ○ | | 逆時計廻り | 32.0 | | 緑色凝灰岩 | |
| 包含層 | | ○ | | | (32.0) | | 緑色凝灰岩 | |



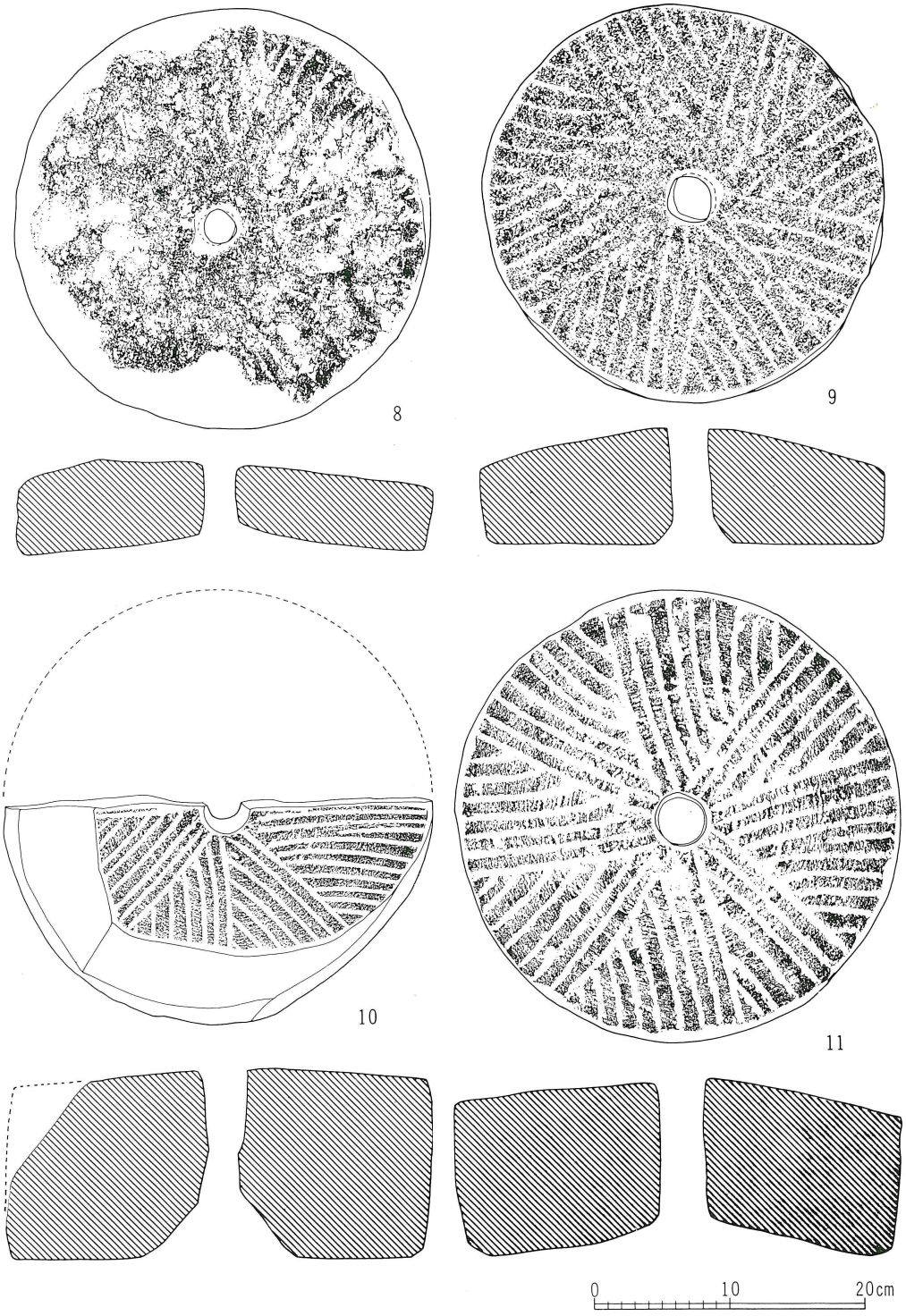

**第40図**　下莇生田畑田遺跡出土石臼実測図１（1・2）



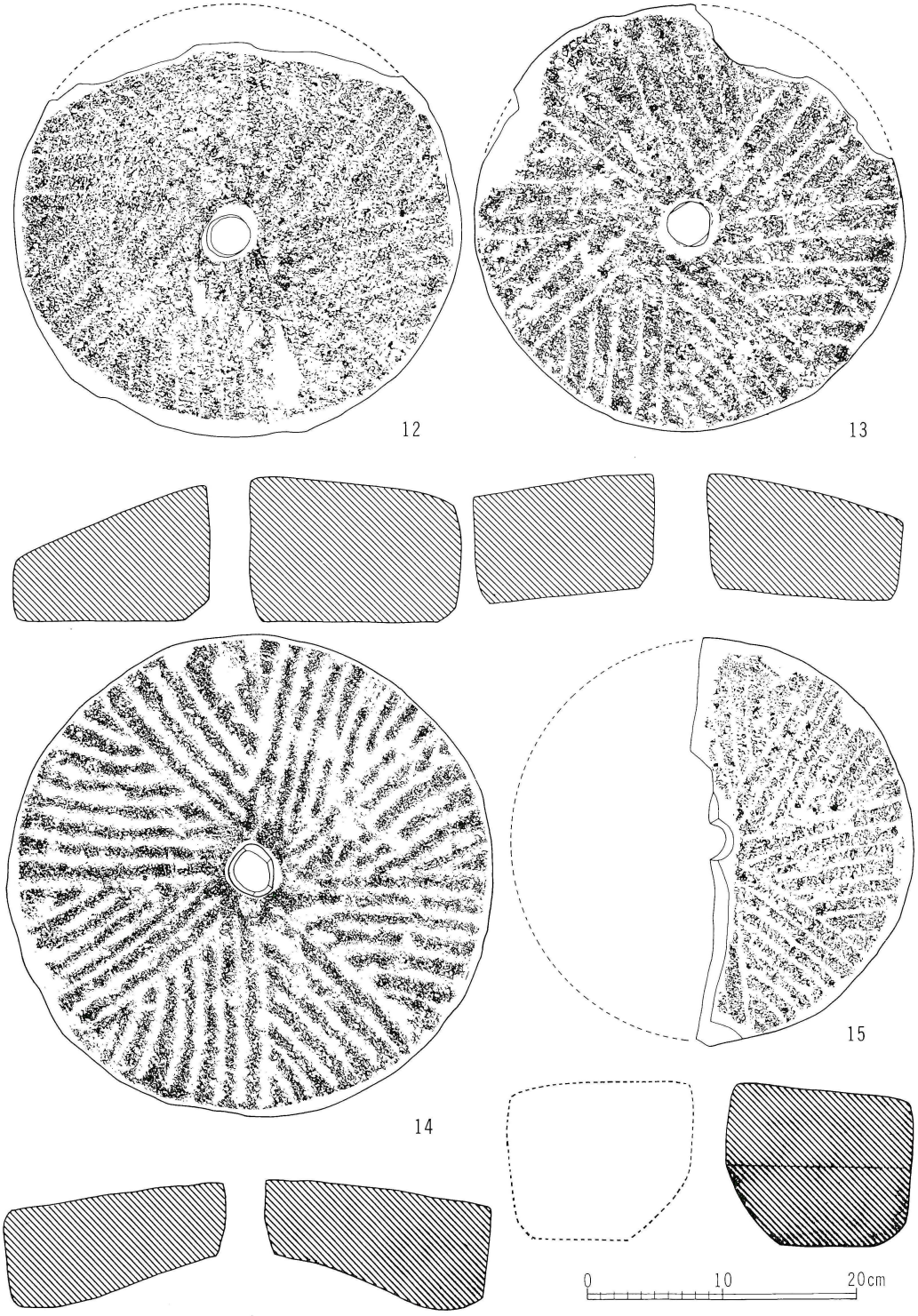

**第41図**　下莇生田畑田遺跡出土石臼実測図２（３・４）




**第42図**　下茨生田畑田遺跡出土石臼実測図３（5～7）




**第43図**　下莇生田畑田遺跡出土石臼実測図４（８～11）




**第44図**　下苅生田畑田遺跡出土石臼実測図５（12～15）

B）火炉（第45～47図・第48図 23～26）

火炉は、福井市を中心とする地域で、バンドコと呼ばれる暖房器具（アンカ）である。

ここでは、蓋9点、身17点を図示した。図示した以外にも火炉と考えられるものは多数あるが、小片のため、平面形が判別できず、取り上げなかった。

第10表火炉蓋一覧表

| 遺構番号 | 平面形 | 残り具合 | 長径 | 短径 | 厚み | 高さ | 炭の付着 | 図版番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK－011 | D | ほぼ完形 | 17.4 | 15.5 | 3.3 | 3.6 | 内面全面 | 第45図1 |
| SK－027 | 楕円 | 1/2 | (11.8) | 13.5 | 2.5 | 3.3 | なし | 第45図7 |
| SK－072 | D | 1/2 | (10.8) | 15.7 | 3.0 | 4.0 | 内外面一部 | 第45図5 |
| SK－084 | D | ほぼ完形 | 19.4 | 15.6 | 3.2 | 3.6 | 内面全面 | 第45図2 |
| SK－136 | 楕円 | 1/2 | (10.9) | (14.6) | 3.5 | 3.3 | なし | 第45図6 |
| SK－170 | D | 1/3 | (9.3) | (11.7) | 3.0 | 3.5 | 内面と外面の一部 | 第45図4 |
| 包含層 | D | 1/4 | (9.5) | (11.3) | 3.2 | 3.7 | 内面一部 | 第45図3 |
| 包含層 | D | 1/2 | (12.5) | (18.5) | 2.3 | 3.0 | なし | 第45図9 |
| 不　明 | 楕円 | 1/2 | (10.8) | 16.5 | 2.3 | 3.0 | なし | 第45図8 |

第11表火炉身一覧表

| 遺構番号 | 平面形 | 残り具合 | 長径 | 短径 | 厚み | 高さ | 炭の付着 | 図版番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| SK－033 | 楕円 | 2/3 | 24.7 | 18.3 | 2.8 | (9.3) | なし | 第48図28 |
| SK－038 | D | 1/2 | (10.1) | (18.7) | 2.3 | (8.8) | なし | 第46図10 |
| SK－072 | D | 1/4 | (10.7) | (11.1) | 3.5 | 3.6 | 前面･底部･外面全面 | 第47図19 |
| SK－082 | D | 1/2 | (11.3) | (16.1) | 3.5 | (7.0) | なし | 第46図12 |
| SK-77～79 | D | 1/3 | (9.0) | (16.5) | 2.3 | (7.8) | なし | 第47図23 |
| SK－084 | D | 1/4 | (11.7) | (10.8) | 3.1 | (7.5) | 前面一部 | 第46図14 |
| SK－084 | D | 1/3 | (7.2) | (13.7) | 3.3 | 14.3 | 側内面中位 | 第47図22 |
| SK－084 | D | 1/4 | (7.2) | (14.0) | 3.2 | (8.0) | 底部外面･側面一部 | 第47図24 |
| SK－143 | D | 1/7 | 21.0 | 15.0 | 2.0 | (7.0) | 底部外面全面 | 第46図15 |
| SK－144 | D | 1/4 | (12.7) | (8.0) | 2.0 | (7.0) | 底部内面･外面全面 | 第47図19 |
| SE－168 | 開口 | 3/4 | (18.5) | (14.8) | 4.0 | 18.5 | 内面一部･底部外面 | 第48図25 |
| SK－185 | D | 1/3 | (10.5) | (12.4) | 2.0 | (4.0) | 底部外面 | 第47図21 |
| 包含層 | D | 1/2 | (20.1) | (17.8) | (2.2) | (8.8) | なし | 第46図11 |
| 包含層 | D | 1/2 | (23,7) | 20.9 | 2.8 | (7.1) | なし | 第46図11 |
| 包含層 | D | 1/5 | (12.0) | (11.4) | 3.0 | (7.2) | なし | 第47図20 |
| 包含層 | D | 1/4 | (19.9) | (8.5) | (2.1) | 12.0 | なし | 第48図27 |
| 不　明 | 開口 | 1/8 | (12.5) | (8.8) | 4.5 | (6.6) | なし | 第48図26 |

形態は蓋（第45図1・2・4・5・9）・身（第46図10～15・第47図16～22）のようにD字形の平面形を呈するものと、蓋(第45図6～8)・身(第48図25・26)のように楕円形を呈するもの、さらに火炉（アンカ）として使用されたと考えるよりも、手焙りとしての使用方法が考えられ、一側面が大きく開口するもの（第48図23・24）の3つのタイプがある。

また、D字形においても、奥行きよりも幅が長いもの（第45図1・2）と奥行きが幅よりも長いもの（第45図9）の2つのタイプに分類することができる。一側面が大きく開口するタイプは類例が少ない。ここでは完形ではないが、おおよその形が窺うことができるもの（第48図23）と、口縁上辺部と考えられるもの（第48図24）の2点を図示した。

平面形は判別できなかったが、蓋の表面に十字の図形を線刻しているもの（第67図3）も図示した。図形が何を意味するかは不明である。

本遺跡では蓋と身の合計数がD字形のもの18点、楕円形のもの5点と、D字形の点数が3倍以上もある。これは、特に身において楕円形と判別できず取り上げなかったものもある。しかし、この点を考慮してもD字形の火炉が半数以上を占めることであろう。

C）その他の石製品（第48図27～29、第49図、第50図）

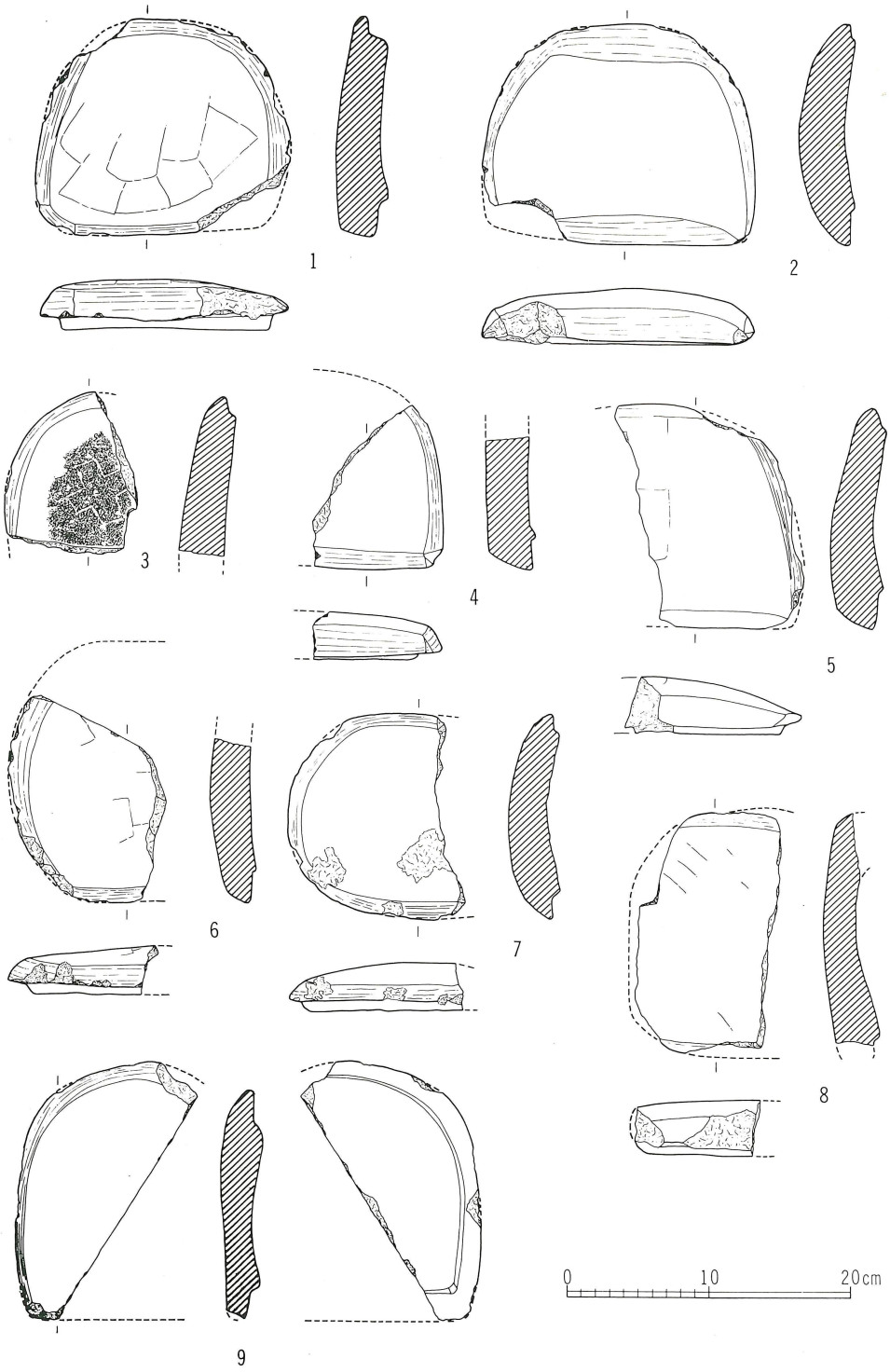
ここでは石臼・火炉以外のものをまとめて取り上げる。石質は砥石（第50図10～14）を除きすべて緑色凝灰岩である。

第48図27～29は石製の箱形容器である。火炉より小さく、形態も異なるため火炉とは別に取り上げた。27はＳＫ－131出土。奥行き6.0cmを残し、幅14.2cm、高さ8.7cmを測る。前面隅に脚2本を持つ。28はＳＫ－3出土。奥行き14.3cm、幅10.1cmを残し、高さ8.7cmを測る。前面に動物らしきものを線刻する。29はＳＫ－92出土。奥行き11.2cmを残し、幅13.6cm、高さ7.5cmを測る。中央に仕切りを作る。前面隅に脚2本を持つ。27～29の3点とも火炉と比較して、全体に作りが小さく、内外面ともに工具痕を残さないように調整されている。

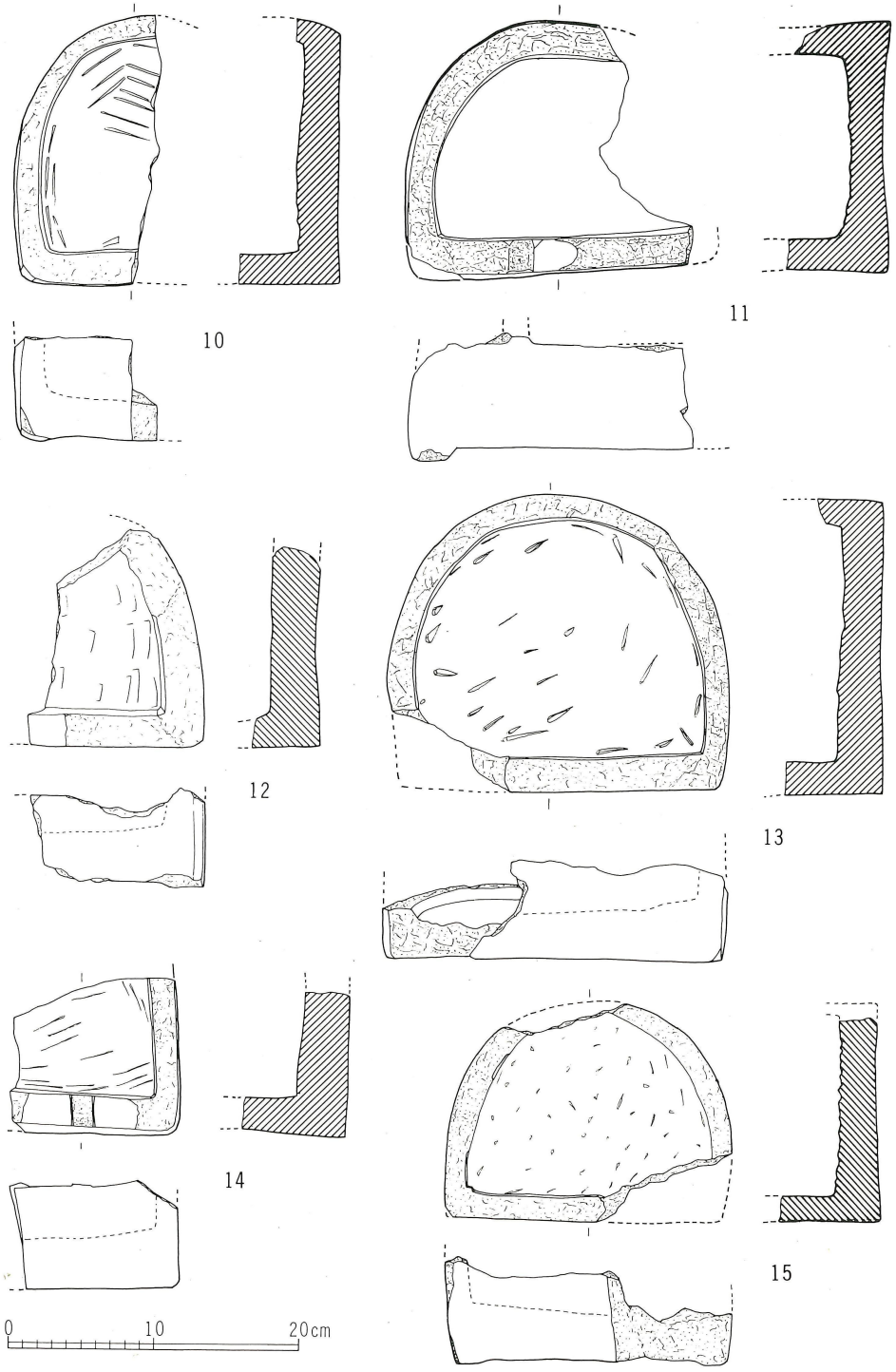
第49図１は平面形が扇形を呈する石製の容器である。ＳＫ－40出土。奥行き26.2cm、幅30.4cm、高さ13.6cmを残す。弧に当たる部分を前面とし、その中央に液体を注ぐ口のような切り込みを持つ。第49図２は灯火台である。ＳＫ－54出土。長径25.0cm、短径24.3cm、高さ16.0cmを測る。4脚のうち1脚を欠失する。上面の中央に凸部を残し、周囲を浅く掘りくぼめている。中央の凸部を中心に炭が付着しており、灯火の際、この部分に芯を置き、周囲に油をためていたのではないかと考えられる。

第49図３は組み合わせ五輪塔の火輪である。包含層出土。軒先の一辺が20cm、高さ13.1cmを測る。屋根に反りをもたせ、軒先をやや跳ね上げ、軒面を内側に切り落とす。頂部に上面形8.3cm、底面径5.1cm、深さ5.1cmの円形の孔をつくる。底面にも深さ1.8cmほどの落ち込みをつくる。隅の一部を欠失するものの、ほぼ完形品である。

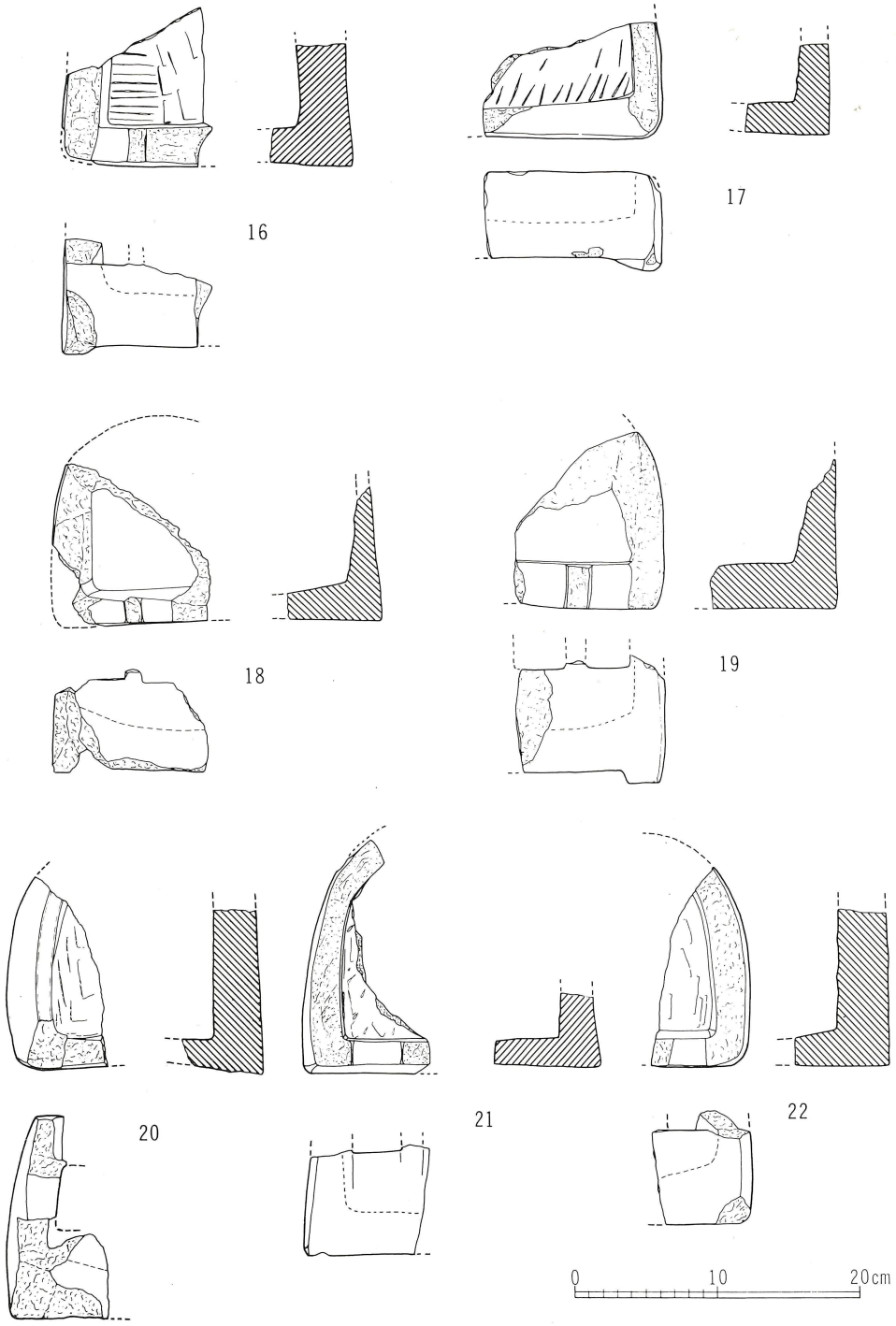
第49図４は組み合わせ五輪塔の水輪である。包含層出土。推定の上面径18.5cm、最大径24.5cm、下面径16.1cm、高さ16.0cmを測る。正円形の上下面を切り取った形を呈する。上下ともに浅い。



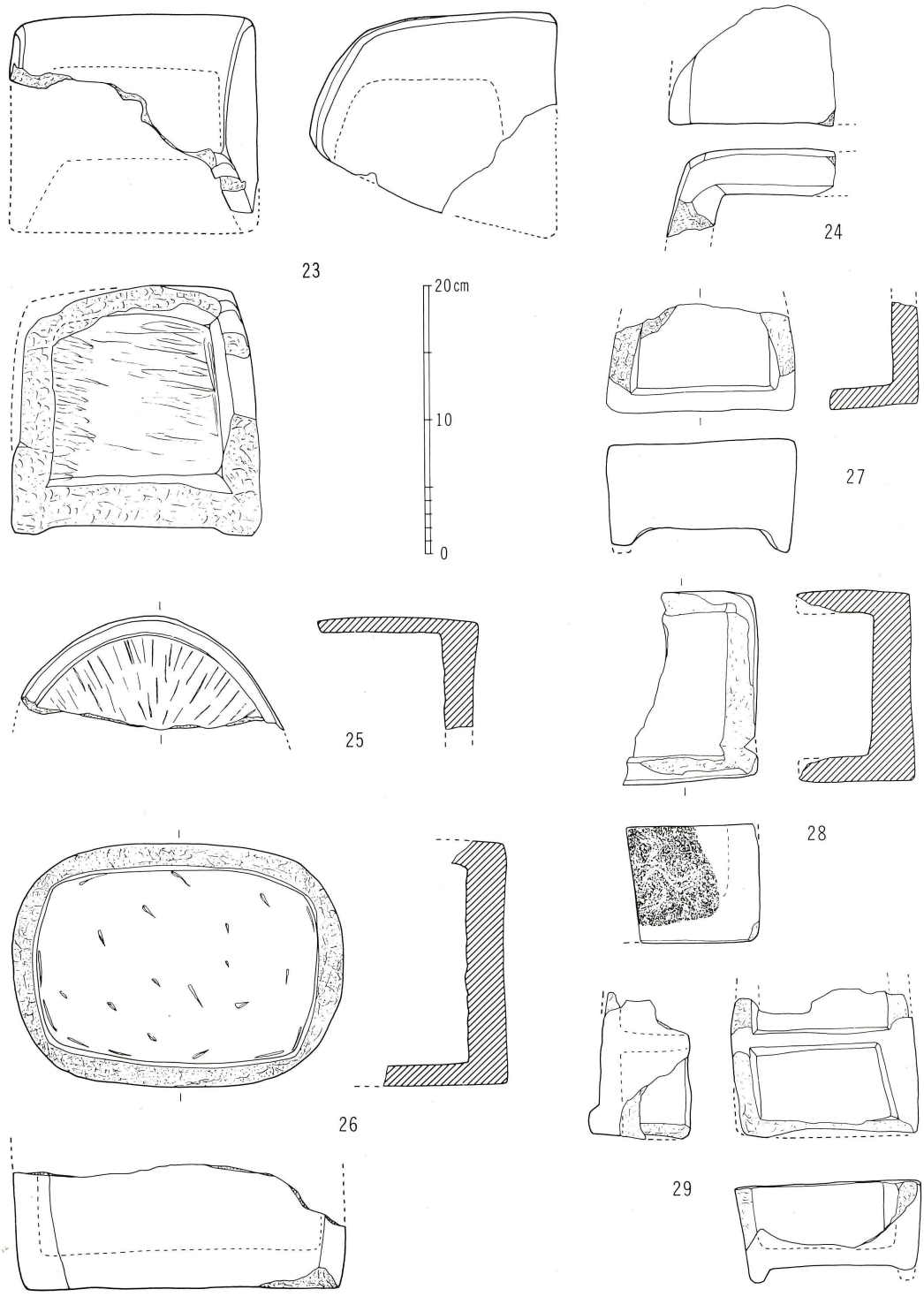

**第45図**　下莇生田畑田遺跡出土火炉蓋実測図（1～9）



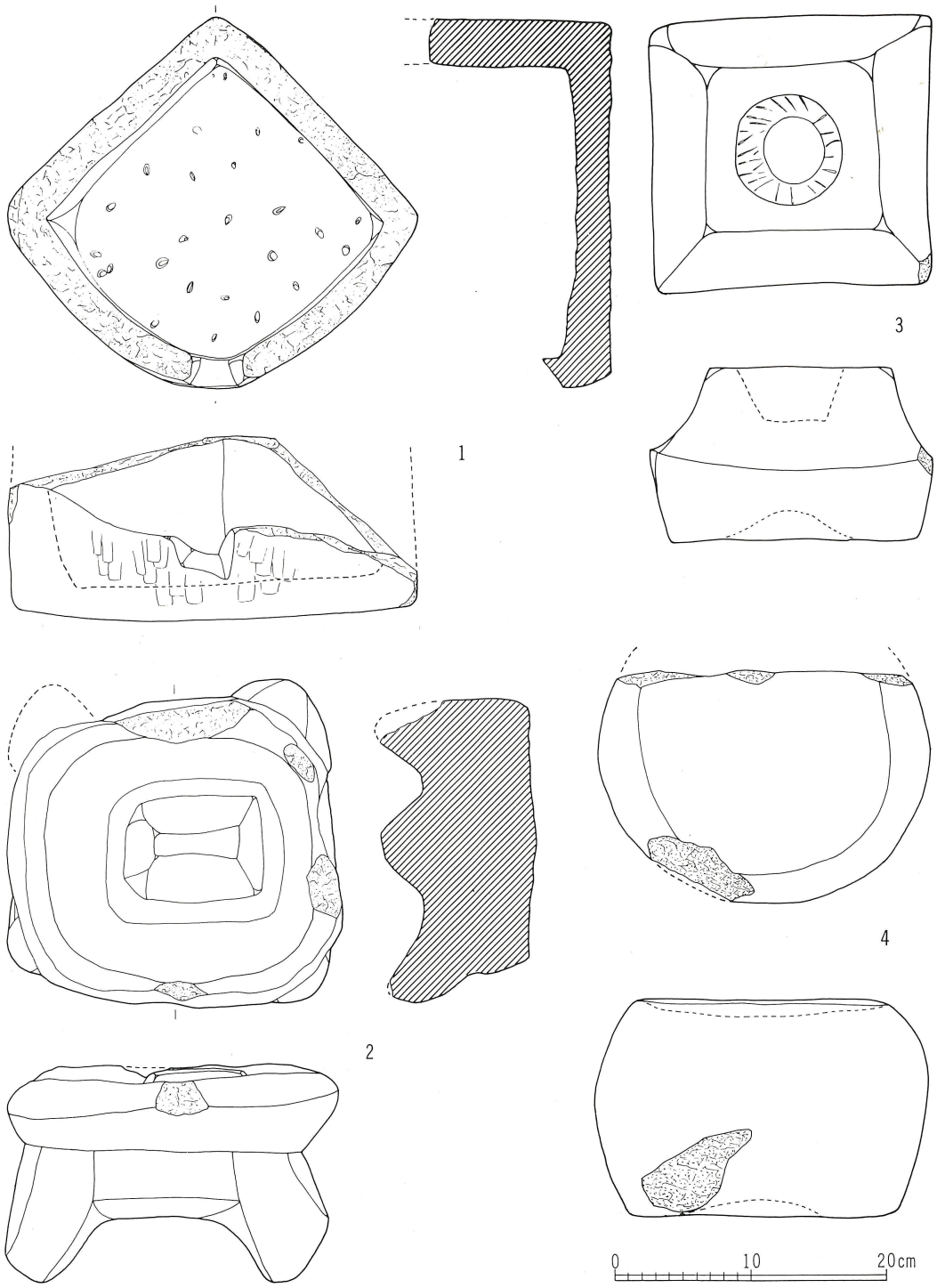

**第46図**　下莇生田畑田遺跡出土火炉身実測図１(10～15)



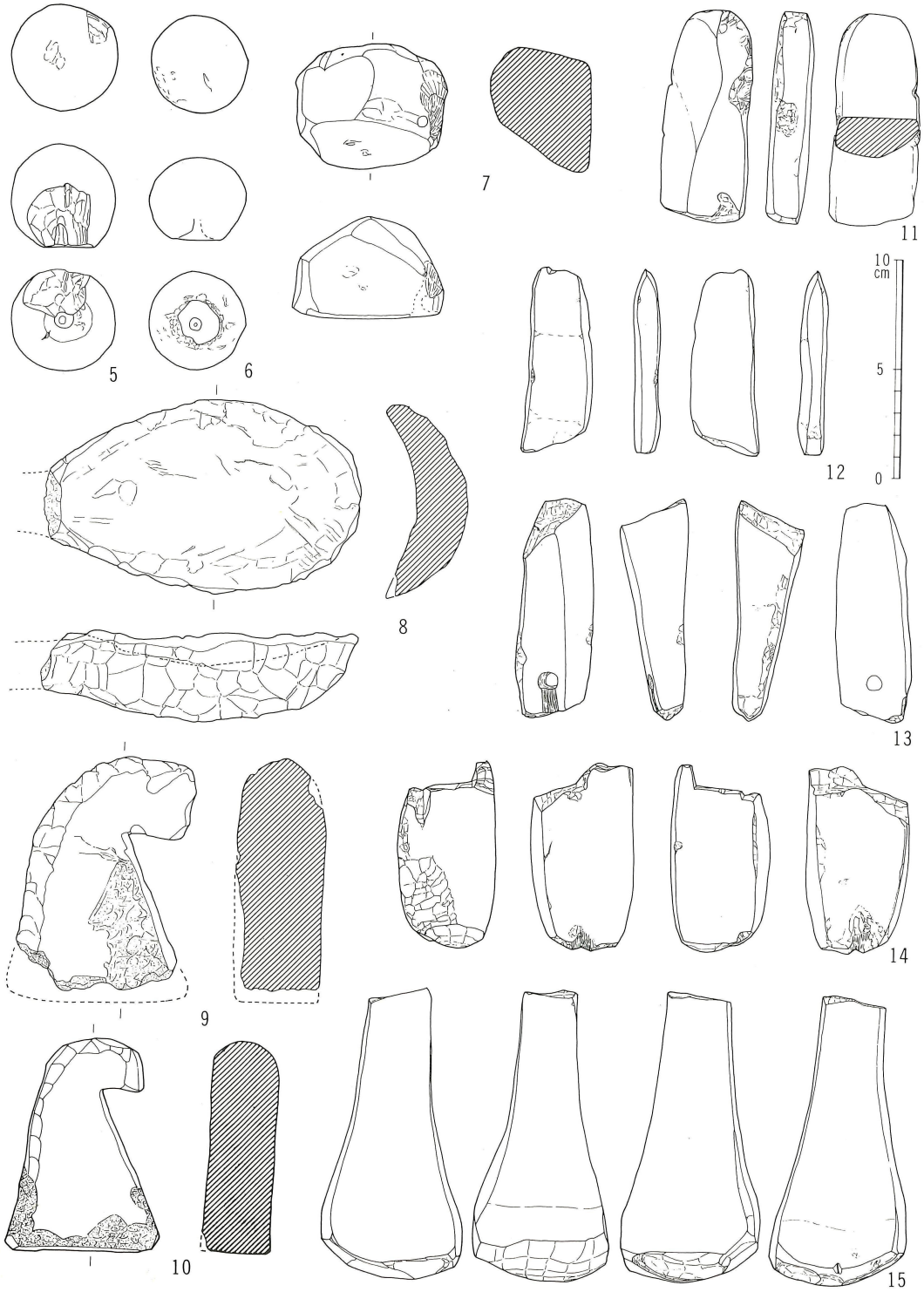

**第47図**　下莇生田畑田遺跡出土火炉身実測図２（16～22）




**第48図**　下莇生田畑田遺跡出土火炉・その他の石製品実測図（23～29）




**第49図**　下莇生田畑田遺跡出土その他の石製品実測図（1～4）




**第50図**　下莇生田畑田遺跡出土その他の石製品実測図（5～~~14~~）
15

落ち込みを掘りくぼめている。残存面での梵字は見られない。

第50図 5～8は不明石製品である。5はＳＫ－141出土。直径4.7cm、重さ120gを測る。6は包含層出土。直径4.4cm、重さ90gを測る。2点とも球形を呈し、１ケ所を切り取り、平坦面をつくって、その中央に深さ2cmの孔を穿つ。工具痕を残さないように全面調整されている。孔の部分に何かを差し込み使用する際の握りであろうか。7はＳＫ－139出土。長径7.0cm、短径5.8cm、高さ4.7cm、重さ200gを測る。一面に大きく平坦面をつくり、反対側との両面から穿孔して貫通させている。重りとして使用されたものか。8はＳＥ－142出土。スプーンの先端部に似た形態をする。長さ14.5cmを残し、幅9.8cm、厚さ2.5cm、重さ360gを測る。全体に調整が雑である。一方を欠失し、細かい取っ手のようなものがつくと考えられる。

第50図9・10はサルと呼ばれるものである。9は包含層出土。長さ10.6cm、幅7.5cm、厚さ4cm、重さ310gを測る。底部を欠失する。10はＳＫ－485出土。長さ9.9cm、幅7.1cm、厚さ3.2cm、重さ250gを測る。2点とも囲炉裏の中央に吊された鍋を安定させるため、鍋の縁にかけられ、重りとして使用されたものである。

第50図11～15は砥石である。他に小形品など、種類が多く点数も30点を越える。ここでは特徴のある5点を図示した。11は包含層出土。長さ9.7cm、幅4.0cm、厚さ1.8cm、重さ110gを測る。石質は細粒凝灰岩である。12はＳＫ－141出土。長さ8.4cm、幅3.2cm、厚さ1.3cm、重さ50gを測る。石質は細粒凝灰岩である。11・12の2点は断面がほぼ長方形になる板状の形を呈する。四側面とも使用する。13は包含層出土。長さ10.0cm、幅3.5cm、厚さ3.1cm、重さ120gを測る。縦断面がバチ状の四角柱を呈する。四側面とも使用されている。石質は細粒凝灰岩である。一端に孔を穿孔している。紐でぶら下げて使用していたものか。14はⅠ溝出土。長さ8.6cm、幅4.7cm、厚さ4.5cm、重さ250gを測る。縦断面が長方形を呈する四角柱を呈する。四側面と先端部に刃を立てて研いだような使用痕を認める。石質は細粒凝灰岩である。11は包含層出土。長さ14.3cm、最大幅6.3cm、最小幅2.9cm、重さ590gを測る。縦断面がバチ状の四角柱四側面と先端部の一部に使用痕を認める。石質は砂岩である。

図示した5点以外の砥石のいずれも、非常に平滑な使用痕をしている。砥石の出土数とあわせて、かなりの頻度を以て使用されていたものと考えられる。（赤沢）

木製品(第36図 25･26　第51図　第52図 1～8)

Ａ）漆器(第39図 25･26)

ほぼ全容が把握できるものが２点出土している。１点(25)は口径が11.2cm、器高が5.2cmで低い高台がつけられている。内面が朱漆、外面が黒漆で仕上げられており、外面の三方に二重円圏の中に楓の紅葉が朱漆で描かれている。他(26)は口径が12.7cm、器高が11cmで高台が高く、3cmである。前者と同様に内面が朱漆、外面が黒漆で仕上げられており、外面の三方の圏内に三つ巴が朱漆で描かれている。

B）柄杓(第51図 1･2)が2点出土している。ともに轆轤で挽いた杓の片側の中ほどに穿孔し、柄を貫通させて見込みの縁に突き立てている。貫通した柄は杓の中の端に穿孔され、ピン状に削られた木片で固定されている。これらの柄杓は井戸の底で出土している。

C）桶(第52図 1･2)が2点出土し、1点は手桶(1)で他は洗い桶(2)である。ともに竹製の箍が出土時点では遺存していたが、間もなく崩れた。手桶(1)は把手が両側の板を1枚ずつ長く延ばし、縦長の長方形の穴を開けて持ち手の棒を通している。この横棒の位置は桶の上端と横棒の加担が同じ位置にある。箍は上端から4cm程の所に二条、底板と同じ位置に一条巡らされている。桶の口径は22.6cm、器高が16.6cmで容量が3773ccである。洗い桶(2)は手桶に比べて浅く口径が広い。箍の位置は同様であるが、底板が3枚の板を竹串で連結している。口径が26cm、器高が12.8cmで容量は3136ccである。

D）独楽(第52図 3)は工具で丹念に削り出し、両端の尖った紡錘形をしている。片方の尖端に径2mmの穴を深さ7mmほど穿ち、木製の細い棒を差し込んでいる。棒は細いために片方の尖端を欠失している。独楽の長さは4.6cmで直径が4.1cmである。

他に轆轤で挽かれた蓋状のもの(第52図 4)があるが、用途については不明である。この直径が6.1cmで厚い天井に比較して直垂部が薄い。太い棒状のもの(第52図 5)は細い方の先端を欠いているが、もう一方の先端が頻繁に突かれたような痕跡がある。杭か杵のような用途を持っていた可能性がある。板状の3点(第52図 6～8)のうち板材としか判別出来ないもの(6･7)と台形の板に柄をつけたもの(8)がある。この台形の長辺部が刃状ではなく、土掘り具とは思われない。除雪用具の木製のスコップ（当地ではバンコと呼ばれる）のようなものであろう。

金属製品（第53図　1～12）

金属製品としては農工具・家具・武具・祭祀具等がある。

鉄鎌（1）は、現在草刈りに使用される鎌に酷似している。棟は薄く、柄とほぼ直角に装着される。装着部は、責金具で固定している。

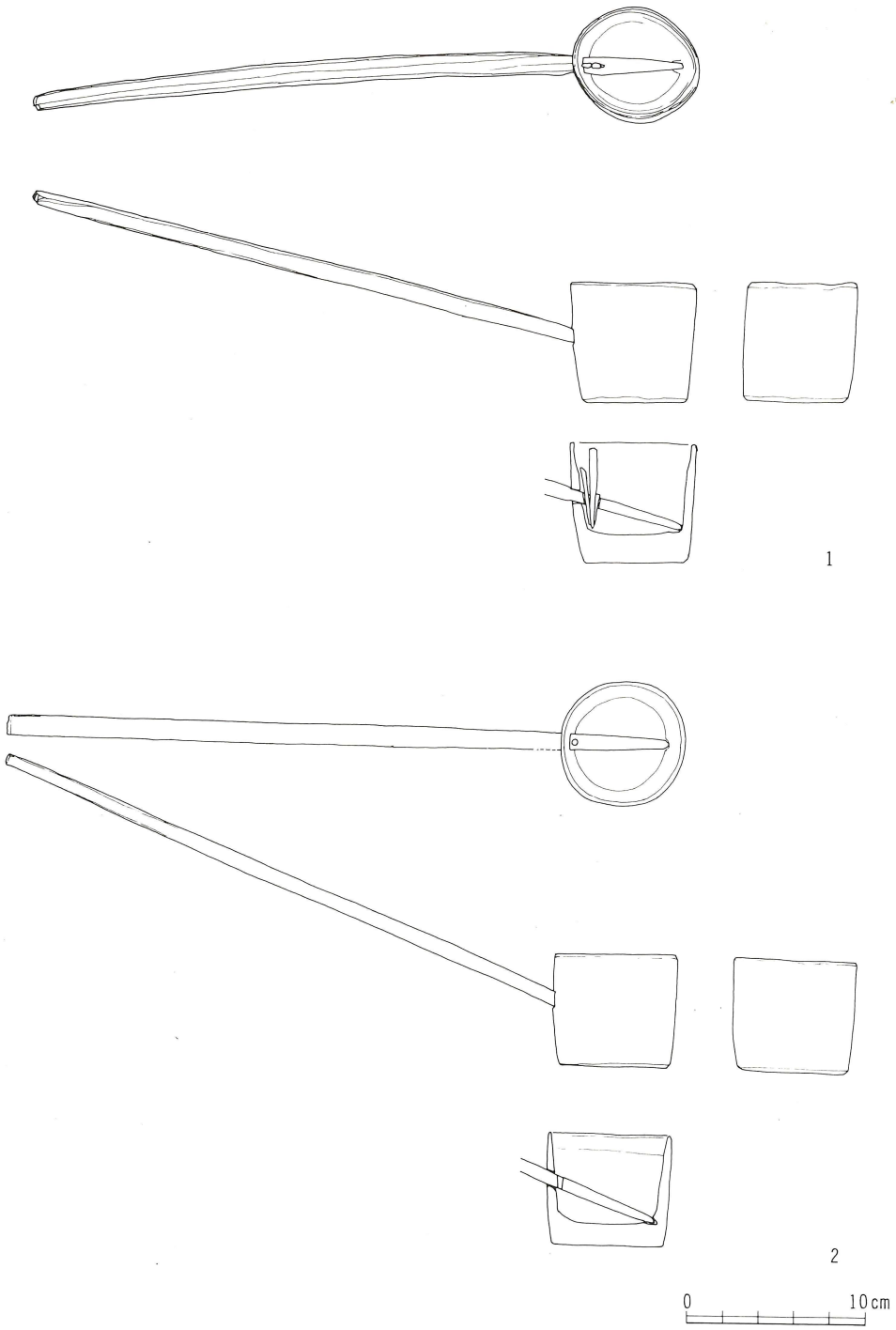
溝切り（2）は、鉄製品で形態的に用途を推定したもので正式の名称は不明である。柄との装着は、袋状にした装着部に柄を差し込んでいる。先端は焼き入れした状態が残り、錆がふいていない。使用時にはV字の削り痕を残すものである。

鉄の引手（3）は現在のたんすに使用されているものと同様である。釘（5･6）は、和釘とよばれる角釘である。他に鉄環を割りピン状の釘で挟んだもの（7）で、環は遊動式になっている。

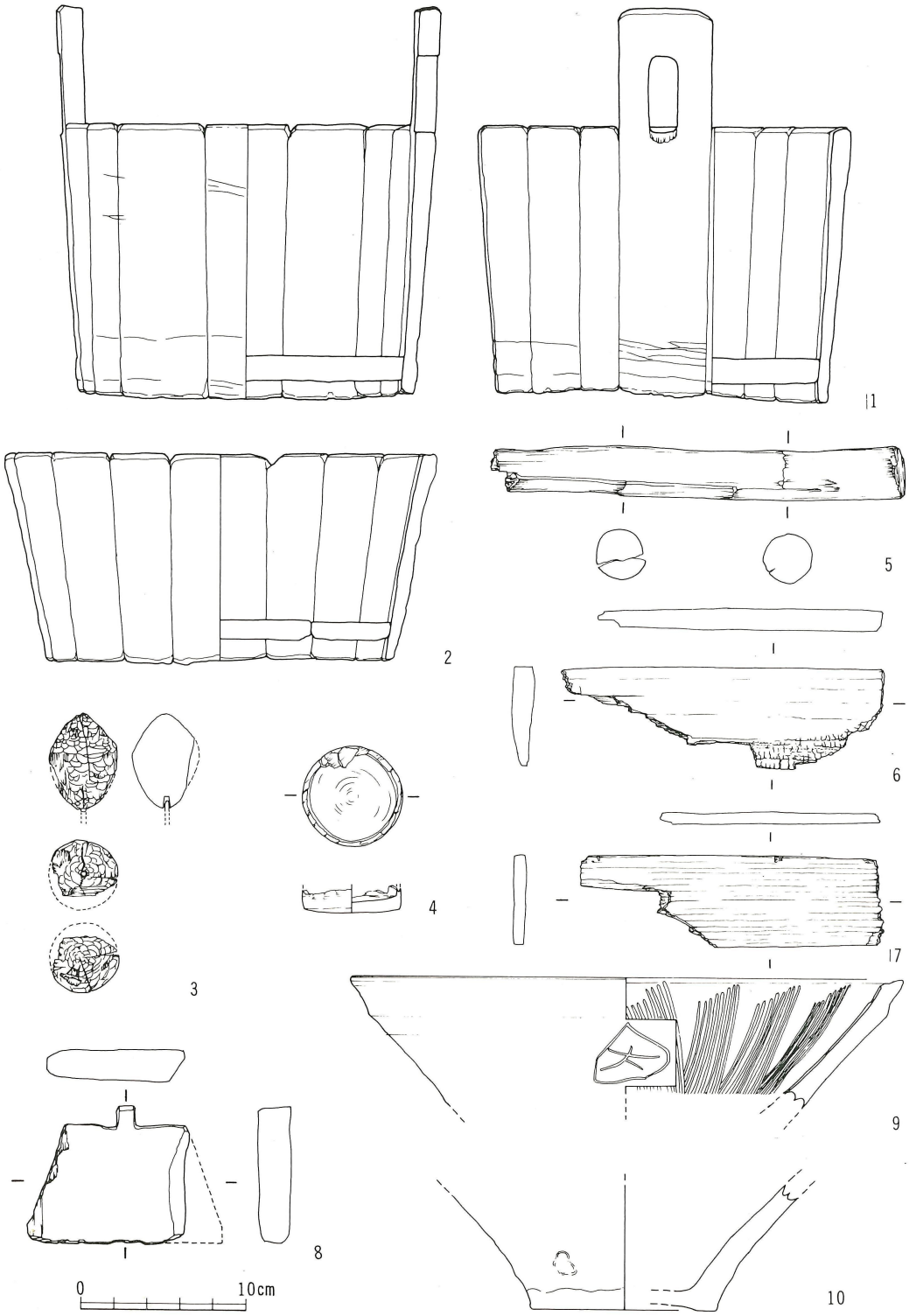
小把の袋（8･9）は、2点ある。ともに銅で鉄の刃の部分は欠失している。一点は表側に5本の平行沈線の飾りがある。

鉄の小札（10）と銅の鞐（11）は甲鎧に使用されたものである。

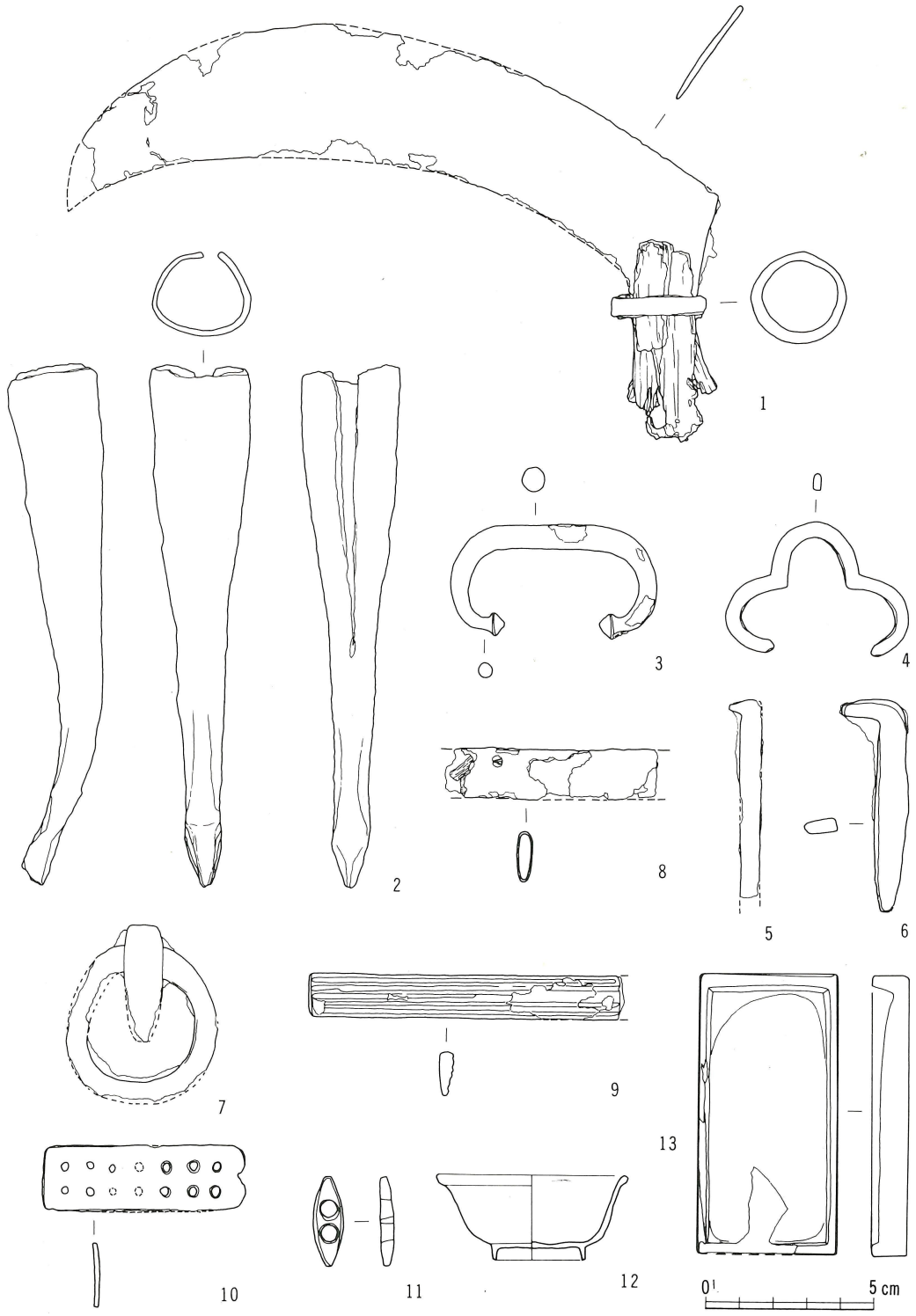
銅の六器は盃形で、本来仏具として使用されるものである。鞐と六器は、同じ柱穴から出土しており、地鎮具にしたのであろう。（山口）




**第51図**　下莇生田畑田遺跡出土木製柄杓実測図（１・２）




**第52図**　下莇生田畑田遺跡出土木製品（１～８）・越前焼（９・10）実測図




**第53図**　下莇生田畑田遺跡出土金属製品（1～12）・石硯（13）実測図

この他に土製品ではないが家屋の土壁が火災などの火を受けて焼土化した塊もある。これらは拳大の大きさに壊れているが、厚さ5cm程の板状を呈している。この中心にはコマイを結った壁らしくサスの痕跡を残こし、表面は平面に仕上げられている。一時的な建物を推定するにしても簡単な小屋がけ程度のものではなっかたのであろう。

この他には36号井戸から出土した握り飯がある。これは多くの焼けた茅と木材の中にあり、完全に炭化している。そのために米粒の一粒が判別出来るほどに保存状態が良好である。

本遺跡出土の遺物は律令期と中世末期から江戸時代初期という2時期の集中した状態である。先の上莇生田遺跡江跨・八ケ坪・塚町地区から出土した律令期の須恵器と同様の時期であり、9世紀を相前後する時期に相当するものであろう。

中世末期遺構の遺物は、生活臭の漂うものが多くあったともに茶器の大量の出土を見た。これらの中には近接する地である瀬戸美濃製品を凌駕する大量の九州地方の陶磁器があり、新たに開窯された唐津伊万里製品が日本海側に大量に出回っていたことを示しているのであろう。それまでの中国朝鮮製品の代替品としての需要の大きさを推定することができる。

遺跡が立地する条件として平安時代以降中世末までの空白があり、長期間におよぶ生活の場となりえない何等かの理由があったのであろう。

特に中世末期から江戸時代初期にかけての遺跡の在り方は農村村落の通有の遺物組成とは思われない多くの茶器が一時的にしか使用の耐えない井戸から出土している。一般的の農村村落の発掘例は管見に触れる例は見当たらず、推定の域を出ないが、戦国末期の越前守護朝倉氏の滅亡と続く柴田勝家の滅亡という混乱期の中で茶の湯を楽しむような農村の風景を想像することは難しいであろう。（山口）

参考文献

久保智康 篠尾廃寺北陸の古代寺院ーその源流と古瓦 資料編 北陸古瓦研究会編 桂書房1987 2 20
特別展『近世城館出土の陶磁』愛知県陶磁資料館 1984 10
古唐津展ー肥前陶器の歴史と美を探るー 佐賀県立博物館1968 10 7
大橋康二 北海道から沖縄まで 国内出土の肥前陶磁 佐賀県立九州陶磁文化館 1984 10
尻八館調査報告書 尻八館調査委員会 1981 3 26
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第81集 有田·小田部 第2集 福岡市教育委員会 1982
西谷 正 九州·沖縄出土の朝鮮産陶磁器に関する予察 九州文化史研究所紀要第28号 1983 3 31
同氏より本遺跡出土のものが他に比較して焼きが弱いとの教示があり、国産品の可能性を指摘された。
特別史跡 朝倉氏遺跡発掘調査報告Ⅰ－朝倉館跡の調査－ 福井県教育委員会 1979
川村俊彦 莇生田遺跡出土のおにぎりについて 福井考古学会会報 第3号
莇生田遺跡調査慨報（Ⅰ）福井県教育委員会 1981
莇生田遺跡第Ⅷ次調査慨報（Ⅱ）福井県教育委員会 1982

## 第４節　小結

本遺跡における遺構については第２節において詳述したが、それぞれの関係については不明な部分が多く家屋とそれに伴なう井戸、それらを連絡する通路の関係は明らかではない。

今回の調査では旧河道として上莇生田遺跡第Ⅰ次調査、上莇生田遺跡八ケ坪・塚町地区、上莇生田遺跡江跨地区でも検出している旧河道が検出されており、旧河道内における遺物の時期、出土状況は同様である。これは旧河道に伴う自然堤防上に立地する莇生田遺跡遺跡群の一つであったことを示している。

今回の調査では、いままでとちがい江戸時代の遺構が多く検出された。

これらを現時点で一応の復元を試みるならば、下莇生田集落の東端にある白山神社の北に下莇生田集落とは水田をはさんで隣接した１haほどの微高地があった。微高地には村の鎮守の白山神社から北方にのびる幅１ｍほどの道が水田の中をのび、そこには砂利が敷きつめられている。

道は微高地に入り左右に分かれる。道のつきあたりと、西側には建物がたち、東へのびる道の西側にも建物がたっていた。左へ分かれた道は北にむかってまがっている。建物の戸数は不明であるが、土壁や萱茸の家もあり数度の建替えがおこなわれていたと思われる。江戸時代の遺構の存続期間については詳細な遺物の検討の後に考えられるべきものであろう。

今回の調査地区における大きな疑問は井戸にある。構造については前述した如く、素掘りという極めて単純なものであった。５４基の井戸すべてがそうであり、その数の多さには調査面積に対してあまりにも多い。このことは井戸が短日にて崩落し、使用不能となったために新たな井戸を掘ることになったためと思われる。しかし、毎回崩落をくり返す井戸を掘り続けることがあったのであろうか。

近年明らかになってきた福井市城戸内町にある一城谷朝倉氏遺跡内の町屋群において小さな町屋が連続する地区では、一戸に対して一基付けることが基本となっている。ここでは井戸を掘りなおすことはなく、井戸を構造的に石積、井戸枠等で補強している。又、福井市曽万布町曽万布遺跡では井戸の底付近を曲物の井戸枠で補強している。この例からみるならば、井戸を恒常的に掘り続ける理由は見あたらず、長期間に同一の井戸を使用しようとする意識が感じられない。

しかし、一時的な水利用のための井戸と、長期間使用する井戸との差異はこのような構造的な差異だけで把握することの確信はないが、現状では本遺跡で検出した井戸が短期間しか使用されなかったことは確かなことである。

これらの疑問は遺物の検討とともに解決されることであるが、遺物からの検討では長期間の永続的な生活の様子は伺うことは出来ない事と、遺物組成が一般的農村村落のものではないと思われる。

ここで敢えて推定するならば茶の湯等の通常の農村の生活とはかけ離れた行事が一時的に開催され、その都度仮の茶室のようなものと井戸を掘っていたのかもしれない。短期間に立て替えの頻繁な建物、異常に多い簡便な井戸はその為であろう。　（山口）

# 第Ⅴ章　下莇生田筆付遺跡（しもあぞうだふでつけ）

## 第１節　調査経過

１　調査の概要

福井市下莇田町字筆付と福井市大町字畠田にある。

福井市街地の南にある下莇生田町は上莇生田町の西に隣接し、下莇生田畑田遺跡などが集落を覆っていると言っても過言ではないであろう。

今回調査を実施した下莇生田筆付遺跡は、下莇生田町の集落の西端にあり、西北にある大町地係の水田にまで及んでいる。

調査地は、東から西に流れる大町川の北に平行して新たに大町排水路となる予定地で、ほぼ長さ100ｍある。

調査区の設定は、東西に長い調査地を西端から東へ10ｍ毎に１～１０区とした。幅は、ほぼ４ｍである。６区には、農道が一部かかっており、調査中も共用されていたために発掘は不可能であった。終了後の調査区は、字筆付で長さ41.5ｍ、幅5.5ｍ、字畠田で長さ47ｍ、幅6.0ｍとなり、510.25ｍ$^2$を発掘調査した。

２　調査日誌抄

１９８１年（昭和５６）年

９月１０日　本日より筆付地区での現場調査を開始した。

９月１１日　大町畠田にある１～５区の精査を開始した。

９月１４日　１～５区の遺構を掘り下げ作業をほぼ終了した。５区の東端から、大きな溝を検出した。

９月１６日　１～５区上層の遺構の写真撮影をした。

９月１８日　１～５区上層の遺構を実測し、平面図の作成をした。

９月１９日　１～５区下層の掘り下げを開始した。

１０月　１日　１～５区下層の遺構検出をほぼ完了した。

１０月　２日　１～５区下層の遺構の写真撮影と実測をし、平面図を作成した。

１０月　６日　１～５区の壁面を清掃し、断面図の作成をした。

１０月　７日　６～１０区の精査を開始した。

１０月１０日　７区で大きな弧状の溝を確認した。

１０月１５日　７区で確認した弧状の溝を境に８・９区では遺構、遺物は確認されなかった。

１０月１７日　６～１０区の遺構を清掃し、写真撮影をした。

１０月１９日　６～１０区の遺構を実測し、平面図と断面図を作成した。

１０月２０日　下莇生田筆付遺跡での調査をすべて終了し、発掘器材を下莇生田高畔遺跡に移動した。


**第54図**　下苅生田筆付遺跡発掘調査区位置図

# 第２節　遺構

１　遺跡概説

下莇生田筆付遺跡は、福井市下莇生田町字筆付と一部福井市大町字畠田に広がっており、１～５区の大町畠田地籍では、上下２層に遺構の検出面をもっていた。

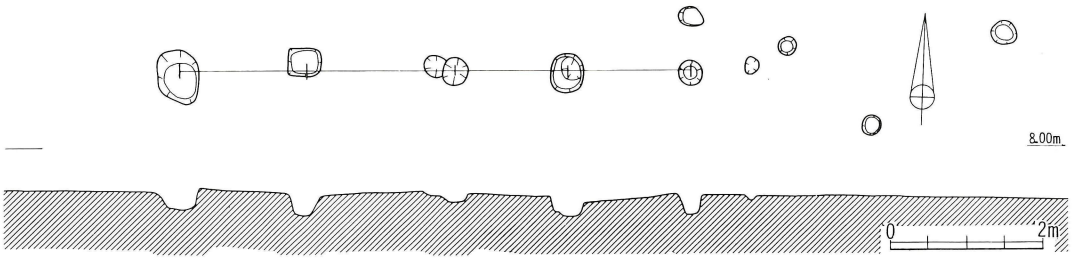
上層では、11個の柱穴状の掘り込みと、井戸１基、土壙１基、溝１条が検出され、下層からは柱穴７個、土壙３基、溝１条が検出された。６～９区では、検出面が一面で１～５区の下層に対応する面であった。この区間で検出した遺構は土壙１基、溝２条であった。

１～５区までの上層の遺構は、表土（耕土）と、その直下の灰色土を除去した後に検出した薄い堆積の黄褐色土の上面で検出し、下層の遺構は、上層の遺構検出面の下にあった暗褐色土を除去して検出した。６～１０区では、上層に対応する面はなく、暗褐色土の除去後に検出した。

２　遺構各説

ＳＡ－００１（第55図）

上層の１区から２区にかけて検出した直線上に並ぶ柱穴状の掘り込み６個で、やや東を北に振っているがほぼ東西方向に延びていた。西から３個目の掘り込みは、２個が一部重複しており、柱間は、４間であった。柱間寸法は、5.6尺等間で全長6.72ｍであった。掘り込みの形状は、方形、円形、不定形とまちまちではあるが、径0.5ｍ内外で、深さが0.2～0.3ｍほどであった。他に５個の柱穴状の掘り込みがＳＡ－００１の東端にあったが規則性もなく、性格は不明である。



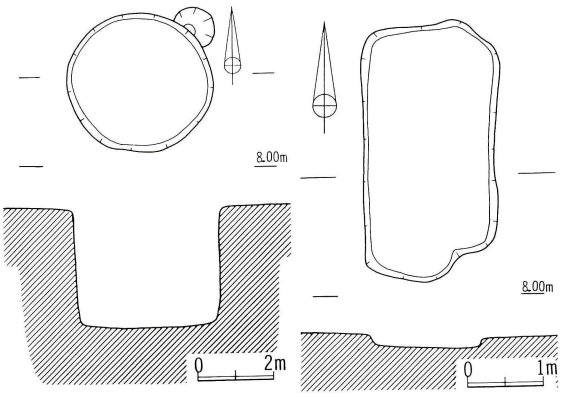

**第55図**　ＳＡ－001実測図

ＳＥ－００２（第56図）

上層の３区で検出した直径１ｍの掘り込みで、ほとんど垂直に0.8ｍの深さまで掘込まれている。底面はシルト混りの砂層に達しており、曲物などの井戸側の施設が無いものの井戸として充分に可能であり、調査時においても豊富な水量を保有していた。

ＳＫ－００３（第57図）

上層の５区と６区の境界上で検出した土壙で、9ｍ、長さ1.7ｍ、深さ0.15ｍの南北に長




**第56図**　ＳＥ－002実測図　**第57図**　ＳＫ－003実測図

くあった。肩は垂直に近く、壙底は平坦であった。底面に密着して完全に近い須恵器の杯が出土し、他にも数点の土師器・須恵器が出土した。

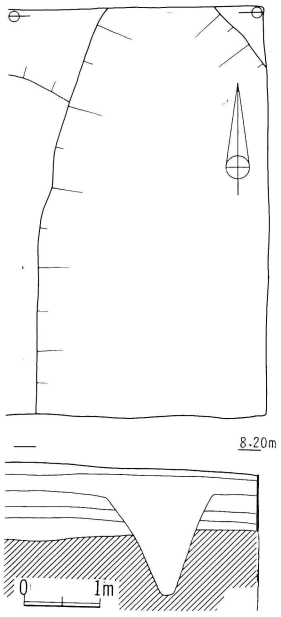
ＳＤ－００４(第58図)

上層の５区で検出した大きく深い溝状遺構で、東側が共用中の農道の下に在り、確認できなかった。西の肩口の方向は、ほぼ南北に延びていたが、調査区内の北端で東の肩口の一部が検出され溝の幅が極端に狭められていることが確認できた。調査区内では長さ5.42ｍが検出できた。

須恵器が僅かに出土しているが、時期的には不明な点が多く、須恵器より、大きく下る時期のものと思われる。

上層からは全面にわたり、土師器、須恵器の細片が出土しており、耕作等で相当の攪乱があったと思われる。

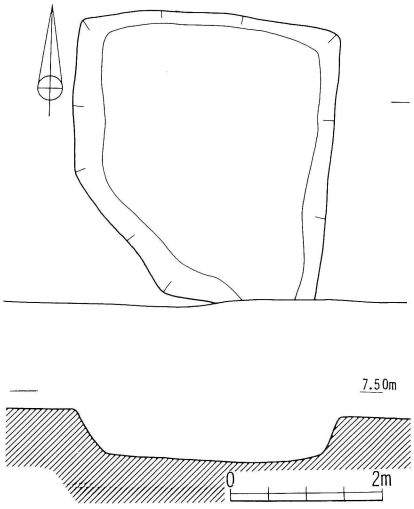
下層から検出した遺構は、１区と２区にわたる不定形の落込み（ＳＫ－００５）と、２区東側の落込み（ＳＫ－００６）、３区から５区にのびる溝状遺構（ＳＤ－００７）、４区で溝状遺構と重複する土壙（ＳＫ－００８）、５区の柱穴列（ＳＡ－００９）である。これらの遺構の性格は、不明なものが多かった。




**第58図**　ＳＤ－004実測図

ＳＫ－００５(第59図)

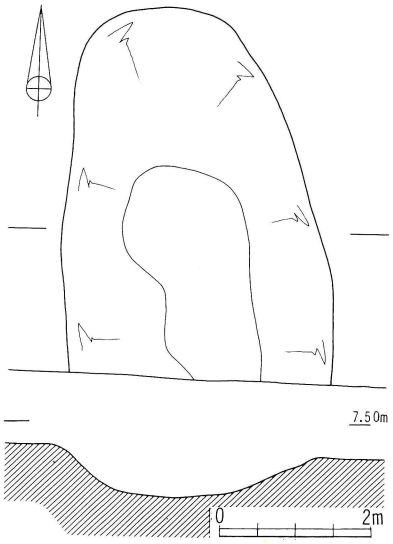
下層の１・２区にまたがって検出された不定形の土壙である。平面形は、１辺3.5ｍの方形に近いが、南西の隅が欠け、五角形で、南辺が、調査区外にあって確認できなかった。深さは0.7ｍで、壁が、垂直に近く立ち上がり、平坦な壙底をしていた。




**第59図**　ＳＫ－005実測図

ＳＫ－００６(第60図)

下層の２区の東よりで検出した南北に長い土壙である。南半は、調査区外にあって、確認は不可能であったが、検出した部分では、幅1.8ｍ、深さ0.32ｍで、長さは2.5ｍ以上であった。壙底は、凹凸があり、壁も緩く傾斜していた。




**第60図**　ＳＫ－006実測図

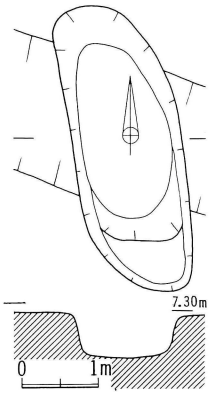
以上、２基の落込みは性格が不明で遺物もほとんど出土しておらず、わずかな遺物から推定はできないが、現代に近い遺物の出土はなく、後世の攪乱等を想定することは、無理であろう。

ＳＤ－００７(第61図)

下層の２区から５区までで検出した溝状遺構である。

２区の中ほどの北辺から４・５区の境の南辺まで延びており、東をやや南に振った東西方向の溝である。

調査区内では長さ22.47ｍが検出できた。上端の幅は、最大1.27ｍ・最小0.67ｍで平均1.0ｍであった。溝底は、浅皿状でほとんど深さを計測しえない部分もあり、0.10～0.29ｍで西に向かって0.10ｍ下降している。溝底には、金属分の集積が著しく、非常に固くなっている。これは、溝が埋まった後に浸透しにくい溝底上に金属分を多量に含む地下水が流れたためにおこったと思われる。



**第61図**　ＳＫ－008 実測図

ＳＫ－００８(第61図)

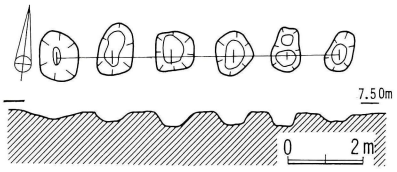
下層の４区中央で検出した土壙である。

土壙は、南北に長さ1.8ｍ、幅0.7ｍで、巾を同じくして長さ1.6ｍの下段があった。上端からの深さは下段まで0.3ｍ、上段では0.1ｍであった。

ＳＡ－００９(第62図)

下層の４区の北半で検出した柱穴状の掘り込みの列で直線的に６個あった。

掘り方は、径0.45ｍを前後する不正円形で深さが深いものでも0.2ｍまではない。これらは、2.5尺毎に等間隔にあり、同一の意図のもとに掘り込まれたものと思われる。



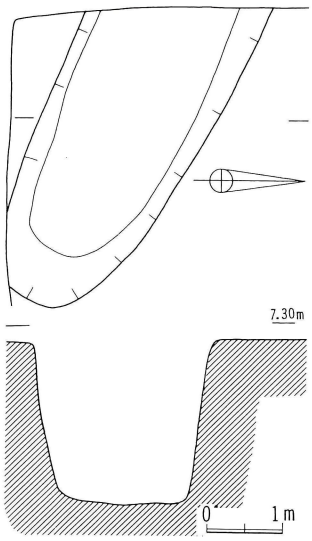
**第62図**　ＳＡ－009実測図

ＳＫ－０１０(第63図)

６区の東北隅で検出した土壙である。

土壙は、西側の一部が共用中の農道の下にあったために、長さは不明であったが、幅は1.1ｍ、長さが現状で２ｍ以上、深さが１ｍを超えていた。

土壙の長軸は、西北西から東北東に方向にむいており、漆黒色の粘性の強い土が充満していた。壙底は、深く砂層にまで達しており、湧水が激しかった。



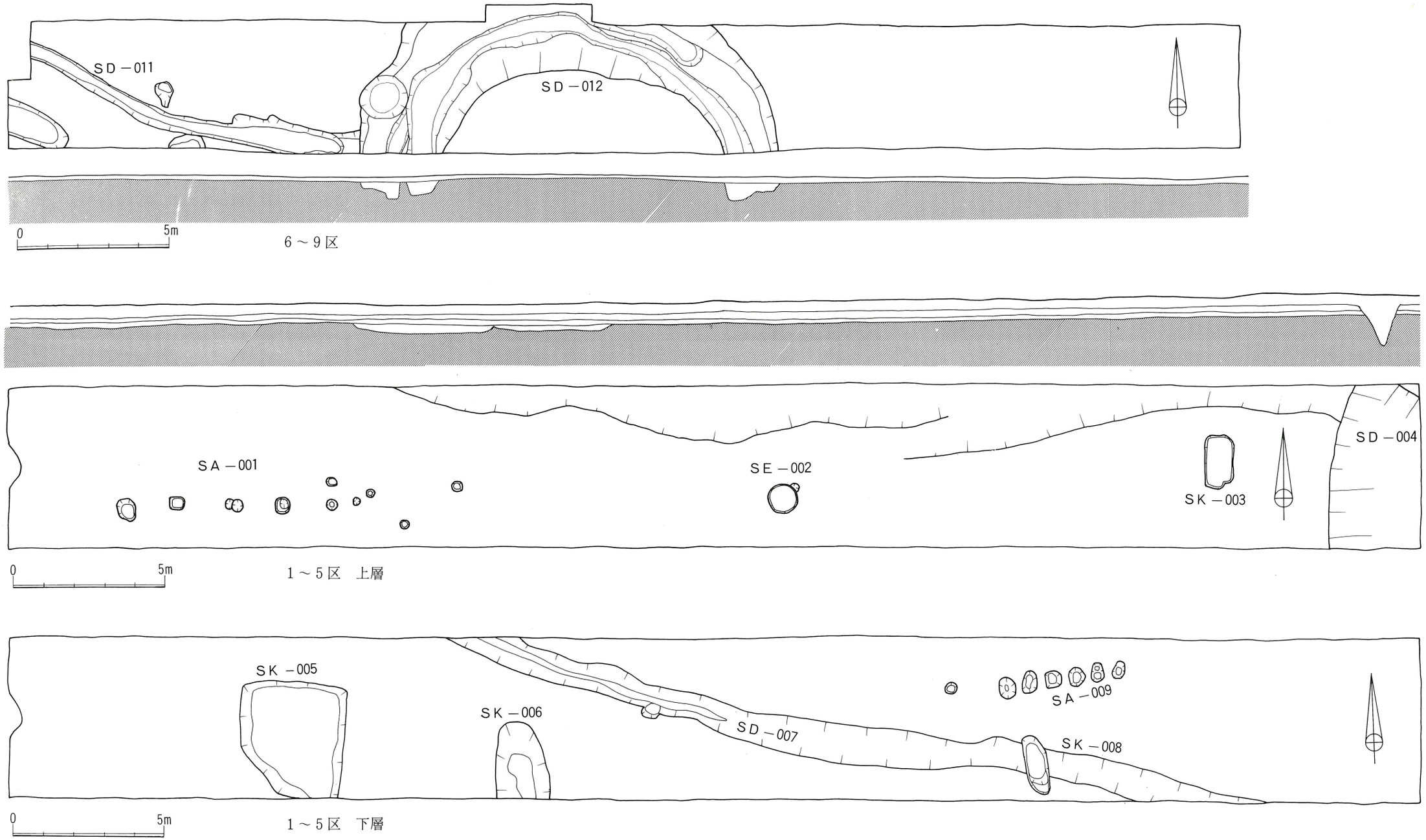
**第63図**　ＳＫ－010実測図

ＳＤ－０１１(第64図)

６区の東端から７区にかけて検出した溝状遺構である。

６区の東端から、東南東に1.0ｍほど延びて緩やかに東に曲がり、７区から９区にかけて検出した弧状の溝状遺構(ＳＤ－０１２)に東端が重複している。調査区内では、長さ10.92ｍが検出できた。

上端の幅は、最大1.07ｍ・最小0.45ｍで平均0.5ｍほどであった。



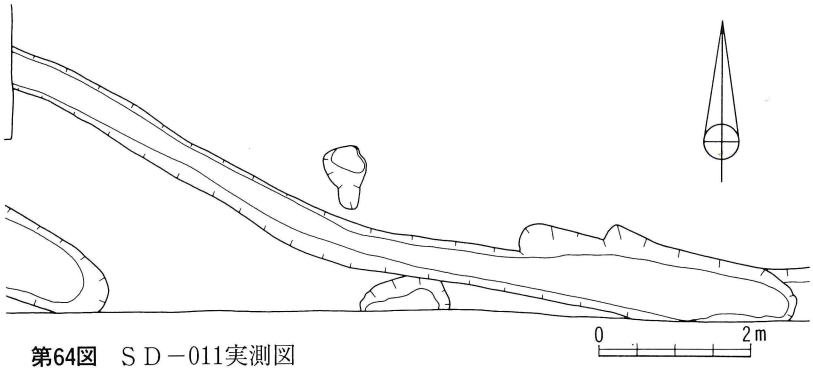

**第66図**　下茨生田筆付遺跡遺構全体図

深さは、0.08～0.27ｍほどで溝底の傾斜に方向性がなく、水の流れた痕跡は無かった。

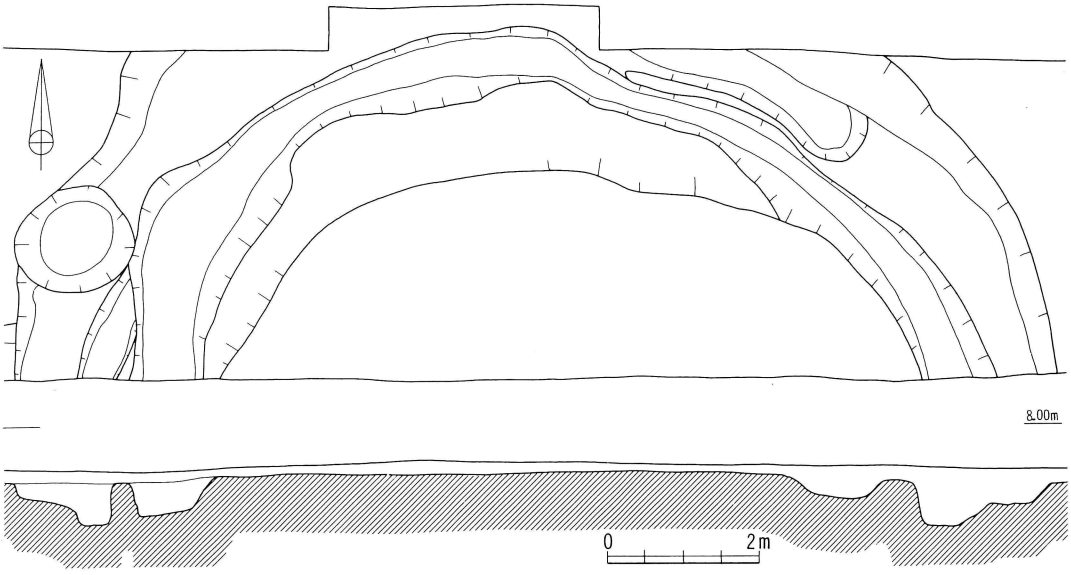
ＳＤ－０１２（第65図）

７区から９区にかけて検出した弧状の溝状遺構である。半円形の溝は二重になっており、外側の溝の幅がひろく浅く、内側の溝の幅が細く深くしている。７区にかかる部分では、外側と内側の溝がはなれ、その間に細く深い別の溝が１条ある。８区には検出した半円形の溝の大半がある。内側の溝は、調査区内では、長さ14.30ｍが検出できた。溝の内側が垂直に近い肩をもち、深いところでは0.92ｍ・浅いところでは0.56ｍであった。幅は、最大1.52ｍ・最小0.45ｍで1.0ｍを前後しているが底面では細く、最大0.92ｍ・最小0.20ｍを前後していた。外側の溝は、調査区内では内側の肩口で長さ16.60ｍが検出できた。肩がなだらかで深さが0.28～0.46ｍで、重複した幅は、最大2.57ｍ・最小1.80ｍときわめて不安定である。９区では内側、外側の深さが近づきつつあるがなお内側の溝が深い。この２条の溝をうめていた埋没土は、内側の溝に漆黒色の粘性の強い土で、外側には、それよりもやや黒色の淡い粘性の強い土が主体なっていた。両方の溝とも、底面では砂層に達しており、湧水がはげしい。これらの埋没土からは水流の痕跡は確認できなかった。

（山口）




**第64図**　ＳＤ－011実測図




**第65図**　ＳＤ－012実測図